

日本語の接続表現の研究―逆接の接続助詞を中心として―

金勝漢

目次

序論 ー 研究目的及び構想 ー…………… 一

第一章 日本語の接続表現の諸相…………… 四

一 本章の目的及び叙述方法…………… 四

二 接続と接続の概念…………… 五

三 用言の活用形による接続表現…………… 一五

四 並列助詞による接続表現…………… 二一

五 接続助詞による接続表現…………… 三九

六 接続詞による接続表現…………… 五〇

七 体言の形式化による接続表現…………… 六九

八 本章のまとめ…………… 八二

第二章 「が」と「のに」との比較をめぐって

一 はじめに…………… 八八

二	「が」「のに」の構文と主節の文末表現……………	八八
三	「が」「のに」と従属節……………	九四
四	「が」「のに」と独立性……………	九六
五	「のに」構文の特徴……………	九九
六	まとめ……………	一〇二

第三章 「ものの」構文をめぐって・「が」構文との比較を中心に

一	はじめに……………	一〇五
二	「ものの」の従属節……………	一〇五
三	「ものの」構文の主節の文末表現……………	一〇八
四	「ものの」構文の意味と用法……………	一一一
五	「ものの」の慣用的用法……………	一一一
六	まとめ……………	一二二

第四章 「ながら（も）」構文の意味・用法について

一	はじめに……………	一二四
---	-----------	-----

二	「ながら」節の形態的特徴……………	一一四
三	「ながら」節の述語の種類と逆接……………	一二六
四	「ながらも」構文の意味……………	一三六
五	まとめ……………	一三九

第五章 「つつ（も）」構文の意味・用法について

一	はじめに……………	一四一
二	「つつ」節の述語……………	一四二
三	「つつ」構文の意味と用法……………	一四四
四	「つつ」構文と逆接……………	一四九
五	「つつ」構文の意味と用法……………	一五五
六	まとめ……………	一六一

第六章 「のに」構文の意味・用法について

一	はじめに……………	一六四
二	「のに」節の述語的部分の特徴……………	一六五

三	「のに」構文の主節の文末表現……………	一六八
四	「のに」構文の意味……………	一七一
五	「のに」構文と共起表現……………	一七七
六	「のに」構文の主節の語彙特徴……………	一八〇
七	まとめ……………	一八二

第七章 「とはいえ」構文の意味・用法について

一	はじめに……………	一八五
二	「とはいえ」節の述語と形態的特徴……………	一八五
三	「とはいえ」構文の主節の文末表現……………	一九〇
四	「とはいえ」構文の意味と用法……………	一九七
五	「とはいえ」構文と副詞……………	二〇二
六	まとめ……………	二〇五

結論……………	二〇八
参考文献……………	二一八

序論 — 研究目的及び構想 —

一・一 本論文の目的

接続表現はいろいろの諸要素をつなぎ合わせて、もつと大きな成分を作る役割をしている。

日本語において接続表現として扱われる語は数・種類ともに多く、その分類も学者によって様々である。対象とする語句や研究方法も様々で、接続表現の概要を把握することは難しい。本研究では、第一章で接続表現の全般について考察し、問題点を整理して、この分野の全体像を示すことを目的とする。これによって、今後、接続表現研究のための一定の基盤を与えることができると思う。

日本語の接続表現の中でも、逆接の接続助詞の場合、「が・けれども・のに・ものの・ながら(も)・つつ(も)・にもかかわらず・とはいえ」などの類義表現の相違点をうまく説明するのは並大抵のことではない。日本語の母語話者の場合は、このような類義表現を直感的に使い分けることが出来るが、日本語教育では、このような日本語の類義表現の類義点と相違点を文法的に説明しなければならない。類義表現の使い分けは、日本語教育において、大きな課題の一つである。本論文の第二章―第七章では、第一章の研究成果を基にして、日本語の逆接の接続助詞の意味と用法について考察する。

一・二 本論文の構成と概観

本論文の構成は次のようになっている。

まず「第一章 日本語の接続表現の諸相」では、日本語の接続表現に関する諸問題を総合的に考察する。「接続の概念」、「接続表現の類型」、「用言の活用形による接続表現」、「並列助詞による接続表現」、「接続助詞による接続表現」、「接続詞による接続表現」、「体言の形式化による接続表現」などを取り上げる。

第二章では、「が」と「のに」の構文の意味・用法の比較が中心になっている。「が」「のに」の構文と主節の文末表現、「が」「のに」と従属節、「が」「のに」と独立性、「のに」構文の特徴などについて述べる。第三章では、「ものの」従属節、「ものの」構文の主節の文末表現、「ものの」構文の意味と用法、「もの」の慣用的表現などについて考察する。

第四章では、「ながら」節の形態的特徴、「ながら」節の述語の種類と逆接、「ながらも」構文の意味などで構成されている。

第五章では、「つつ」節の述語、「つつ」構文の意味と用法、「つつ」構文と逆接、「つつも」構文の意味と用法などについて述べる。

第六章では、「のに」節の述語的部分の特徴、「のに」構文の主節の文末表現、「のに」構文の意味、「のに」構文と共起表現、「のに」構文の主節の語彙特徴などについて考察する。

第七章では、「とはいえ」節の述語と形態的特徴、「とはいえ」構文の主節の文末表現、「とはいえ」構文の意味と用法、「とはいえ」構文と副詞などについて述べる。

最後に、「各章のまとめ」において、本論文によって明らかになったことをまとめ、今後の課題についても簡単に述べることにする。

本論文に用いられた用例は、主に新聞、小説、雑誌から取ったものであり、場合によっては、用例事典、文法書などから取ったものもある。特に、新聞から取った用例が多かった。これにより現実的な言語現象を反映させることができると考える。

第一章 日本語の接続表現の諸相

一 本章の目的及び叙述方法

一・一 本章の目的

文・文章はいろいろな要素の集まりである。文は諸成分の集まりであり、また文章は文または連文の集まりである。接続はいろいろの諸要素をつなぎ合わせる役割をしており、また諸要素との緊密な関係を維持している。即ち、諸要素の接続によって文・文章が成り立っているとも言える。接続を研究することによって、文・文章を構成している諸要素の研究に役に立つ手掛りが得られると思われる。「接続表現」を研究課題として取り上げた理由が、ここにある。

接続の機能を担っているもの、すなわち接続詞や接続助詞なども、一つの単語である以上、意味を持っているとともに、構文上の機能が託されている。それにもかかわらず、日本語の接続関係の研究は、構文論の立場による研究は少なく、意味的に研究されてきたと言ってもよいであろう。

接続表現の体系的な研究のためには、構文論と意味論の研究を同時に行わなければならないと思われる。今までの意味に重点を置いた研究を基盤とし、それにあわせて構文での研究も進めることにする。

日本語の接続表現の全体の輪郭を確かめることは、接続表現のより細かな研究、さらには体系的な研究に役に立つと考えられるので、日本語の接続表現のそれぞれの分野の全体的な特徴を考察することが本稿の目的である。

一・二一 本章の叙述方法

- ① 「二」では、文法学で用いられている接続・接続語・接続成分・接続表現の意味を調べて、本稿での接続・接続語の定義を決める。また文法論における接続成分についても調べる。
- ② 「三」では、用言の活用形（連用形）による接続表現について考察する。
- ③ 「四」では、並列助詞の諸学説を考察し、その分類を試みる。
- ④ 「五」では、接続助詞に関する主な学説を調査し、諸学者の接続助詞の分類についても考察する。
- ⑤ 「六」では、日本語の接続詞に関しては、様々な学説があるので、それらの諸学説を考察する。また諸学者の接続詞の分類についても考察する。構文的な観点によつて、接続詞の分類をも試みることにする。
- ⑥ 「七」では、体言の形式化による接続表現にはどんな型があるかを考察する。体言は場合によつては、本来の体言としての機能を失つて、接続の機能を果たすものに転じた場合がある。これらの分類をも試みることにする。

二 接続と接続の概念

二・一 接続の概念

日本語の文法学の分野で、「接続」という意味は幅広く用いられている術語である。日本語辞典では、「接続」の意味を、「つづくこと。つながること。つなぐこと。」のように説明している。文法学の分野において、「つづく・つながる・つなぐ」という意味は、どういふものをさしているか、を調べることにする。

塚原鉄雄（一九六九：六八～六九）は「連接の論理」で、

「接続と呼称される第一の概念は、隣接する二個の文法単位が、一個の単位を構成するとき、両者に異質的な次元が介在する場合に、後続単位が先行単位に接続するという。

そして接続と呼称される第二の概念は、隣接する二個の文法単位が、一個の単位を構成するとき、両者に異質的な次元が介在しない場合に、後続単位が先行単位に接続するという。

さらに、第三の概念は、隣接する二個の文法単位が、一個の単位を構成するとき、両者が、対応関係を構成する場合に、後続単位が、先行単位に接続するという。」

のように説明している。

塚原の接続に関する第一の概念は、自立語に付属語「助詞・助動詞」が繋がるものである。第二の概念は、助動詞「べし」に、助動詞「めり」が接続して、「べかめり」になるように、付属語に付属語が接続するものである。「春」に、接尾辞「めく」が接続して、「春めく」となるようなものも、第二の概念の「接続」として、取り扱っている。

また、塚原は、「第三の接続は、接続助詞とか接続詞とか、あるいは、接続語とかに使用される接続という術語の概念である。」としている。

橋本四郎（一九六七：一六三）は「接続助詞と接続語」について、

「文法学の分野で接続というのは、大別して二つの場合に限られるようである。

その一つは、助詞や助動詞がどんな語もしくは活用形に下位するかという場合である。これは文節内部における接続関係である。他の一つは、語と語、句と句、文と文が前後に並んである意味関係を保つ場合である。接続詞・接続助詞の「接続」がこれに当たる。」

のように述べている。

本稿での接続は、塚原の「第三の概念の接続」と、橋本の「語と語、句と句、文と文が前後に並んである意味関係を保つ場合の接続」である。つまり、「接続助詞・接続詞」などの「接続」である。

二・二 接続語

日本語の文法の研究で、接続語はどういうものを意味するか、を調べることにする。

接続語というのは、『日本文法大辞典』の記述^(註1)によれば、

「文の成分の一つ。語と語、句と句、文と文を結び合わす働きを有する成分。たとえば、「犬および猿」「美しくかつ青い」「青いからきれいに見えるのだ」「雨が降ったら行くのをやめる」「学生なら学生らしくしなさい」「雨が降った。だから街が静かなのだ。」「彼は学生だ。だが一向に勉強しない。」などがそれであろう。

(以下 中略)

また並立語というものを拡張して考えようとする立場からは、「および」や「かつ」はむしろ並立語のほうに入れるべきではないかということが主張されるであろう。

(以下略)

のようである。

以上の記述からわかることは、接続語というのは、前の語や句や文を受けて、後の語や句や文をつなぎ合わせるものである。つまり、接続語は接続助詞と接続詞を指しているのである。また「『犬および猿』『美しくかつ青い』……などがそれであろう。」という記述は、「および・かつ」のような、いわゆる並立語も接続語に含まれているという考え方であろう。しかし、「また並立語というものを拡張して考えようとする立場からは、『および』や『かつ』はむしろ並立語のほうに入れるべきではないかということが主張されるであろう。」という記述は、「および・かつ」というような語は、接続語とは別に並立語と認める立場であろう。

換言すれば、「および・かつ」のような並立語までを含める考え方は「広義の接続語」であり、「および・かつ」のような並立語を接続語から取り除いた考え方は、「狭義の接続語」であるといえよう。

本稿での「接続語」は、「広義の接続語」すなわち並立語まで含めたものである。

二・三 接続成分

渡辺実氏は、『国語構文論』で、日本語の「各種成分」について、詳しく説明している。まず、渡辺（一九七一・四一）は、文の成分を、

「成分とは、素材表示の機能と関係構成の機能との、職能的結合体である。」

のように説明している。

また、渡辺実(一九七一…四〇四)は構文論的職能を基準として、文の成分を、

各種成分
┌ 体言＋各種助詞
├ 用言の各種活用形
└ 各種副詞

のような、成分形成の三様式を認めている。

この中で、「各種副詞」に属するものの共通点は、統叙はせずに、素材概念と関係構成的職能だけを持っている所にある。いわゆる接統詞も先行叙述内容を素材とする素材概念と、後行叙述内容を結合させる関係構成的職能を持っているから、副詞の類に所属させて、「接統副詞」と称している。特に、接統詞の中でも、先行要素(叙述内容)と後行要素(叙述内容)を入れ替えることができるもの、すなわち並列展叙の職能を持っているものを、「並列副詞」と名付けたのである。

このように、渡辺(一九七一…五〇)は構文的職能に基づいて文法を記述した結果、

「統叙成分・陳述成分・連用成分・連体成分・並列成分・接統成分・誘導成分」

の七つの文の成分を挙げている。渡辺文法で接統成分を形成する形式には(註2)、次の例文のようなものがある。

(一)新聞もよむし、ラジオも聞きますよ。(渡辺実…二九二)

(二)新聞を読み、世論の動向を知る。(渡辺実…二六八)

(三)新聞もよむ。そして、ラジオも聞きますよ。(渡辺実…二九八)

(一)の場合は、「新聞を読む」という素材表示の職能と接続助詞「し」の接続の職能を合わせた、「新聞を読むし」が接続成分になる。(二)の場合は、「新聞を読む」という素材表示の職能と活用形「読み」という接続の職能から構成される要素「新聞を読み」の部分が接続成分である。(三)の活用形「読み」の場合は、形態の上では素材表示の職能と接続の職能を区別することは出来ない。(三)の接続詞「そして」には、素材表示の職能と接続の職能が一つの形態を成しているが、「そして」を「そし」と「て」に分けた場合、「そし」の部分には素材表示の職能が託されており、「て」の部分には接続の職能が託されていると看做すことが出来ると考えられる。

また、北原保雄(一九八一…一九一〇—一九三三)は、『日本語の世界 6、日本語の文法』で、「接続成分」について、

接続の成分は、職能の上から見れば、接続内容と接続機能とから構成されるものである。

のように述べている。

北原の「接続成分」も、「接続内容」と「接続機能」という二つの要素から成っている。北原の「接続成分」の「接続内容」と「接続機能」は、渡辺の「素材表示の職能」と「接続の職能」に当たる。渡辺と北原の「接続成分」に関する基本概念は同じものであると考えられる。

二・四 接続表現

日本語の文法の研究では、「表現」というものは、「疑問の表現・否定の表現・命令の表現・あいさつの表現・応答の表現・比較の表現、待遇表現」などのように、実に、幅広く用いられている用語である。これらの例で示されているように、文法の研究での「表現」とは、「言葉の中で、文法的に同じ性質を表している諸形式の集まりである。」、というように考えられる。

生田目弥寿は、「接続の表現」を、「語と語、文と文を接続語を用いてつなぎ合わせる表現。」と定義している。接続表現としては、

- ① 桜と梅
- ② 歴史及び地理の試験
- ③ 彼は日本語も分かるし、中国語も分かる。
- ④ 風邪を引いた。それで家にこもっている。
- ⑤ 雨が降っていたが、散歩に出た。

のような例を挙げている(註3)。生田目の「接続表現」とは、「と、及び、し、が」のような接続助詞と、「それで」のような接続詞からなる表現を意味しているようである。つまり、生田目の「接続表現」とは、「二・二」の「接続語」と同じことを表わしているようである。

しかし、接続の役割を担っているものには、接続助詞、接続詞だけではなく、「新聞を読み、世論の動向を知る。」のような例文の活用形(連用形)「読み」にも接続の機能が託されている。

従って、本稿では、語と語、節と節、文と文を繋ぎ合わせる役割をしている「接続助詞、接続詞、連用形」など、

すべての表現を「接続表現」ということにする。

二・五 接続表現の類型

日本語で語、節と節、文と文を繋ぎ合わせる働きをする形式について、調べることにする。

二・五・一 記号(符号)による接続表現

(四) 重要なのは、米ソ両国間に、基本的に緊張緩和と軍縮を進める必要、要請、精神が依然存在していることである。

(朝日新聞「以下、朝日」 1988. 4. 24 社説)

(五) 一九八〇年発足以来の PECC 運動は、「学・財・官」三者構成というユニークな組織によって、……

(日本経済新聞「以下、日経」 1988. 5. 23 社説)

(四・五)のように「、・」などの記号も先行要素と後行要素をつなぎ合わせる働きをしていると思われる。つまり、接続表現が省略されて、「、・」のような記号が接続の機能を果たしているのである。

二・五・二 用言の活用形による接続表現

(六) 花が咲き、鳥が鳴く。

(七) 山が高く、海が深い。

(八) 兄は弁護士で、弟は医者だ。

(六〇八)の「咲き」「高く」「(弁護士)で」は動詞、形容詞、判定詞の連用形として、先行要素と後行要素をつなぎ合わせる働きをしている。

二・五・三 助詞による接続表現

(九) 国家間でいえば国交にあたる。西欧の資本主義圏とソ連・東欧の社会主義経済圏とが、三十年にわたる敵対と相互不信の關係にピリオドを打つ。

(読売、1988.6.6 社説)

(一〇) 米、英では遺産全体を課税対象としているし、独仏は相続人が実際に取得した遺産に課税している。

(朝日、1988.1.11 社説)

(九・一〇)の「と、し」は先行要素と後行要素をつなぎ働きをしている点は同じである。しかし、(九)の場合には体言を素材とする先行要素と後行要素をつないでいるのに対して、(一〇)の場合は叙述内容を素材とする先行要素と後行要素をつないでいることが異なる。

二・五・四 接続詞による接続表現

(一一) これを裏付けるようにソ連側は、レーガン大統領に対し、反体制派との集会、ダニロフ修道院への訪問などを容認している。そして、そのことをテレビや新聞で国内に報道したという。

(毎日、1988.6.3、社説)

a. これを裏付けるようにソ連側は、レーガン大統領に対し、反体制派との集会、ダニロフ修道院への訪問などを容認している。(これを裏付けるようにソ連側は、レーガン大統領に対し、反体制派との集会、ダニロフ修道院への訪問などを容認して)いて、そのことをテレビや新聞で国内に報道したという。

(一一)の接続詞「そして」は、(一一 a)のように、「そ」の部分で前の文を受けていると考えられる。「これを裏付けるようにソ連側は、レーガン大統領に対し、反体制派との集会、ダニロフ修道院への訪問などを容認している」という前の文の叙述内容は、「そして」という接続詞によってもう一度繰り返し返されて、後行の叙述内容である「そのことをテレビや新聞で国内に報道したという」と結びついている。つまり、接続詞は前の文の叙述内容を素材とする素材の機能と関係構成的機能の二つの要素をもっていると考えられる。

二・五・五 体言の形式化による接続表現

(一二)今後さらに老齡化が進んだ場合、全国に少数ずつ散らばっている被爆者の孤立感は一層深まるだろう。

(読売、1988.8.6 社説)

(一二)の「場合」は本来の体言としての実質的な意味を失っている。その代わりに体言「場合」が「形式化」して関係構成的職能しか持たないものになっている。つまり、(一二)の「場合」は体言から離れて、先行要素と後行要素をつなぎあわせる「接続助詞」のような働きをしている。

三 用言の活用形による接続表現

用言の活用形(連用形)による接続表現(註4)には、典型的並列と継起的並列がある。典型的並列と継起的並列の特徴について、調べることにする。

三・一 先行要素と後行要素の並列

動詞の活用形による接続表現について、調べてみることにする。

(一三) a 花が咲き、鳥が鳴く。

(一三 a) の「咲き」は、「動詞の連用形」で先行要素と後行要素との接続を担う形である。先行要素である「花が咲く」と後行要素である「鳥が鳴く」を入れ替えて、

(一三) b 鳥が鳴き、花が咲く。

のようにしても、文の全体の意味には変わりがない。(一三 b)のように先行要素と後行要素を置き替えられるものを「典型的な並列」と言っている。(一三 a・一三 b)の「咲き、鳴き」の活用形態は「用言の連用形」であるが、渡辺(一九七一・二二六)は、(一三 a・一三 b)の「咲き、鳴き」のようなものは、並列機能を具有しているので、構文的な働きから、「並列形」としている。

典型的な並列は動詞の連用形だけではなく、

(二四) a . 山が高く、海が深い。

のように、形容詞にも現われる。(二四 a)で、形容詞の連用形である「高く」は先行要素である「山が高い」という叙述内容と後行要素である「海が深い」という叙述内容をつなぐ役割をしている。この場合も動詞の連用形による接続と同じく、

(二四) b . 海が深く、山が高い。

のように、先行要素と後行要素を入れ替えることができる。

助動詞の連用形にも「典型的な並列の機能」が託される。

(二五) a . 兄は弁護士で、弟は医者だ。

b . 弟は医者で、兄は弁護士だ。

判定詞「だ」の連用形「で」も、先行叙述内容である「兄は弁護士だ」と後行叙述内容である「弟は医者だ」とを接続する働きをしている。これもまた、動詞・形容詞の連用形と同じく、(二五 a・二五 b)のように先行と後行の要素を入れ替えることができる。

しかし、連用形による接続表現の中でも、

(二六) a. 新聞を読み、世論の動向を知る。(渡辺実一九七二…二四七)

b. *世論の動向を知り、新聞を読む。

のように、先行要素と後行要素を入れ替えられない場合がある。(一六 a) の場合は、「新聞を読む」という事態が成立し、次の「世論の動向を知る」という事態が成立することになる。(一六 b) の場合は前後の論理関係が合わないので、非文になる。(一六 a) (一六 b) のように先行要素と後行要素を入れ替えられない並列を「継起的並列」といつている。

三・二一 先行要素と後行要素の独立性

まず、典型的並列形の場合は、

(二七) a. 花が咲き、鳥が鳴く。

b. 花が咲く。そして、鳥が鳴く。

(二七 a) を (二七 b) のように、二つの文に分けることができる。(二七 a) はもともと (二七 b) のような二つの陳述成分からなる別々の文であったが、連用形「咲き」によって一つの陳述成分、すなわち一つの文になったのである。(二七 a) は、(二七 b) の先行要素である「花が咲く」に陳述が働く直前に、連用形「咲き」の並列機能によって後行要素である「鳥が鳴く」の叙述内容とつなぎ合わせるようになった形を取ってい

る。つまり、並列機能によって先行叙述内容と後行叙述内容がつなぎ合わせられた後に、陳述が働いているような形を取っている。

先行要素と後行要素の独立性は動詞の連用形だけではなく、形容詞・助動詞の連用形にもみられる。

(二八) a. 山が高く、海が深い。

b. 山が高い。海が深い。

(二八 b) のような二つの陳述成分からなっている、それぞれ独立した二つの文が、(二八 a) のように形容詞の連用形「高く」の並列機能によって一つの文になっている。

助動詞の典型的並列の場合も同じである。

(一九) a. 兄は弁護士で、弟は医者だ。

b. 兄は弁護士だ。弟は医者だ。

(一九 a) は(一九 b) のような二つの文が、判定詞「だ」の連用形「で」の並列機能によって一つの文になっている。

一方、継起的並列について考察してみよう。

(二一〇) a. 新聞を読み、ラジオを聞く。

(渡辺実一九七一…二五四)

b. *新聞を読み、そこでラジオを聞く。

c. 新聞を読み、またはラジオを聞く。

(二一一) a. 新聞を読み、世論の動向を知る。

b. 新聞を読み、そこで世論の動向がわかる。

(渡辺実一九七一…二五二)

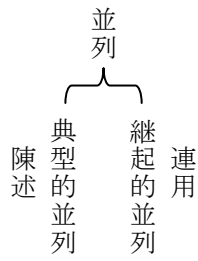
c. *新聞を読み、または世論の動向を知る。

(二一〇)の場合は、先行要素「新聞を読む」と後行要素「ラジオを聞く」の間に、(二一〇b)のように、「そこで」を入れると非文になるが、(二一〇c)のように、「または」を入れると適格文になる。「新聞を読む」という文と、「ラジオを聞く」という文、即ち二つの文が、連用形「読み」の並列機能によって、一つの文になっている。つまり、(二一〇)は典型的並列の文である。

しかし、(二一一)の場合は、先行要素「新聞を読む」と後行要素「世論の動向を知る」との間に、(二一一b)のように、「そこで」を入れると適格文になるが、(二一一c)のように、「または」を入れると非文になる。(二一一)の場合は、二つの文が並列機能によって一つの文になっているのではなく、先行の「新聞を読む」という叙述内容と後行の「ラジオを聞く」という叙述内容が連用形の並列機能によってつながれているのである。つまり、(二一一)は継起的並列の文である。

典型的並列と継起的並列は用言の並列機能によって、先行要素と後行要素がつなが合わされて、一つの陳述の素材要素を形成しているし、お互いに連続している。典型的並列は、もともと二つの陳述成分、すなわち二

この文からできたものであるから、先行要素と後行要素の独立性が強く、陳述に近いところに位置している。これに対して、継起的並列は、一つの陳述成分、すなわち一つの文の中で、先行要素と後行要素が並列機能によつてつなぎ合わされて、より大きな素材要素を形成しているから、連用に近いものである。典型的並列と継起的並列ははっきり区別して分離可能なものではなく、お互いに連続しているものである。これを図示してみれば、



のようである。

四 並列助詞による接続表現

日本語の接続表現は、従属接続と並列接続に分けることが出来る。日本語の従属接続表現の研究は多いが、並列接続はあまり研究されていないようである。並列助詞に関する諸学説を概観して、並列助詞の特性を調べることにする。

四・一 並列助詞の諸説

四・一・一 橋本進吉の学説

日本語の文法の研究で、「並列助詞」という名称を作ったのは橋本進吉である(註5)。橋本文法では、助詞の下位分類として、並列(並立)助詞の項目を立てている。

橋本(一九七八：四三〜八〇)は、並列助詞を、

「つづく助詞である。対等の関係で下の語につづく。対等の関係でつづくのは、接続助詞にもあるが、それはいつも用言又はそれと同資格のものにつくが、これは種々の語につくのである。」

のように定義している。橋本は、並列助詞としては、

と… 京と大阪と 出るとはひるとは大變なちがひだ。

や… 昨日や今日のことではない。
やら… 京へやら大阪へやらいった。
に… 筆にペン
だの… 犬だの猫だの
なり… 君なり僕なり出かけよう。
か… 鉛筆かペン どうかこうかなるだろう。

のように、「と、や、やら、に、だの、なり、か」の七つについて、その例文をあげている。しかし、橋本文法では並列助詞という名称をつけたにもかかわらず、他の助詞との関係をはっきり区分しなかったように思われる。

橋本文法では、「か」と「やら」は並列助詞であるが、「か」と「やら」の場合は、「格助詞」としても取り扱われている。

また、橋本(二九七八・一六七・一六九)は、格助詞の説明の中でも、

「現代語に於ける格助詞としての「か」は、対等の関係でつづいて、どちらかを選ぶ意味をあらはすものである。

- ・ビールかサイダーかをもって行かう。
- ・ペンか筆かにかぎる。

(中略)

「やら」は、現代標準語では、格助詞として同じやうな事がらを対等の関係で 列挙するに用ゐる。

- ・栗や柿やら出来る。
- ・子供やら孫やらに会って来た。
- ・痛いやら痒いやらで、こらへられぬ。」

のように取り上げられている。

このように、橋本文法で、並列助詞として説明している「鉛筆かペン」の「か」と、格助詞として説明している「ビールかサイダーか」、「ペンか筆か」の「か」は、両方共に、同じ並列の用法であろう。また、「やら」の場合も、並列助詞の「桃やら桜やら、京へやら大阪へやら」の例文と、格助詞の「栗やら柿やら、子供やら孫やら」の例文を比べてみると、「やら」は、両方共に、同じ並列の用法であると思われる。

このように、橋本が並列助詞を他の助詞とはつきり区分しなままになったことには「か、やら」だけではなく、橋本が並列助詞として取り扱った「と・や」にも見られる。

並列助詞「と」の場合、『助詞・助動詞の研究』（一九七八・一三〇～一三二）では、格助詞「と」の説明の中で、「神戸と大阪とへ行く、この本とこの本とはどちらがむずかしい」のような例文が取り上げられている。また、並列助詞「と・や」についても、『助詞・助動詞の研究』（一九七八・一七四）では、「間投助詞」の項目で、「や」は現代標準語では、對等の関係で、ものを列挙する場合に用ゐる。」のように説明して、「あれやこれやで御無沙汰致しました」のような例を挙げている。つまり、橋本文法では、並列助詞「と」のような用法を格助詞の項でも説明しているし、並列助詞「や」のような用法を間投助詞「や」の項にも属させているということになる。

渡辺実(一九七二:二二四～二三〇)は、「日本語の並列助詞」について、

「並列助詞というのは、「と・や・やら・に・か・なり・の・だの」の類で、体言またはこれに準ずるもの、例えば連体形をとって体言化・素材化した用言、と結合して並列成分を作る。

・桜と梅が植えてある。

・フランス語や英語を勉強した。

・富士山やら槍ヶ岳の写真

・エー、酒にビール、寿司に弁当！

・焼くなり煮るなりしたほうがよからう。

・死ぬの別れるのと大さわぎ。

・見ただの見ないだの意見はまちまちだ。」

のように、「並列成分」の構成という観点で並列助詞を説明している。特に、「なり、の、だの」の場合、

(二二)焼くなり煮るなりしたほうがよからう。

(二三)死ぬの別れるのと大さわぎ。

(二四)見ただの見ないだの意見はまちまちだ。

のように、「くなりくなり、くのくの、くだのくだの」などは、「焼く・煮る、死ぬ・別れる、みた・みない」などの用言に付いているが、「体言」に準ずるものとして取り扱っている。渡辺文法では、並列助詞によってつなぎあわされている先行要素と後行要素は体言のようなものであるということになる。

渡辺は、並列の特徴としては、

(二五)桜と梅が植えてある。

(二六)梅と桜が植えてある。

のように、「先行要素と後行要素は、意義的に同質対等であり、構文的に交替が可能である」(注6)ということ
を挙げている。

四・一・三 田中章夫の並列助詞の分類

田中章夫は、並列助詞を用法によって、次のように、五つに分類している(注7)。

① 語句を、単純に列挙する並列助詞；くとくと、くとかくとか

・ 中学生と高校生と大学生を対象とする。

・ 字を書くのと計算するのは、大嫌いだ。

・梅とか桃とか桜とか、色々な花があった。

② 例示の対象を列挙する並列助詞；くやくや、くやらくやら、くだのくだの、くたりくたり

・学校や病院や市役所が建っています。

・本やら雑誌やらを両手にかかえて来た。

・手だの足だのを、虫にさされた。

・テレビを見たり新聞を読んだりして暮らす。

③ 選択の対象を列挙する並列助詞；くかくか、くなり

・数学か英語か国語かを教えてください。

・手を上げるか返事をするかしてください。

・すしなりそばなり好きなものを注文しろ。

④ 対比の対象を列挙する並列助詞；くくとく、くかくか、くのくの

・行こうと行くまいと君の勝手だ。

・生きるか死ぬか、それが問題だ。

・行くの行かないのさわいでいた。

⑤ 事物の累加を示す並列助詞；く

・ご飯に味噌汁にお新香だけの朝食だった。

田中章夫の並列助詞の分類では、「と」と「か」の場合は二つの用法に属することとなる。意味的な観点による分類は、その分類が明確でない場合もあると思われる。

(二七) 字を書くのと計算するのは、大嫌いだ。

(二八) 行こうと行くまいと君の勝手だ。

(二九) 手を上げるか返事をするかしてください。

(三〇) 生きるか死ぬか、それが問題だ。

(二七・二八)の「と」の場合、(二七)の「と」は、「①語句を、単純に列挙する並列助詞」の例であり、(二八)の「と」は、「④対比の対象を列挙する並列助詞」の例文である。(二九・三〇)の「か」の場合も、(二九)の「か」の例文は、田中の分類では、「③選択の対象を列挙する並列助詞」であるが、「④対比の対象を列挙する並列助詞」の用法に入れてもよいであろう。また、(三〇)の「か」の例文の場合は、「④対比の対象を列挙する並列助詞」であるが、「③選択の対象を列挙する並列助詞」のようにも思われる。このように意味的な観点による並列助詞の分類は、考え方によっては、かなりの違いがあると思われる。

並列助詞における先行要素と後行要素の単位は、「語と語、語句と語句、節と節」である。橋本と渡辺にお

ける並列助詞は、「語と語、語句と語句」を対等の関係でつなぎ合わせる役割をするものである。田中の場合は、並列助詞の先行要素と後行要素の単位として、「語と語、語句と語句」だけではなく「節と節」を入れたものまでを認めている。

四・二 並列助詞の構文的特徴

日本語の並列助詞「しと、しか、しとか、しなり、しや、しやら、しだの、しの、しに」などの構文的特徴について、調べてみることにする。

四・二・一 先行要素と後行要素の交替可能性

(三二) 太郎と花子がやってきた。

a. 花子と太郎がやってきた。

(三三) あなたになりわたしになり知らせて来るでしょう。

a. わたしになりあなたになり知らせて来るでしょう。

(三三) 部屋代が高いだの、食事がまずいだのと文句ばかりいう。

a. 食事がまずいだの、部屋代が高いだのと文句ばかりいう。

(三二)では、先行要素と後行要素が「体言」の場合である。並列助詞「〜と」によって繋ぎ合わされた先行要素「太郎」と後行要素「花子」を入れ替えて、(三一a)のように、「花子と太郎」にしても、適格文になる。(三二)では、先行要素と後行要素の形態は、「体言+格助詞」である。(三二)の「〜なり〜なり」構文の場合、先行要素「あなたに」と後行要素「わたしに」を入れ替えて、(三二a)の「わたしになりあなたになり」のようにしても、適格文になる。また、(三三)の場合、「〜だの〜だの」構文の形態は「用言(節)」である。この場合も、先行要素「部屋代が高い」と後行要素「食事がまずい」を入れ替えて、(三三a)の「食事がまずいだの、部屋代が高いだの」のようにしても、適格文になる。このように、並列表現では、先行要素と後行要素が対等の関係で結合しているので、先行要素と後行要素の交替が可能である。

四・二・二 先行要素と後行要素の意味的連関性

(三四)くだものやの店先には、梨だの、柿だの秋の果物がならんでいます。

a. ?くだものやの店先には、梨だの、大根だの秋の果物がならんでいます。

(三四)の「〜だの〜だの」の構文で、先行要素「梨」と後行要素「柿」は、「果物」という意味範疇に属するものである。(三四a)では、並列助詞「〜だの〜だの」によって並べられた先行要素「梨」と後行要素「大

根」は、「果物」という意味範疇から見れば、意味的な連関性が薄いので、(三四 a)の文は落ち着きの悪い文になる。つまり、並列表現での先行要素と後行要素は、意味的に連関性がなければならぬ。

四・二・三 並列要素の形態的同一性

並列助詞による接続表現の特徴について、調べてみることにする。

(三五) 私がだの僕をだのうるさい。

a. *私がだの僕だのうるさい。

(三五)で、並列接続助詞「だの」によって繋ぎ合わされる先行要素「私が」と後行要素「僕を」は、「体言＋格助詞」から成る「同一の言語形態」である。しかし、(三五 a)の場合、先行要素「私が(体言＋格助詞)」と後行要素「僕(体言)」は、その「言語形態」が異なるので非文になる。つまり、並列助詞による並列表現の場合、先行要素と後行要素は「同一の言語形態」でなければならぬ。

並列助詞による並列表現の「言語形態」の種類には、「体言＋格助詞」の他に、

(三六)桜だの松だの竹だのが植わっている。

(三七)部屋代が高いだの、食事がまずいだのと文句ばかりいう。

のように、(三六)の「桜、松、竹」のような「体言」と、(三七)の「部屋代が高い、食事がまずい」のような「用言(節)」がある。つまり、並列助詞の構文の場合、先行要素と後行要素の言語的形態には、「体言・体言＋格助詞・用言(節)」の三つがある。

ただし、並列助詞によっては、「体言・体言＋格助詞・用言」の三つのすべての先行要素と結合することが可能な場合もあるし、あるいは、三つの中でどれかの二つ、または一つのものとしか結合していないものもある。

例えば、

(三八) 手だの足だのを虫にさされた。

(三九) 私がだの僕をだのとうるさい。

(四〇) 見ただの見ないだの意見はまちまちだ。

「だの」の場合は、(三八)の「体言(手)」、(三九)の「体言＋格助詞(私が)」、(四〇)の「用言(見る)」のように、三つのすべてが先行要素になることが可能である。

(四一) 数学か英語か国語かを教えてほしい。

(四二) お茶を飲むか、映画を見るかしようか。

(四一)の「か」は、「体言(数学・英語)」と結合しており、(四二)の「か」は、「用言(飲む)」と結合している。しかし、並列助詞「か」の先行要素に「体言＋格助詞」が現われる用例は見つからなかった。

また、並列助詞「に」の場合は、

(四三) トマトにきゅうりにたまねぎを下さい。

のように、「体言」としか結合しない。

「四・二・一」も「四・二・三」のように、並列接続が成立するためには、先行要素と後行要素の「構文的に交替可能性、意味的な関連性、形態的な同一性」の条件を満たさなければならぬのである。

四・二・四 素材群による修飾の現象

並列助詞によって結成された素材群^(注8)は、連用成分の素材になるか、連体成分の素材になるか、について検討してみる。

(四四) 田中さんやら山田さんやらがあそびに来ました。

(四五) 食うか食われるかの時が来た。

(四四) では、並列助詞によって結成された素材群「田中さんやら山田さんやら」は、連用助詞(いわゆる格助詞)「が」と結合して用言「来る」を修飾している。

(四五) では、並列助詞によって結成された素材群「食うか食われるか」は、連体助詞「の」と結合して体言

「時」を修飾している。

並列助詞によって結成された素材群「(先行要素+並列助詞)+(後行要素+並列助詞)」は、(四四)のように、格助詞(が・を…)と結合して用言を修飾するか、或いは、(四五)のように、連体助詞「の」と結合して体言を修飾するか、ということによっても、並列助詞の構文的な特徴が表れると思われる。

四・二・五 最後の並列助詞の現象

(四六)机の上に本とノートとペン(と)がある。

a. 机の上に(本とノートとペン(と))がある。

(四六)は、並列助詞「 \sim と \sim 」によって結合された(本とノートとペンと)の部分に、格助詞「が」がついた構文である。

(四六)の例文をモデル化してみると、

「(先行要素(A₁)+並列助詞(1)+後行要素(A₂)+並列助詞(2)+
+ 後行要素(A_n)+(並列助詞(n)) + 格助詞+用言。」

のように表わすことが出来る。並列助詞の構文の場合には、「最後の要素(A_n)」と格助詞の間に位置する最後の「並列助詞(\sim)」の現れ方は、並列助詞によって異なる。最後の「並列助詞(\sim)」の現れ方について調べてみることにする。

(四七)机の上に本とノートとペンとがある。

a. 机の上に本とノートとペンがある。

渡辺実(一九七一・二二三)は、(四七 a)の「本とノートとペン」のように、語句を列挙する並列助詞「と」とで、最後の並列助詞「と」が省略される現象を「並列展叙の無形化」としている。また、(四七)の場合、「ペンと」の「と」は、格助詞「が」が接続することによって、並列助詞としての形は保っているが、その機能は失っている。渡辺実(一九七一・二五四)は、このように並列助詞としての機能を失う現象を「並列展叙の有形無実化」であるとしている。

(四八)数学が英語が国語かを教えてください。

a. 数学が英語が国語を教えてください。

(四八・四八 a)は、二つ共に適格文である。「とかとか」の構文は、最後の要素「国語」につく「とか」は、付いても付かなくてもよい場合である。

(四九)この売り場では食器とか調理器具とか茶器とかを扱っています。

a. この売り場では食器とか調理器具とか茶器を扱っています。

(五〇)太郎なり次郎なり花子なりがくればよい。

a. 太郎なり次郎なり花子がくればよい。

(四八〜五〇)のように、「〜か〜か」の構文と同様、最後の並列助詞が付いても付かなくてもいい並列助詞には、「〜と〜と、〜とか〜とか、〜なり〜なり」がある。

(五一)フランス語や英語や中国語を勉強した。

a. *フランス語や英語や中国語や中国語やを勉強した。

(五二)のように、「〜や〜や」の構文では、最後の要素「中国語」に、「〜や」は付いてはならない。(五一a)のように、最後の要素に「〜や」を付けると非文になる。従って、「〜や〜や」構文が適格文になるためには、最後の要素には「〜や」が付かないことは必須条件である。

(五二)トマトにきゅうりにたまねぎをください。

a. *トマトにきゅうりにたまねぎをください。

(五二)のように、「〜に〜に」構文も、「〜や〜や」構文と同様、最後の並列助詞「〜に」は付けてはならない。

(五三)桜だの松だの竹だのが植わっている。

a. *桜だの松だの竹が植わっている。

(五三・五三 a) のように、「すだのすだの」構文では、最後の要素「竹」に付く最後の並列助詞「すだの」が付かないと、非文になる。「すだのすだの」構文で格助詞「が、を」の前に位置する最後の並列助詞「すだの」は省略されないのである。

(五四) 太郎やら次郎やらがやってきた。

a・*太郎やら次郎がやってきた。

(五五) 死ぬの別れるのと大きわぎ。

a・*死ぬの別れると大きわぎ。

(五四・五五) のように、「すだのすだの、すのすの」構文でも、最後の並列助詞が付かないと、落ち着きの悪い文になるか、非文になる。

格助詞「が・を」の前に位置する最後の並列助詞の「現れ方」の特性を整理すると、次のようである。

①最後の並列助詞が付いても付かなくてもいい場合。

「すとすと、すかすか、すとかとか、すなりすなり」

②最後の並列助詞が付いてはならない場合。

「すやすや、すにすに」

③最後の並列助詞が付かなくてはならない場合。

「～だの～だの、～やら～やら、～の～の」

四・二・六 まとめ

並列要素の形態と並列助詞の無形化・有形無実化などによって、

並列要素の形態が、

- a. 体言であるか、
 - b. 「体言＋助詞」であるか
 - c. 用言であるか、
- 最後の並列助詞の現象が、
- d. 無形化（省略）になるかどうか。
 - e. 有形無実化になるかどうか

のような五つの分類項目を立ててみた。この基準をそれぞれの並列助詞に適用した結果、日本語の並列助詞は、次の「表・1」のように、

I 類… ～と～と、～なり～なり

II 類… ～だの～だの、～とか～とか、～か～か、～やら～やら

III 類… ～や～や、～の～の、～に～に

の三つの類に分けられると思う。
 へ表11(△)使用者によってゆれのあるもの)

区分	現象 並列助詞	並列要素の形態			最後の並列助詞	
		a. 体言	b. 体言+格助詞	c. 用言	d. 無形化	e. 有形無実化
I類	と、と	○	○	○	○	○
	なり、なり	○	○	○	○	○
II類	とか、とか	○	△	○	○	○
	か、か	○	×	○	○	○
	だの、だの	○	○	○	×	○
	やら、やら	○	○	○	×	○
III類	や、や	○	×	×	○	○
	の、の	○	×	○	×	○
	に、に	○	×	×	○	×

五 接続助詞による接続表現

「山田孝雄、橋本進吉、時枝誠記、渡辺実」など、文法学者四人の接続助詞に関する学説を調べてみることにする。

五・一 接続助詞の諸説

五・一・一 山田孝雄の学説

日本語の文法の研究で、接続助詞の名称を用いたのは、山田孝雄である(註9)。
山田孝雄(一九三六・五三一～五三二)は日本語の接続助詞を、

「述格として用ゐられたる語(主として用言)に附属して、これを次なる句と接続せしむる用をなす助詞を接続助詞とす。」

のように定義して、その例としては、

「ば・も・し・と・から・けれど(も)・が・のに・ものを・ところが」

などの例を上げている(註10)。

山田(一九三六：五三二)五三三は、これらの接続助詞に上接する用言の活用形によって、

「口語にては未然形に属するものに「ば」あり。

連用形に属するものに「も」あり。

連体形に属するものに「し」「と」「から」「けれど(も)」「が」「ところが」「のに」「ものを」あり。」

のように、分類している(註11)。

五・一・二 橋本進吉の学説

橋本(一九六九：五五)は、接続助詞を、

「つづく助詞である。用言又は之と同資格のものばかり附く、さうしてその用言が他の用言又はこれと同資格のものにどんな関係でつづくかを区別して示すものである。」

と定義している。その接続助詞の種類としては、

「(甲) 対等の関係でつづくもの—対等接続助詞
たり、し

(乙) 従属の関係でつづくもの—従属接続助詞

が、から、けれども、ものを、のに、ものの、ば、と、たら(だら)、ても、たつて(たつても)、

ところで、ところが、て、つつ、ながら

のようなものを上げて、日本語の接続助詞を大きく(甲)類と(乙)類に分けている(注12)。

五・一・三 時枝誠記の学説

時枝(一九五〇・一九一)は、接続助詞を、

「同時的に存在する動作及び行為、或は時間的に継起する事柄と事柄との関係の認定も助詞によつて表現される。この一群に属する助詞は、陳述に伴ふ点で格助詞と著しく相違するものである。」

のように説明しているし、その例としては、「が、ば、と、て、ても、から、けれど(も)、し、ながら、のに、ので、つつ」のようなものを上げている(注13)。

五・一・四 渡辺実の接続助詞

渡辺は、接続助詞の定義については、直接、言及しているところはないが、『国語構文論』の「接続の機能」の内容から見て、接続助詞は、「接続展叙が託されている助詞である」と言つてよいであろう(注14)。

接続展叙とは、「元来全く別個の二つの叙述内容を何らかの関係で結合・統一させる機能」であり(注15)、接続展叙というものの本質が、「一つの叙述内容を、その独立性を保ったまま、後行叙述内容の成立条件として

関係づける所」にある(註16)。

このように構文的観点で、接続展叙を説明している渡辺は、接続助詞として、「ながら・から・(て)は・(て、で)も・と・ので・が・けれども・のに・し」のようなものを上げている。

五・二 接続助詞の分類

日本語の接続助詞の分類基準は、詳細な部分では、学者によってそれぞれ見解を異にしている。主に意味的な観点によって接続助詞の分類がなされている。諸学者の分類基準をまとめてみることにする。

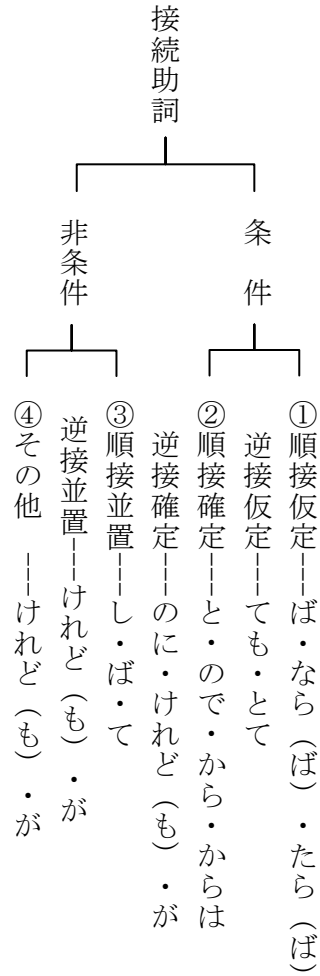
五・二・一 「宮地裕」の分類

意味的な観点から、日本語の接続助詞を分類した学者には宮地裕がいる(註17)。

宮地は、まず先行要素が後行要素の条件になるかどうかによって、大きく「条件」と「非条件」に分けている。条件の場合は、「仮定条件」と「確定条件」に二分してから、それぞれ先行要素が後行要素に対して順接するか逆接するかによって、さらに「仮定順接」と「仮定逆接」、「確定順接」と「確定逆接」に分けている。

その反面、非条件の場合は、「並置」と「その他」に分けてから、「並置」の方も「条件」と同じ方法で、順接するか逆接するかによって、「並置順接」と「並置逆接」の二つに分けているが、「その他」の場合は、さらに下位分類をしていない。

これを図示してみれば、



のようである(注18)。

このように接続助詞を意味によって分けて見れば、「けれど(も)」や「が」などの接続助詞が、「確定逆接・並置逆接・その他」の三つに属するように、一つの接続助詞がそれぞれ違ったグループに属している場合もある。また、「風が吹くと、雨が降る」のような例文での「と」を、「ので、から」と同じ「確定順接」として認めている。

意味による接続助詞の分類は、一つの接続助詞が場合によっては、いくつかの分類項目に属する可能性があるるので、すつきりした分類法とは言えないであろう。

五・二・二 生田目弥寿の分類

生田目弥寿の「接続の表現」の分類(注19)は、まず、先行要素と後行要素を入れ替えることができるものを

「対等の接続」、条件によって先行要素と後行要素がつながれているものを「条件の接続」と、大きく二つに分けているが、「条件の接続」の分類が「接続助詞の分類」に該当するので、「条件の接続」を中心に説明することにしている。

まず、「対等の接続」は、「名詞を並べる言い方か、用言を並べる言い方か」、によって下位分類している。「条件の接続」の場合は「順接条件」と「逆説条件」の二つに分けている。

「順接条件」とは、「前件から予測できる事柄を述べる場合の言い方」である。さらに、「順接条件」をさらに「①仮定の条件(特定の場合の仮定)、②仮定の条件(一般の場合の仮定)、③確定条件」に分けている。

「①仮定の条件(特定の場合の仮定)」の場合は、「ある事実の反対、又は、はっきりわからないことを、そうなったと仮定している言い方」であるとし、「もし機会があれば、行ってみなさい。」のような「ば」の例を挙げている。

「②仮定の条件(一般の場合の仮定)」の場合は、「ある条件の下では、いつもある事柄が起こる、あるいは、ある事柄をするという意を表わす場合の言い方」であると説明し、「春になると、花が咲く。」、「水が悪いとすれば、ここには長く住めない。」のような「と、ば」の例を挙げている。

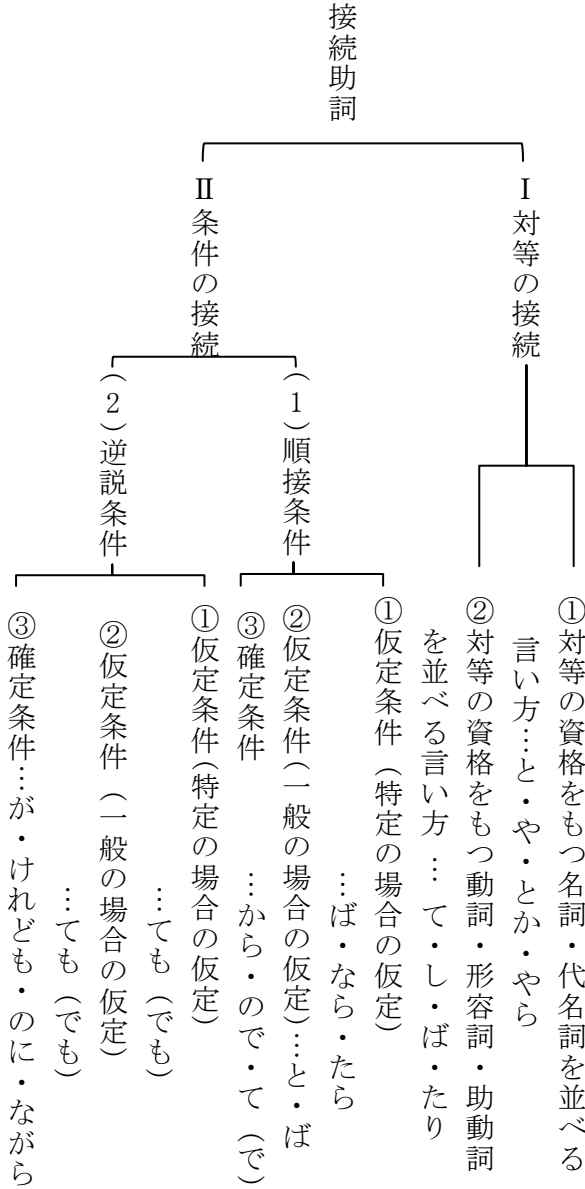
「③確定条件」の場合は、「前件で述べた事実が後の事柄の起こる原因・理由となっていることを表わす場合」であるとし、接続助詞「から、ので、て」などの例をあげている。

また、「逆説条件」とは、「前から予測される事柄に反した事柄を述べる場合の表現」であるとし、「順接条件」と同じく、「①仮定の条件(特定の場合の仮定)、②仮定の条件(一般の場合の仮定)、③確定条件」に分けている。

逆説の「①仮定の条件(特定の場合の仮定)」については、「ある事柄を仮定して、それに続く事柄が前件に拘束されないことを述べる言い方」と説明し、「高くても、買おうと思いません。」のように、「ても」の例を

あげている。

逆説の「②仮定の条件（一般の場合の仮定）」については、「ある条件に対して、常にその条件と相反するような結果が生ずることを表わす言い方」と説明し、「夏は6時になっても、まだ明るい。」のように、「ても」の例をあげている。逆説の「③確定条件」の場合は、「前提に事実を述べて、それに拘束されず予測に反した事柄の起こる表現」と説明をし、「が、けれども、のに、くせに、にもかかわらず」などの例文を挙げている。生田目の「接続助詞の分類」を図示してみれば



のようである(註20)。

生田目の接続助詞の分類では、接続助詞「ば、ても」はそれぞれ二つの項目に所属させたことになる。「ば」の場合は、「もし機会があれば、行ってみなさい。」の「ば」は、「①順接の仮定の条件(特定の場合の仮定)」に属するものであるが、「水が悪いとすれば、ここには長く住めない。」のような「ば」は、「②順接の仮定の条件(一般の場合の仮定)」に属するものである。

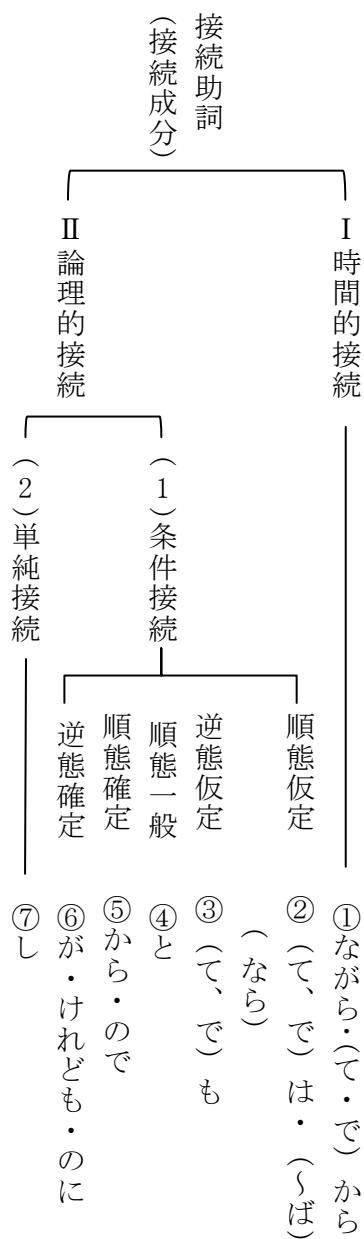
また、「ても」の場合も、「高くても、買おうと思います。」の「ても」は、「①逆説の仮定の条件(特定の場合の仮定)」に属するものであるが、「夏は6時になっても、まだ明るい。」の「ても」は、「②逆説の仮定の条件(一般の場合の仮定)」に属するものである。

このように、「ば、ても」以外の他の接続助詞も意味によって、いくつかの分類項目に所属させることになると、その分類基準は曖昧になると思われる。

五・二・三 渡辺実の分類

渡辺実(一九七一・二六一～三〇〇)は「接続の職能」で日本語の接続助詞について説明している。接続については、「接続関係は並列関係の分化である」という見解を示している。つまり、接続(成分)は継起的並列と典型的並列との間に位置すると主張している。継起的並列に時間的関係を表わす「ながら・(て)から」が加わることによって、継起的並列から時間的接続に変わる。この時間的接続と対応の関係にあるのが、論理的接続である。また、論理的接続を条件的接続と単純接続に分けている。条件的接続はさらに仮定条件・一般条件・確定条件に分けて、それぞれを順態と逆態によって二分している。その結果、日本語の接続助詞は理論的には八つになるわけである。しかし、「一般条件」には「一般順態」はあるが、「一般逆態」に属するものはないので、実際的には七つにグループ分けしたことになる。

これを図に表わしてみれば、



のようである(注21)。

五・二・四 仁田義雄の分類

仁田義雄の分類は、構文的な観点によって、「日本語の接続助詞」を分類したことである。仁田は、「命題(相当)の文的度合い」によって、接続助詞を分類している(注22)。その分類基準としては、接続表現の先行要素の部分に、係助詞「は」や主観性の強い副詞「まさか」が現れるかどうか、また先行要素の部分で「テンス」や「ムード」を有するかどうか、というものである。これをまとめてみれば(注23)、表12のように、仁田は日本語の接続助詞を三つの類に分けている。

基準 分類	先行要素				接続助詞
	は	まさか	テンス	ムード	
一類	×	×	×	×	ながら・つつ・がてら
二類	×	×	○	×	と・ので・のに・たら・ ば・ても・なら・くせ に・ものの
三類	○	○	○	○	が・から・けれども・し

〈表12〉

「日本語の接続助詞の分類」について考察したことを纏めると、次のようである。

(一) 「宮地の分類、生田目の分類、渡辺の分類」、つまり、3人の分類は、細かい部分では違いがあるが、大抵同じことである。「順接仮定、順接確定、逆接仮定、逆接確定」の四つの項目は3人共に認めていることである。

(二) 接続助詞の分類は、中心となる意味を基準にして分類しなければならないと思う。たとえば、宮地の分類の場合、「けれども」という接続助詞を、「五・二・一」の図示のように、「逆接確定、逆接並置、その他」の三つの項目に入っている。しかし、「けれども」の中心となる用法は「逆接確定」であるから、「けれども」は「逆接確定」の項目だけに入れたほうがいいと思う。

(三) 諸学者の「接続助詞の分類」を参照して、日本語教育という観点で、「日本語の接続助詞の分類」を再構成してみた。まず、日本語の接続助詞を、大きく条件接続と一般接続の二つに分けることにする。条件接続は、さらに「①順接仮定、②順接確定、③逆接仮定、④逆接確定」に分け、一般接続はさらに「⑤時間的接続(てから・ながら)」と「⑥単純接続(し・て)」にわけた。このように、日本語の接続助詞は六つの項目に分類したほうが、日本語教育に適用しやすい、すっきりした分け方になると考えられる。

六 接続詞による接続表現

六・一 接続詞の諸説

日本語の接続詞の品詞のあり方に関する学説には、接続詞を「詞」に所属させる場合、接続詞を「辞」に所属させる場合、接続詞を一品詞として独立させず、副詞に含ませる場合、などがある。

六・一・一 「詞」に所属させる場合

橋本進吉は「文節構成」という観点から、接続詞を「詞」として扱っている。橋本(一九四八・六七)は接続詞を「詞の分類」の中で、

「接続詞は、前の文又は語の意味を受けて後の文又は語に続けるもので、その関係を示すものである。」
のように、定義している。

また、接続詞の用法については、

「前の文を承けて、後の語につづけるもので、それ故、一文節をなすものである。
(a) 対等の関係を表わす — 語と語の間にあり

(b) 従属の関係をあらわす — 文の初にあり

文節をなすものであり、修飾せられず。述語にならない。」

と説明している(註²⁴)。

六・一・二 「辞」に所属させる場合

日本語の接続詞を「詞」として認めず、「辞」として認めている学者は、時枝誠記と阪倉篤義である。

時枝(一九五〇…一六四)は、言語過程説の立場から、日本語の接続詞を、「辞」の説明の中で、

「接続詞と呼ばれている右のような語は、第一に話手の立場の表現として、辞に所属させるべきものであることが分かると同時に、そのやうな立場が、二の事柄に関係して生じたものであるところから、結果として、語、句、文を接続するといふことになり、これらの語が接続詞と云はれることになるのである。」

また、阪倉(一九七六…二四二)は、日本語の接続詞を、

「用言の連用形が接続を表現するというのは、その活用形に含まれた辞の働きによるものだし、「ば・で・ので・のに」のようなものが辞であることは、これまた明らかである。つまり、接続という機能は、もとも

と辞が受け持つものであって、右（講義のノート、適当な参考書）のように単語がただ並べられたときは、これがゼロの形で表されていると見ることできる。こう考えてくると、接続の機能を果たしている接続詞というものは、詞ではなく、やはり辞に属すると考えるのが適当だろう。すなわち、さきに述べたように、これらの語は、何かの事がらを表現しているのではなくて、むしろ、それに対する主体の態度や立場を表現しているものと、考えられるようである。」

としている。

つまり、阪倉は、日本語の「接続の機能」を担っている活用形（いわゆる連用形）や接続助詞が辞であることから、接続の機能を受け持っている接続詞も辞に所属させたのであろう。

橋本四郎は、日本語の接続詞を「詞」に所属させるか、「辞」に所属させるか、について、次のように説明している（註²⁵）。

「同じ種類の語が、橋本文法で詞と扱われ、時枝文法で辞と扱われるのは、それぞれの文法体系に従って語の分類基準をどこに求めるかの相違があるところからすでに決定的である。単独で文節を作るか否かに着目する前者では、接続詞は詞でなければならぬし、概念過程を経るか否かの表現性の相違に着目する後者では、当然辞でなければならぬ。」

六・一・三 副詞として認める場合

日本語の接続詞を一品詞として認めず、副詞の下位分類に所属させた学者には、山田孝雄と渡辺実がいる。

山田(一九六三:三六七)は西洋文典でいう接続詞について、

「今日の文法家の所謂接続詞は西洋文典にいふ所の conjunction (接続詞と訳す) に該当するものにあらずして、かれらの conjunctive adverb (接続副詞と訳す)、或は half-conjunction (半接続詞) と称するものに該当し、真にかれらの conjunction に該当するものは実に「ば」「ど」「ども」「が」「に」「を」などの接続助詞なること既に日本文法に詳論せる所なり。」

として、西洋文典における接続詞は日本語の接続助詞に該当するものであり、

「ただ接続詞と称すべきものを強ひて求むれば、「及び」「並びに」の二語なるが、これらは「及」「並」等の漢字を直訳する為に動詞の連用形を転用せる不純なる国語なり。」

のように(註26)、日本語には接続詞と称すべきものは甚だ少なく、

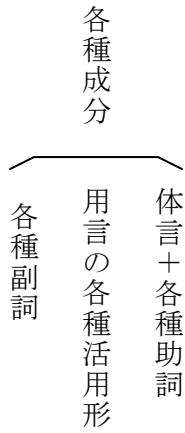
「とにかくに国語には純粹の接続詞といふ觀念語なきは事實なり。」

として、日本語には接続詞に該当するものはないと言っている。その代わりに、接続副詞を

「上下の語を連ね、又は上の文句の意をうけて、下なる文句を修飾する用をなすものなり。

のように定義して(註27)、副詞の分類に所属させている。

また、渡辺は構文論の立場から、文の成分として、



のような、成分形成の三様式を認めている(註28)。この中で、「各種副詞」に属するものの共通点は、統叙はせず、素材概念と関係構成的職能だけを持つている所にある。いわゆる接続詞も先行叙述内容を素材とする素材概念と、後行叙述内容を結合させる関係構成的職能を持つているから、副詞の類に所属させて、「接続副詞」と称している。渡辺(一九七一・四一七)は、「各種副詞」として、「連体副詞(連体詞)・連用副詞(程

度副詞)・誘導副詞(陳述副詞)・接続副詞(接続詞)・並列副詞(接続詞)・陳述副詞(感動詞)」などを挙げている。

特に接続詞の中でも、先行要素(叙述内容)と後行要素(叙述内容)を入れ替えることができるもの、すなわち、「および、ならびに、または、或いは」のように、並列展叙の職能を持っているものを、「並列副詞」と名付けたのである。

つまり、山田以来、接続詞を接続副詞と称せられたものが、渡辺に至って、その職能の違いから、接続副詞と並列副詞に分けられたのである。

その他にも、接続詞を一品詞として認めず、副詞の類として取り扱っている学者には、松下大三郎、森重敏、芳賀綏などがいる(註29)。

六・二 接続詞の分類

塚原鉄雄(一九六八：四二二)のは、

「分類が分類であるためには、一定の原理を基礎とし、一定の基準を適用して、実施されなければならない。」「

のような指摘の通り、接続詞の分類も「一定の原理と基準」が必要であると思われる。一定の基準を設定するためには、一定の原理を作り出さなければならぬ。接続詞の分類のための「一定の原理」というものは、接

接続詞一つ一つについて分析・検討した結果、得られるものである。接続詞を分析・検討するため、今までの接続詞の分類に関する諸説を基にして、接続詞をいくつかのグループに分ける必要がある。

六・二・一 意味的な観点による分類

日本語の接続詞を意味的な観点によって分類した学説にはいろいろなものがある。市川孝は、日本語の接続詞を、「順接・逆接・同列・補足・添加・対比・転換」のような七つに分類している(註30)。塚原鉄雄は、「順態・逆態・前提・累加・同列・解説・対比・転換」のように、八つに分類しているが、市川の「順接」のような用法を、「順態」と「前提」という二つの用法に分けたのである(註31)。また、鈴木一彦も、「順接・逆接・並立・補説・累加(添加)・説明・選択・転換」のように、八つに分類しているが、市川の「累加」のような用法を、「累加」と「並立」の二つの用法に分けた(註32)のである。

三人の分類を図示すると、次のようである。

鈴木	塚原	市川
順接	順態・前提	順接
逆接	逆接	逆接
説明	同列	同列
補説	解説	補足
累加・並立	累加	添加
選択	対比	対比
転換	転換	転換

塚原の「順態」と「前提」は市川の「順接」に、鈴木「累加」と「並立」は市川の「添加」に、含ませてもよいと思われるので、本稿では今まで収集した接続詞を市川の基準によって分類して、その主な用例を上げてみることにする(注33)。

各用法の説明は、市川のことを参考にした。

① 順接

「前の内容を条件として、それから生じる結果を導く。」

「さもなければ・したがって・すると・そうなると・そこで・それで・それなら・だ(です)から・だとしたら・(そう)だとすれば・で・と・とするなら・とすれば・となると・となれば・なれば……」

(五六) 空港は単なる発着基地にとどまらず、国際交流の拠点ともなっている。従って、空港と同時にその機能を活用するよう周辺の都市整備を進めていくのが、世界の流れなのだ。(朝日、88.1.7、社説)

(五七) いま、小、中、高校の一教室には、ふつう四十数人の子どもたちが詰め込まれている。すると、どのような状況になるか。(朝日、88.9.30、社説)

(五八) 天候やコースの地形に大きく左右されるマラソンは、同条件でのレースが二度とできない競技である。だから、記録だけを絶対の基準にしての代表選考は、むずかしい。(朝日、88.3.18、社説)

② 逆接

「前の内容に反する内容を導く。」

「が・けれども・しかし・しかしながら・それでも・それなのに・それにしても・だ（です）が・だけれど・だのに・だとしても・であつてもま・でも・といて・といても・ところが・とはいえ・
とはいうものの・なのに・にもかかわらず――」

（五九）欧米の美術館は国公立、私立を問わず、多くの修復専門家を擁している。が、わが国の国立美術館にはこの方面の専門家はいない。
（朝日、88.4.23、社説）

（六〇）学校五日制についても答申は、教育水準が下がっては困るなどと慎重だ。しかし、日本の子どもたちが受けている授業日数、時間数は、世界でも指折りの長さなのだ。
（朝日、87.12.26、社説）

（六一）「消費税」は最終的に消費者が負担する税制である。にもかかわらず、自民税調は、経済団体や業界団体のヒアリングだけで、消費税を決めてしまった。
（毎日 88.6.15、社説）

③ 同列

「前の内容と同等とみなされる内容を導く。」

「換言すれば・すなわち・たとえば・つまり・要するに――」

（六二）五十七年に施行された改正商法は開かれた株主総会の実施をめざしている。すなわち、わが国の大企業の株主総会が、会社側に寄生する総会屋に取り仕切られ、企業の最高意思決定機関としての機能が形

が^レい化している状態を是正しようとしている。

(日経、88.10.18、社説)

(六三) 国際化や基礎の重視は結構なことだが、かけ声だけでは進まない。

たと^レえば、外国の研究者を受け入れるためのポスト、住まい、日本語研修制度を用意しなければならない。国際的な会合を安く開ける会議場や宿泊施設、海外出張費の柔軟な運用も必要だ。

(朝日、87.12.25、社説)

④ 補足

「前の内容を補足する内容を導く。」

「ただし・というのは・というのも・なぜなら・なぜかといえど――」

(六四) サンタクロースからのプレゼントに加えてもう一つ、日本の子どもたちはクリスマスの贈り物ももらった。ただし、みんなが喜ぶ中身だったかどうかには、疑問がある。(朝日、87.12.26、社説)

(六五) 自民党が税制改革大綱を決定した。この中で焦点である新型間接税は、「消費税」という名称のもとに、来年四月から実施することになった。ということは、この秋にはなになんでも、関係法案の成立をはかる方針なのだろうか。(毎日、88.6.15、社説)

(六六) これ(カンボジア停戦へ向けての国際会議)を国連事務総長が召集することは可能だ。なぜなら、カンボジア各派の間で基本的な合意が成立した場合、合意事項を正式のものとするために、国際会議を召集する必要が生じるからだ。(読売、88.9.6、社説)

⑤ 添加

「前の内容に付け加わる内容を導く。」

「および・かたがた・かつ・しかも・そうして・そして・それから・それに・ついで・つぎに・ならびに・のみならず・また――」

(六七) 政府および民間ベースの対中協力は、アジアで始まった経済構造改革の新しいうねりに役立とう。

(読売、88.8.18、社説)

(六八) (年金制度の運営のまずさは――) 年金額を多くするために、退職直前の最終俸給を使って年金額を計算し、しかも退職時に特別昇給をして最終俸給を高くした。

(日経、88.10.8、社説)

(六九) 分かりやすい住居表示は、むしろ大切だ。郵便や宅配便の利便、そして豊かな住環境という面でも整理は不可欠である。

(朝日、88.5.10、社説)

⑥ 対比

「前の内容に対して対比的な内容を導く。」

「あるいは・それとも・ないし・ないしは・または・もしくは――」

(七〇) 大事故(チェルノブイリの事故)が起きて、この関心を持つ人の層が全国的に、あるいは国境を越えて広がった。

(朝日、88.4.26、社説)

(七二) わが国でも、大都市における深夜サービスなどを共同で、ないしは単独で提供しようとする顧客志向の金融機関が現れて当然ではないか。
(日経、88.9.2、社説)

(七三) 高性能でないという理屈をつけて供与された両国(米ソ)のミサイルだったが、これにあきたらなくなつた諸国は、自力で、もしくは他国の援助を受けて改良し、性能を向上させた。
(朝日、88.4.12、社説)

⑦ 転換

「前の内容から転じて、別個の内容を導く。」

「さて・それでは・では・ときに・ところで――」(文化庁一九七五…)

(七三) 学校についての話はこのへんでおわりにします。さて次に、私の生活について話を進めたいと思います。
(文化庁一九七五…四〇七)

(七四) ところで、あなたのお考えをうかがいたいのですが――。
(文化庁一九七五…七〇五)

六・二・二 構文的な観点による分類

鈴木一彦は日本語の接続詞を用法のうえから、

①語を接続するもの。

・山及び海の事故が多い。

②文節（または句）を接続するもの。

・歌を作り、かつ文を記す。

③文を接続するもの。

・雨が降った。しかし道は悪くない。

④文章を接続するもの。

・雨がやんで日が出た。木々の緑があざやかになった。すると蟬の声が一斉に起こった。

のように、四種に分けている（注³⁴）。

しかし、鈴木一彦の接続詞の用法の分類の中で、「④文章を接続するもの」の例文（雨がやんで日が出た。木々の緑があざやかになった。すると蟬の声が一斉に起こった。）の「すると」のような接続詞は、「③文を接続するもの」の用法と同じようなものであると考えられるので、④の「すると」のような接続詞は、「③文を接続するもの」に入れることにする。その代わりに、本論文では、「とところで、あなたのお考えをうかがいたいのですが……」の「転換」の「とところで」のようなものを「④文章を接続するもの」の項目に入れることにする。

さて、以上のように四にわけたとしても、接続詞は、「語と語、文節(句)と文節(句)、文と文、文章と文章」のいずれか一つの接続にとどまるわけではない。

(七五) 「有機野菜」「無農薬栽培」あるいは「自然農法」などと表示のある農産物が、町にあふれている。

(日経、88.9.9、社説)

(七六) (日本の途上国援助の中で) 電気の供給が不安定なために、あるいは肝心のスタッフが不在のために、ホコリをかぶっている高価な医療機器がある。

(朝日、88.7.9、社説)

(七七) 米の生産調整(減反政策)の中で、事業の見直しができなかったのはなぜか。国が地元、環境への影響について十分な情報を流さなかったのではないか。あるいは、国と自治体、自治体と住民、その情報のパイプがつかまってはいなかったか。

(読売、88.6.4、社説)

このように、「あるいは」は、(七五)では語と語、(七六)では句と句、(七七)では文と文を結合している。また、接続詞の中で、上に上げた四つの形態の他に「連文と連文」を結合する場合もある。連文については、長田久男が『国語連文論』で、

「①外面的な形態としては基本段落より大きく、連合段落のあるものと一致するのが普通である。

②文章を構成する単位という観点から指定したのではなく、文章中に任意に指定する「文の連続体」で

ある。

③ 「意義の統一」という点が問題とされないで「意義の繋がり」という点が顕現する。「

のように説明している(注35)。

例えば、

(七八) a・最近の歴代首相は海外に出た際に外交方針のスピーチを試みるのが慣例のようになっていた。b・「首相外遊」をはなやかにする演出だろうが、言いつ放しのこともあった。だが、c・美辞麗句の演説だけでは国際社会の友人はできない。d・当然のことながら、竹下首相は、ロンドン・スピーチで約束したことを着実に行動で裏付ける必要がある。(アルファベット筆者注) (朝日、88.5.7、社説)

(七八)の「だが」は、「文と文」の接続を越えているが、「段落と段落」の接続には達していない段階であると言える。(七八)での接続詞「だが」は、(a・b)という連文と(c・d)連文をつなぎ合わせる働きをしていると思われる。

本論文では、日本語の接続助詞を用法のうえから、

①語と語を接続するもの。

・政府および民間ベースの対中協力は、アジアで始まった経済構造改革の新しいねりに役立つ。

②句と句を接続するもの。

・分かりやすい住居表示は、むしろ大切だ。郵便や宅配便の利便、そして豊かな住環境という面でも整理は不可欠である。

③文と文を接続するもの。

・「消費税」は最終的に消費者が負担する税制である。にもかかわらず、自民税調は、経済団体や業界団体のヒアリングだけで、消費税を決めてしまった。

④連文と連文を接続するもの。

・最近の歴代首相は海外に出た際に外交方針のスピーチを試みるのが慣例のようになっていく。「首相外遊」をはなやかにする演出だろうが、言いつ放しのこともあった。だが、美辞麗句の演説だけでは国際社会の友人はできない。当然のことながら、竹下首相は、ロンドン・スピーチで約束したことを着実に行動で裏付ける必要がある。

⑤文章と文章を接続するもの。

・学校についての話はこのへんでおわりにします。さて次に、私の生活について話を進めたいと思います。のように、五種に分けることにする。

接続詞が「語と語、句と句、文と文、連文と連文、文章と文章」のような五つの形態の中で、どんな形態を接続するか、ということは、接続詞ごとに決まっている。このような現象が接続詞の「接続範囲」であると考

えられる。

新聞などから収集した用例^(注 36)で、接続詞は、

「あるいは、および、が、かたがた、かつ、かといって、けれど(も)、さて、さもなくば、しかし、しかしながら、しかも、したがって、すなわち、すると、そうして、そうだとすれば、そうなる、そこで、そして、それから、それで、それでは、それでも、それとも、それ(そん)なら、それに、それでもなければ、それにしては、それにしても、だ(です)が、だ(です)から、だけれども、ただし、だとしたら、だって、で、であつて、では、でも、ということ(の)は、というのも、といって、といつても、ところが、とするなら、とすれば、となると、となれば、とはいふものの、とはいえ、ないし、ないしは、なぜかといえ、なぜなら、なのに、ならば、ならびに、にもかかわらず、のみならず、また、または、もしくは」

のように、「六十四」語であつた。

この「六十四」語のうち、例が少なく傾向を判断できないものを除いた接続詞を「接続範囲」によって、グループ分けすると、次のように、大きく四つ(I類、IV類)に分けられた。グループの種類とそれに属する接続詞は、次のようである。

I類：主に、「語と語」、「句と句」を接続するものである。

「あるいは、および、かたがた、かつ、すなわち、ないし、ないしは、ならびに、または、もしくは」

II類：主に、「句と句」、「文と文」を接続するものである。

「しかし、しかも、したがって、そこで、そして、それから、それでも、それとも、それに、それにしても、ただし、でも、また」

III類：主に、「文と文」、「連文と連文」を接続するものである。

「が、けれど(も)、すると、それで、それなら、だけれども、だ(です)が、だ(です)から、だって、ということ(の)は、で、ところが、とすれば、とはいえ、なぜなら、なぜかといえ、なのに、にもかかわらず」

IV類：主に、「文章と文章」を接続するものである。

「さて、それでは、では、ところで」

六・三 まとめ

日本語の接続詞に関する学説には、「詞」に所属させる場合、「辞」に所属させる場合、副詞として認める場合があった。日本語の接続詞は、意味的な観点によっては、「順接・逆接・同列・補足・添加・対比・転

換」のように分類できる。接続詞が、「語と語、句と句、文と文、連文と連文、文章と文章」のような形態の中で、どんな形態を接続するか、ということは、接続詞によって異なる。

七 体言の形式化による接続表現

体言が名詞としての実質的な意味を失って、接続語のような機能を果たしている場合がある。ここでは、体言の形式化による接続表現の意味について考察することにする。

七・一 体言の形式化による接続表現の形態

(七九) 一方を見つめたまま動かない。

(沖森卓也二〇〇三…九〇)

(八〇) 都市では人口の過密が大きな問題になっている一方、中心部の人口減少が進み、ドーナツ化現象が深刻である。

(沖森卓也二〇〇三…機能語部二一)

(八一) 都市では人口の過密が大きな問題になっている。一方、農村では過疎化が深刻である。

(沖森卓也二〇〇三…機能語部一八)

(七九～八一)の「一方」は、同じ形態であるが、その働きは違う。

(七九)の「一方」は、独立の実質名詞としての内容を持っているものである。(八〇)の「一方(で)」は、従属節の要素と主節の要素を繋ぎ合わせる働きをする接続助詞的な用法を示している。(八一)の「一方、」は、文頭において、先行する文とのつながりを示す接続詞的な用法で用いられている。沖森(二〇〇三…機一～一九)は、(八〇・八一)の「一方(で)」と、「一方、」のような「接続語」を、「機能語」と称している。寺村(一九八四…二一〇)は、(八〇)の「一方(で)」のように、「被修飾名詞が、実質的な意味を失って、関係的なものに変化し、その他の語との結びつきかただけで、名詞としての特徴を保つもの」を、「名詞の形式化」としている。本稿では、

体言が接続助詞的、または接続詞的な用法に用いられるものを、「体言の形式化による接続表現」と称することとする。

(八〇)のように、体言(名詞または形式名詞)の中で、その名詞が形式化して、接続助詞的に用いられているものには、

「一方」の以外にも、「之間(あいだ)、あと(後)、のうち、あまり、以上、いま(今)、うえ(上)、うち、おり、限り、結果、現在、ころ、今春、今日、昨今、際、末、瞬間、ため、直後、通り、ところ、場合、半面、ほか、ほど、まま、よう――」

などがある。また、体言(名詞または形式名詞)の中で、その名詞が形式化して、接続詞的に使われているものには、「一方、他方、同時に、半面、反面――」などのようなものがある。

体言の形式化による接続表現の中には、それだけで、接続助詞的に用いられるものもあれば、必ず、「体言＋助詞」の形で接続助詞的に用いられるものもある。

(八二)たとえば、核兵器が五〇%削減されたとしても、相互不信が根強く残る限り、平和に近づいたとはいえない。
(朝日、88.8.6、社説)

(八三)(外国人の留学生)食費を節約するために、八百屋から大根の葉をもらってきて調理している女子学生もいる。
(朝日、88.4.19、社説)

a・食費を節約するため、八百屋から大根の葉をもらってきて調理している女子学生もいる。
(八四)新憲法によって初めて地方自治の理念が導入されたものの、戦前の中央集権を許容する意識は残った。

(朝日、88.5.20、社説)

a・*新憲法によって初めて地方自治の理念が導入されたもの、戦前の中央集権を許容する意識は残った。

(八五)あの人はお金がないくせに、高いものばかり買いたがりです。

(文化庁一九七五・二九四)

a・*あの人はお金がないくせ、高いものばかり買いたがりです。

(八二)の「く限り」は、形式化した体言だけでも、接続助詞的に用いられている場合である。(八三)の場合は「くために」という接続助詞的な用法であるが、(八三a)のように、助詞「に」を取り除いた、「くため」という形でも適格文になる。しかし、(八四・八五)の「くものの・くくせに」の場合は、助詞「の・に」を取り除いて、(八四a・八五a)のように、「くもの・くくせ」という形に変えると、非文になる。つまり、「くものの・くくせに」のようなものは、必ず、「体言+助詞」の形で接続助詞的な働きをすることができる。

このように、必ず、「体言+助詞」の形で接続助詞的な用法を持つものには、「くくせに、くだけに、くたびに、くと同時に、くととも(共)に、くふうに、くものの、くくせに、くくせに、くだけに、くたびに」などがある。

体言の形式化による接続表現については、寺村秀夫・井手至・仁田義雄などによって、部分的には指摘されてきたのである。本稿では、集めた用例を分析して、体言の形式化による接続表現の意味の分類を試みることにする。

七・二 体言の形式化による接続表現の分類

七・二・一 順接

①理由

従属節の叙述内容の理由・原因を基にして、それに従う叙述内容を主節でも述べる形である。これに属するものには、「〜だけに、〜ため(に)、〜ゆえ(に)、……」などがある。

(八六)労働省は外国人労働者の受け入れ態勢を整備するため、来年度から省内に外国人雇用対策室を設置する。

(日経、88.9.28、社説)

(八七)ごちゆうもの着物ができましたゆえ、おとどけいたします。

(八八)近年、ハイテク装備が導入され、“機械に使われる隊員”というイメージも強まる傾向にあるだけに、

特に若い(自衛)隊員に対する教育訓練は重要である。
(読売、88.8.25、社説)

②結果

従属節の叙述内容の結果を基にして、それに従う叙述内容を主節でも述べる形である。これに属するものは、「〜あまり、〜結果、〜すえ(末)、……」などがある。

(八九)(五日制を実施した場合、……)授業時間を減らした結果、学力水準が下がっては困る、との父母の声が背景にある。

(九〇)(ペレストロイカ推進の)成功をあせるあまり、「左右の反対派」を切りすて、一種の独裁へ走ること

(朝日、88.9.4、社説)

は決して好ましいことではない。

(朝日、88.10.2、社説)

(九二) (公衆電話の色は、――) あれこれ試した末、サーファー雑誌の題字色の、鮮やかな緑に決めた。

(読売、88.9.6、社説)

七・二・二 逆接

従属節の叙述内容に対して、それに反する叙述内容を主節で述べる形である。これに属するものには、「くもの、くくせに――」がある。特に、「くくせに」は、従属節の叙述内容に対して、それを非難したり不満を表したりすることで、主節の叙述内容を述べる形である。

(九二) 日本は一人当たりの国民総生産 (GNP) がアメリカを抜いたというものの、住宅の質の面で、米国の水準に遠くおよばない。

(朝日、88.3.29、社説)

(九三) あの人はお金がないくせに、高いものばかり買いたがります。

(文化庁一九七五・二九四)

七・二・三 添加

従属節の叙述内容と同じものを、主節の叙述内容でも付け加えて述べる形である。従属節で主なことを述べて、それに準ずるものを主節でも付け加える形である。この場合は、主節に内容を追加することによって、文全体がより詳しくなる。これに属するものには、「くうえ、くなか、くほか、――」などがある。

- (九四)米国などでは、年間授業時間が日本より少ないうえ、教科の内容も幅広く、日本にはないものも多い。
(朝日、88.1.20、朝刊)
- (九五)韓国の浦項総合製鉄が中国と合併で製鉄所を建設するという情報が流れるなか、中国は日本の鉄鋼メーカーへも同様の協力要請をする。
(産経、88.9.7、朝刊)
- (九六)世界共通の仕様を開発した本田技研工業は、米国で生産した乗用車の日本への逆輸入を始めたほか、カーデザインに優れた米国にデザインセンターを設置している。
(日経、88.8.30、朝刊)

七・二・四 並列

従属節の叙述内容と主節の叙述内容を入れ替えても、文全体の意味には変わりがない形である。これに属するものには、「くと同時に、くとともに、――」などがある。

- (九七) (労働時間の短縮は、――) 貿易摩擦の一因ともなっている長時間労働を改め、欧米並みにすることは、国際的責任であると同時に、「豊かさを実感できる社会」(竹下首相)を作るための国民的課題でもある。
(読売、88.6.21、社説)
- (九八) (日本が――) 国際経済面で、一層積極的な役割を果たすとともに、国際政治の安定のためにどういう貢献ができるのかを明らかにする時を迎えている。
(毎日 86.6.19 社説)

七・二・五 対比

この「対比」は、更に、「対比」と「交代」に分けることができる。

① 対比

従属節の叙述内容と主節の叙述内容が相反しているものをつなぎ合わせる形である。この場合、文の内容の重みは従属節と主節の両方にあると思われる。これに属するものには、「一方、半面、反面……」などがある。

(九九) (原油価格が――) 安値への復帰は好ましいが、行き過ぎた低水準では、採算に乗らない油田の生産や開発が衰える一方、コストの安い石油に需要が集中する。
(朝日、88.10.24、社説)

(一〇〇) (死者の臓器提供――) 本人が認めていないのに家族が移植に同意することがある半面、本人が提供したいといついても意思が無視されることもあり得る。
(朝日、88.7.15、社説)

(一〇一) 大学教師は給料が安い反面、比較的自由で、自分の好きなことができるため、自己表現にとつては、よい環境にあるといえる。
(益岡隆志一九二二：一九八)

② 交代

従属節の叙述内容と、主節の叙述内容を互いに入れ替えて行うことをあらわす。この場合は、話し手の述べたいところは主節の方にあると思われる。これに属するものには、「代わりに、――」がある。

(一〇二) 預貯金利子は、今年四月から原則として二〇%の一律分離課税になったかわりに、本人確認が甘くなっている。
(朝日、88.10.14、社説)

(一〇三) 英語を教えるもらう代わりに、日本語を教えるあげましょう。

七・二・六 前提

①前提

従属節の叙述内容の条件を基にして、主節の叙述内容が詳しくなったり成立したりする形である。これに属するものには、「〜通り、〜ところ、〜よう、〜」などがある。

(二〇四) (アメリカの包括貿易法案) 「貿易と競争力に関する一九八八年オムニバス法」という正式名称が示す通り、米国内産品の国際競争力を高めるための条項がいくつも盛り込まれている。

(朝日、88.9.14、社説)

(二〇五) わが国にはまだ感染したパソコンはないと思われていたところ、すでにウイルスが上陸し、被害の出ていることがわかった。

(読売、88.9.14、社説)

(二〇六) 国税庁が六十一年分の確定申告について疑問のあった農家三万七千戸を調査したところ、八二%の農家から合計七百五十八億円もの申告漏れが見つかった。

(日経、88.11.9、社説)

(二〇七) 企業が疑心暗鬼にならぬよう、政府もこのさい、コム規制のあり方を含め共産圏貿易の基本政策を確立すべきである。

(朝日、88.3.23、社説)

②例示

従属節で例を挙げておいて、主節では従属節の例に沿って、話し手の述べたいところを示している形である。

これに属するものには、「く場合、くふうに、――」などがある。

(二〇八)牛肉やオレンジと同じようにコメ自由化を求める外圧が早まった場合、国民の理解と共感を得る時間的余裕がはたしてあるのだろうか。(朝日、88.7.4、社説)

(二〇九)円高で安くなったのをきっかけに輸入品への関心が広がり、品質が良くて安いものなら買おうというふうには、消費者の態度が変わってきた。(朝日、88.9.14、社説)

七・二七 限度

① 限定

従属節の叙述内容を制限しておいて、その範囲に沿って、主節の叙述内容を述べる形である。これに属するものには、「く以上、くかぎり、くうち、――」などがある。

(二一〇)国会の役割が、審議を通しての合意の形成にある以上、野党は積極的に国会審議に参加して、自己の主張を国民の前に明らかにすることに全精力を向けるべきである。(日経、88.9.14、社説)

(二一一)たとえ、核兵器が五〇%削減されたとしても、相互不信が根強く残る限り、平和に近づいたとはいえない。(朝日、88.8.6、社説)

(二一二)一般歳出が四千億円弱ふえたうち、千五百三十二億円は防衛費である。(朝日、87.12.24、社説)

②程度

従属節では程度を示しておいて、それに沿って、主節の叙述内容を述べている形である。これには、「〜ほど、……」がある。

(二一三)大型車は普通車とはくらべものにならないほど、道路の維持に負担をかけているわけだ。

(朝日、88.10.10、社説)

七・二・八 付帯状況

従属節の事態が終わらない状態で、主節の事態が行われたり、行なったりすることを示す形である。これには、「〜まま、……」がある。

(二一四)わが国では、政府の的確な対応がないまま、(外国人の)不法就働の急増という形で事態が進んでいる。

(朝日、88.3.29、社説)

(二一五)しかし、「赤字責任論」への意識が薄いまま、米国が再びドル安容認に傾斜すれば、株再暴落への引き金を引くおそれも出てくる。

(日経、88.9.19、社説)

七・二・九 時間

時間を表している接続表現には、大きく、「〜間の類・〜今の類・〜後の類」の三つの類に分けることがで

きると思われる。

①「く間」の類

従属節の叙述内容では、ある限られたひとつづきの時間を示しており、それに沿って、主節の叙述内容を述べる形である。これに属するものには、「く間、く瞬間、……」などがある。

(二一六)カメラマンの注文にこたえて親子(ソウル・オリンピック出場の長谷川選手の)で「バンザイ」を繰り返す間、何度も目頭を押さえた。
(日経、88.9.20、朝刊)

(二一七)二十二口径のピストルが最後の一発を放った瞬間、長谷川選手のシューティングをかたずをのんで見守っていた……歓声が沸き上がった。
(日経、88.9.20、朝刊)

②「く今」の類

従属節の叙述内容に表されているものと、主節の叙述内容に表されているものが、ほぼ同じ時間を示している形である。これに属するものには、「く今、くおり、くころ、く現在、く今日、く今春、く昨今、く際、く時、くたびに……」などがある。

(二一八)核家族や、共働きが普通になってきている今、学校から解放された子供たちは、どこへ行ったらよいのでしょうか。
(朝日、88.9.11、朝刊)

(二一九)南海ホークスの場合も、親会社南海電鉄が、大阪球場を含む自社ターミナル地区の再開発や関西新空港への新線建設に巨額の投資を必要としているおり、赤字球団をこれ以上抱えているわけにはいかない。

判断した結果、売却された。

(産経、88.10.2、主張)

(一一〇)ちよど国連で軍縮総会が開かれるころ、モスクワでは米ソ首脳会談がおこなわれる。

(朝日、88.5.27、社説)

(一一一)米ソの核軍縮が一応成立し東西の緊張が緩和した現在、環境問題こそ政府間で検討すべき人類最大の課題となった。

(読売、88.11.8、社説)

(一二二)憲法は前文で国際協力を訴え、第九条で戦争放棄を確約した。この宣言と決意はだれもが国際化を口にするようになった今日、一段と重みをましてきたように思う。

(朝日、88.5.3、社説)

(一二三)神奈川県の幾徳工業大は、神奈川工科大と改名し、校旗や校歌を一新した今春、志望者が三割もふえた。

(朝日、88.8.27、社説)

(一二四)コンピューターで色をつける技術が進んだ昨今、テレビ用に古い映画の着色がはやる。

(朝日、88.8.21、社説)

(一二五)ECでは、ダンピング防止税がかけられて輸出がストップした外国企業が、輸出を現地生産に切り替える際、現地での部品調達比率を四〇%以上にするよう義務付けている。

(読売、88.10.10、社説)

(一二六)政治腐敗の事件が起きるたびに、政治家の資産公開法の制定と政党本位の選挙制度への移行が叫ばれるが、その場限りに終わっている。

(読売、88.9.8、社説)

③「その後」の類

従属節の叙述内容が終わってから、主節の叙述内容がつづいている形である。これには、「その後、くあと、くのち、……」などがある。

(二二七) つい先ごろ、国土庁で初の女性キャリアの採用が内定した。この女性学生は、普通高校から通信制に移った後、大検を経て大学に進む道を選ぶという異色のコースをたどっている。

(読売、88.10.25、社説)

(二二八) 全体の献血率も六十一年に初めて前年を下回ったあと、引き続き下降線をたどっている。

(読売、88.7.11、社説)

(二二九) いまの法案(刑事施設法案)は、五十七年提出の法案が廃案になったのち、修正を加え、昨年再提出されたものだが、基本的性格に変化はない。

(読売、88.5.7、社説)

七・三 まとめ

「七」では意味的な観点によって、体言の形式化による接続語を、「理由(結果)、逆接、添加、並列、対比(対比・交代)、前提(前提、例示)、限度(限定・程度)、付帯状況、時間(間・今・後)」の九つに分類した。特に、名詞が形式化して接続助詞的に用いられている語句の中では、「時間」の意味を表わすものが多かった。

八 本章のまとめ

日本語の接続表現の体系的な研究をするために、「連用形・並列助詞・接続助詞・接続詞・体言の形式化による接続」などの接続表現の全般について考察した。その結果をまとめると、次のようである。

(一)「接続・接続語・接続成分・接続表現」という用語の概念を確かめてみた。

本稿の接続は、「語と語・句と句・文と文・文章と文章」などをつなぎ合わせる時の「接続」である。「接続助詞・接続詞」のような品詞を接続語と言う。「連用形・接続助詞・並列助詞・接続詞」などによる表現を「接続成分」または「接続表現」という名称を用いているが、接続成分とは構文論的な用語である。

(二)用言の活用形(連用形)による接続表現には、先行要素と後行要素の独立性が強く陳述成分に近い典型的並列と、独立性が弱くて連用成分に近い継起的並列に分けられるが、典型的並列と継起的並列は、互いに連続しているものである。

(三)日本語の並列助詞の分類は、主に意味的な観点によって分類されているが、構文的な観点によっても、並列助詞の分類を試みた。構文的な観点によつて並列助詞を分類する時、基準になったことは、「並列要素の形態」と「最後の並列助詞の現象」であった。「並列要素の形態」が、「①体言、②「体言+助詞」、③用言」の中でどれであるか、また「最後の並列助詞の形態」が、「④無形化(省略)、⑤有形無実化」になるかどうか、という五つの観点から日本語の並列助詞を分類したところ、次の三つの類に分類することができた。

I 類…　くとくと、くなりくなり

II 類…　ととかととか、とかとか、くだのくだの、くやらくやら、

III 類…　くやくや、くのくの、くにくに

(四)「日本語の接続助詞の分類」はどの学者もたいてい同じであった。意味的な観点による接続助詞の下位分類の場合は、「順接仮定、順接確定、逆接仮定、逆接確定」という四つの項目は共通的に認められていることもあった。その他に、「順接並置・逆接並置」、または「時間的接続・単純接続」などを付け加えることであった。

諸学者の「接続助詞の分類」を参照にして、日本語教育という観点から、「日本語の接続助詞の分類」を再構成してみた。まず、日本語の接続助詞を、大きく条件接続と一般接続の二つに分けることにした。条件接続は、さらに「①順接仮定(たら・と・なら・ば)、②順接確定(から・ので)、③逆接仮定(ても)、④逆接確定(が・けれども・のに)」に分け、一般接続はさらに「⑤時間的接続(てから・ながら)」と「⑥単純接続(し・て)」にわけた。このように、日本語の接続助詞は六つの項目に分類したほうが、日本語教育に適用しやすい分け方になると考えられる。

(五)日本語の接続詞に関する学説には、「詞」に所属させる場合、「辞」に所属させる場合、副詞として認める場合があった。意味的な観点による日本語の接続詞の分類は、たいてい同じであった。ほとんど「順接・逆接・同列・補足・添加・対比・転換」というような項目に分類していた。

また、接続範囲によって、日本語の接続詞の分類を試みた。大きく四つのグループに分けられた。そのグループの特徴は、主に、

I 類…「語と語、句と句」を接続するものである。

II 類…「句と句、文と文」を接続するものである。

III 類…「文と文、連文と連文」を接続するものである。

IV 類…「文章と文章」をも接続するものである。

のようである。

(六) 意味的な観点によつて、体言の形式化による接続語を、「理由(結果)、逆接、添加、並列、対比(対比・交代)、前提(前提、例示)、限度(限定・程度)、付帯状況、時間(間・今・後)」の九つに分類した。特に、名詞が形式化して接続助詞的に用いられている語句の中では、「時間」の意味を表わすものが多かった。

日本語の接続表現の全体像を示してみた。以上の研究を基に、「日本語の接続表現の体系」を立ててみたい。

(注)

注1 渡辺実(一九七二)、「接続語」松村明編『日本文法大辞典』、明治書院、p.383

注2 渡辺実(一九七二)、『国語構文論』、塙書房、pp.264～300 参照

注3 生田目弥寿(一九八二)、「接続の表現」『日本語教育事典』、大修館書店、pp.210～214 参照

注4 渡辺(一九七一・二二四～二六二)の『国語構文論』の「並列の職能」を基にして、筆者が再整理したものである。

注5 渡辺実(国語構文論一九七一・二二六)の「並列助詞の名称は橋本進吉博士以来世にひろまってきたが」と、此島正年(一九七三・二二九)の「並立助詞という名目は橋本進吉氏の創設に係るもので……」などを参照にした。

注6 「並列の特徴」は、渡辺(一九七一・二二四～二三〇)の「並列の職能」『国語構文論』の内容を基にして、筆者が再整理したものである。

注 7 田中章夫(一九七八)、「7助詞(3)」大野晋他編『岩波講座・日本語7』(文法Ⅱ)、岩波書店、pp. 40
3~409 参照

注 8 渡辺実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、pp. 105~107、pp. 249~252 参照

「素材」というものは、渡辺文法の用語である。例えば、「桜と梅が植えてある。」のような例文の場合、並列助詞「と」の先行要素と後行要素である「桜」と「梅」は、それぞれ「素材」となる。また、並列助詞「と」によって結合された「桜と梅」は、より大きな連用成分の素材を作るので、「素材群」としてゐる。

注 9 山口明穂(一九七一)、「接続助詞」松村明編『日本文法大辞典』、明治書院、pp. 384~385 参照

注 10 山田孝雄(一九三六)、『日本文法学概論』、宝文館、p. 532 参照

注 11 山田孝雄(一九三六)、『日本文法学概論』、宝文館、pp. 532~533 参照

注 12 橋本進吉(一九七八)、『助詞・助動詞の研究』、岩波書店、pp. 55~57 参照

注 13 時枝誠記(一九五〇)、『日本文法・口語篇』、岩波書店、pp. 192~193 参照。

注 14 渡辺実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、pp. 264~300

接続助詞の定義は、渡辺実(一九七一)の「接続の職能」『国語構文論』の内容を参考にして、筆者が作ったものである

注 15 渡辺実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、p. 282

注 16 渡辺実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、p. 284

注 17 宮地裕(一九八〇)、「接続助詞」国語学会編『国語学大辞典』、東京堂、p. 554 参照

注 18 接続助詞の分類の図は筆者が再構成したものであるが、接続助詞の例は宮地裕(一九八〇)の説明内容を参考にして、筆者が入れたものである。また、「④その他」に属する接続助詞には、「けれど(も)」「が」

- の他にも、「くせに、こととて、たつて、ところが、ところか、ものなら、ものの」がある。
- 注 19 生田目弥寿(一九八二)、「接続の表現」日本語教育学会編『日本語教育事典』、大修館書店、pp. 211～214 参照。「接続の表現」という題目で書かれた内容であるが、その中から「接続助詞」の部分を取り出してまとめたものである。なお、生田目は「逆接」を「逆説」と表記しているので、生田目の分類に言及する部分では、「逆接」ではなく「逆説」という表記を使用する。
- 注 20 生田目弥寿の「図」は、生田目(一九八二:二二一～二二四)の説明内容を参照して、筆者が作成したものである。
- 注 21 渡辺実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、p. 296 参照
- 注 22 仁田義雄(一九八二)、「助詞」日本語教育学会編『日本語教育事典』、pp. 146～154 参照。
- 注 23 <表・2>は、仁田義雄(一九八二)の「接続助詞」の説明内容を参照して、筆者が作ったのである。
- 注 24 橋本進吉(一九七九)、『国文法体系論』、岩波書店、p. 112
- 注 25 橋本四郎(一九六七)、「接続助詞と接続詞」森岡健二他編『講座日本語の文法』(3・品詞各論、明治書院、p. 173
- 注 26 山田孝雄(一九三六)、『日本文法学概論』、宝文館、p. 393
- 注 27 山田孝雄(一九三六)、『日本文法学概論』、宝文館、p. 392
- 注 28 渡辺 実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、p. 404
- 注 29 佐藤武義(一九七七)、「接続詞」佐藤喜代治編『国語学研究事典』、明治書院、pp. 145～146
- 注 30 市川 孝(一九七七)、「副用語」大野晋他編『岩波講座・日本語 9』(文法 I)、岩波書店、pp. 252～253 参照
- 注 31 塚原鉄雄(一九六八)、「接続詞」『月刊文法』(十一月号)、明治書院、p. 42

- 注 32 鈴木一彦(一九八二)、「接続詞」松村 明編『日本文法大辞典』、明治書院、p. 384
- 注 33 市川孝(一九七七)、「副用語」大野晋他編『岩波講座・日本語6』(文法I)、岩波書店、pp. 252～25
- 注 34 鈴木一彦(一九八二)、「接続詞」松村 明編『日本文法大辞典』、pp. 383～384
- 注 35 長田久男(一九八七)、『国語連文論』、和泉書院、p. 7
- 注 36 この調査に用いた用例は、

「朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞・毎日新聞・産経新聞」などの新聞と、
 文化庁(一九七五)、『外国人のための基本語用例辞典』、大蔵省印刷局(第二版)
 横林宙世・下村彰子(一九八八)、『接続の表現』、荒竹出版、などの本、
 から収集したものである。

第二章 「が」と「のに」との比較をめぐって

一 はじめに

日本語の接続助詞は、主に意味的な観点によって分類されている。その分類の中で「が」と「のに」は共に「確定逆接」を表すものである。「が」と「のに」の意味・用法については、既にいくつかの研究が行われているが(註1)、それぞれの意味を記述することにとどまっている。

接続助詞「が」と「のに」とは「確定逆接」に属するので、その意味と用法も非常によく似ている。

例えば、

(一) a. 何度も説明したが、あの人はよく分からなかった。

b. 何度も説明したのに、あの人はよく分からなかった。

のように、「が」と「のに」はニュアンス的な違いを除けば、置き換えてもいい。

このように、「が」と「のに」は類似点もあるが、類義語であるから、意味と用法の相違点もあると思われる。

「が」と「のに」の用例を分析して、意味・用法の特性を解明してみることにする。

二 「が」「のに」の構文と主節の文末表現

接続助詞の本質は、元来全く別個の二つの叙述内容を何らかの関係で結合・統一させる職能である(註2)。つまり、接続助詞は先行要素と後行要素を繋ぎ合わせる役割をしている。接続助詞が先行要素すなわち従属節と後行要素すなわち主節を繋ぎ合わせるとき、接続助詞によって「主節の文末表現の制限」が見られる。

例えば、

- (二) a. あいつのことだから、少しは持って帰るだろう。
b. *あいつのことなので、少しは持って帰るだろう。(注3)

(二-a)は適格文であるが、(二-b)が非文になるのは、「ので」はその主節の文末(以下、文末)に推量表現「だろう」を取らない性質を持つているからであろう。

接続助詞によって「主節の文末表現」が制限される現象は、その接続助詞の文法的な特徴によるものであると考えられる。この場合、文法的な特徴というのは、その接続助詞の勢力が主節の文末のどの部分まで及んでいるか、ということである。

(二)の場合、「から」はもともとその勢力が文末の推量表現まで及んでいるが、「ので」はその勢力が文末の推量表現までには及ばないからであると解釈してもいいだろう。

「二」では、「が」と「のに」に共に共起する文末表現は除いて、「が」だけに現われる文末表現を考察することにする。ある表現が「のに」の文末には現われないが、「が」の文末には現われるとすれば、それは「が」と「のに」の用法を区別させる明らかな根拠になると考えられる。次のような表現が「が」文末にだけ現われる。

二・一 推量

文末に「〜だろう」のような推量表現が現れる場合について考察することにする。

- (三) (米国ユタ州ブリガムシティー)いまの人口一万人八千人中、一万三千人は同社(軍需企業・サイオコール社)に依存しているが、今度の軍事予算削減の打撃はあれほどひどくはないでしょう

(AERA' 90年1月2日、P.23)

(四) a (地球) 温暖化の犯人として太陽光、地熱、風力を利用する新エネルギーと原子力はシロ、天然ガスは灰色、石油、石炭はクロだが、石油は二十一世紀もエネルギーの主流を占めるだろう。

(朝日新聞、89.10.29)

のように、「が」の文末には、「くでしよう、くだろう」という表現が現われる。「の」にも、

(五) a・そうだ。確かに駄馬が多い。

何億円という馬が現実存在しているのに、うちの馬たちは、その何百分の一くらいの値段にしかならい
だろう。

(中1、光村図書、p.53) (注4)

のように、文末に「くだろう」が現われる。

(五 a)の「くだろう」の前に準体助詞「の」を入れて、

(五) b・何億円という馬が現実存在しているのに、うちの馬たちは、その何百分の一くらいの値段にしか
らないのだろう。

のように、その文末を「くだろう」に変えても、(五 b)は適格文になる。(注5)

(五 a)の「だろう」は、「うちの馬たちは、その何百分の一くらいの値段にしかならない」ことすなわち主節だけを推量しているのではない。「何億円という馬が現実存在しているのに、うちの馬たちは、その何百分の一くらいの値段にしかならない」という主節と従属節を合わせた文全体を「だろう」と推量しているのである。

しかし、「が」の場合は、(四 a)の「くだろう」の前に準体助詞「の」を入れて、

(四) b・* (地球) 温暖化の犯人として太陽光、地熱、風力を利用する新エネルギーと原子力はシロ、天然ガスは灰色、石油、石炭はクロだが、石油は二十一世紀もエネルギーの主流を占めるのだろう

のように、その文末を「〜のだろう」に変えてみると、(四 b)は非文になる。(四 b)の非文が示しているように、「が」の接続範囲は「〜占める」までではなく、文末の推量表現「〜だろう」まで及んでいると考えられる。

(四 a・b)〜(五 a・b)によって、「のに」の接続範囲は文末の推量表現「〜だろう」までには及ばないと言えよう。それで、推量表現「〜だろう」は「のに」の文末表現と言いがたい。

従属節を「A」、主節を「B」とすれば、

「〜が」… ^「A」が、「B」〜だろう」v

「〜のに」… ^「A」のに、「B」〜だろう」v
のように表すことができる。

また、「が」構文は次のような推量系の文末表現と共起する。

(六) 「日米関係は今後二、三年間は悪化するだろうが、長期的には改善されよう」。

(AERA、90年1月2日、P.35)

(七) 朝鮮半島を久しく隔ててきた「冷戦の壁」を時代の潮流が洗っている。壁を乗り越えるにはまだ時間がかかりそうだが、その水位が上がり始めたのは間違いない。

(朝日新聞、89.2.3)

(八) ワシントンは東京の政治状況に配慮しつつ交渉の時期をさぐるだろうが、わが国は対応していくための貴重な時間を失いつつあるのかもしれない。

(朝日新聞、89.5.23)

(九) 旧憲法下でのさまざまな法律が、表現の自由を空文化した。いまは違う。表現の自由を制限しようとする動きが一部にあるが、現憲法が定めた大河の流れは変えられまい。

(朝日新聞、88.5.3)

(一〇) 技術面では、害虫に強いコンピューターシステムや感染を早期発見するプログラムの開発が望まれている。

るが、これも、害虫の進化とのいたちごっこになりそうだ。

(朝日新聞、89.12.7)

「が」構文は、「すでしよう、すだろう」の他に、(六〇一〇)のように、

「す(よ)う、す間違いない、すかもしれない、すまい、すそうだ」など

のような推量系表現と共起するが、「のに」は推量系表現とは共起しにくい(註6)。

推量表現は、ある事柄が未だ確かなものとしては確認されていないことであるから、話し手の心的態度の表明といった主観的なものである。

二・二 希望 (勧誘・要求)

希望表現に代表されるのが助動詞「すたい」である。希望の助動詞「すたい」が文末に現われる場合について、調べてみよう。

(二一)製品の一部ではNISからの輸入急増で値くずれ現象も出始めているが、消費者の立場からはむしろ望ましいことを指摘して置きたい。(朝日新聞、88.5.31)

(二二)のように、「が」構文の場合は「すたい」が文末に現われるが、「のに」構文には「すたい」が文末に現われない。「が」は、「すたい」の他に、

「すてはどうだろうか、すてほしい、すてもらいたい」

のような「希望・勧誘・要求」の文末表現と共起するが、「すのに」は「希望・勧誘・要求」の表現とは共起しにくい。

(二二)ミサイル拡散防止については西側先進国で一応の取りきめができているが、それを世界的な協定に格上げする方向で首相は積極的に動いてはどうだろうか。(朝日新聞、88.5.27)

(一三) 家族連れや二人で見る映画もちろん必要だが、孤独で病んだ心に夢や共感を与える視点も映画作家は忘れないでほしい。(朝日新聞、89.12.1)

(一四) 文部省宇宙科学研究所は一九九五年以降に惑星探査に乗り出す計画を発表したが、ぜひ世界の人々に感動を与える企てになってほしい。(読売新聞、89.8.27)

(一五) 均等法についての知識がない中小企業などもあるようだが、婦人少年室などの指導によって不当な事例の解消に努めてもらいたい。(日本経済新聞、88.6.1)

「ほしい・くではどうだろうか・くではほしい・くしてもらいたい」などの表現は、「未実現の事態」を表わしている。未だ実現されていない事柄についての、話し手の態度表明であるから、主観的である。

二・三 命令

「が」と「のに」の命令表現との共起について調べてみることにする。

(一六) お忙しいでしょうが、ぜひおこし下さい。

「が」は文末の命令表現と共起するが、「のに」は文末の命令表現と共起しにくい。

命令は、聞き手に対して、話し手が望む行為や状態を、遂行・実現するように命じる言語表現である(佐々)。相手の行動による反応を期待する表現である。未だ実現されていない事柄に対しての、「反応の期待」という話し手の態度表明であるから、主観的な表現である。

二・四 当為・主張

当為・主張を表していると思われる「くではならない、くなければならぬ、くざるをえない」などの表現

も接続助詞「が」とは共起するが、接続助詞「のに」とは共起しにくい。このような現象からも、「が」は文末に主観的な表現が現われるが、「のに」の文末には主観的な表現が現れにくいと言えよう。

(二七)わが国の政治は、度重なる政権交代で流動したが、日米関係に空白状態を生ずるようなことがあつてはならない。(読売新聞、89.8.28)

(二八)この(小田原地帯の地震の)確率は若干の仮定のもとに行われた試算であるので、その絶対値が全く正しいとはいえないが、日本列島のうちでもっとも高い確率となっていることに注目しなければならぬ。(AERA、90年1月16日、p.58)

(二九)ソ連が歴史の「負の遺産」を解決するのは至難ではあるが、民族運動を力で抑圧するのは時代逆行といわざるをえない。(朝日新聞、89.8.31)

ここで、注目すべきところは、「が」構文はその文末に「推量・希望(勧誘・要求)・命令・当為(主張)」などの表現と共起するが、「のに」構文はそうではない、ということである。「推量・希望(勧誘・要求)・命令・当為(主張)」などの表現は、一つの共通の性格を持っている。それは、話し手の主観に関する事柄の表現であり、話し手の主観に基づく表現なのである。

日本語の場合、ある事柄についての話し手の態度表明は、文末で決められる。文全体の意味が主観的であるか客観的であるかは、その文の文末で決定される。「が」構文の場合、その文末に主観的なことを表す表現が現われ得るといえるのは、「が」の接続範囲が話し手の主観的な態度を表明している「推量・希望(依頼・勧誘)・命令・当為(主張)」などのところまで及ぶことができると言えよう。それに対して、「のに」の接続範囲は話し手の主観的な態度を表明している表現までには及ばないことを表しているだろう。

三 「が」「のに」と従属節

「二」では、主節の文末表現によって、「が」と「のに」が話し手の主観的な態度表明であるかどうかについて

て考察してみた。「が」構文は文末の主観的な表現とも共起しやすいが、「のに」構文はそうではない、という現象が従属節の場合も見られる。「三」では、「が」と「のに」の従属節に現れる要素について考察することにする。

三・一 引用句

まず、従属節に引用句が現われる場合について考えてみよう。

(二〇) a. 中心部に近づくにつれ、市街戦のさなかという一 *が / のに 一、武器一つ持たない市民が街頭を埋める。(ルーマニア事態) (AERA 90年1月16日、p. 14)

(二一) a. もう夜も九時近いという一 *が / のに 一、研究室だけは電燈が消えていない。(現代語の助詞・助動詞、p. 177) (注8)

(二〇 a) と (二一 a) では、「が」構文は非文であるが、「のに」構文は適格文である。

しかし、(二〇 a) と (二一 a) の従属節に「〜という」の語句を取り除くと、

(二〇) b. 中心部に近づくにつれ、市街戦のさなか一だが / なのに 一、武器一つ持たない市民が街頭を埋める。

(二一) b. もう夜も九時近い一が / のに 一、研究室だけは電燈が消えていない。

(二〇 b) と (二一 b) のように、ニュアンス的な違いはあるけれども、「が」と「のに」のどちらを使っても適格文になる。

引用は、ある発言が別の発言を報告するというタイプのものである(注9)。つまり、文全体の発言の場において、ある発言の場を再現しているものである。引用が話し手の発言ではなく、他者の発言を報告するというこ

とであるから、状況を客観的に表現しようとする意図が含まれていると言えよう。

三・二 時間表現

従属節に時間を表す語句が用いられる場合も、「が」と「のに」の用法の違いが見られる。

- (二二二) a. 昨日は雨だった。 が / のに、遠足に行った。
b. 今日は雨。 のだが / なのに、遠足に行く。
c. (天気予報によれば) 明日は雨。 のだが / *なのに、遠足に行く。

(二二二)では、「が」は、過去・現在・未来の事柄について、すべて適格文になる。しかし、「のに」は従属節の過去や現在の語句とは共起するが、未来の語句とは共起しにくい。

(二二二a)の「昨日は雨だった」や(二二二b)の「今日は雨だ」の場合は、話し手の直接的な経験に基づいた判断であるが、(二二二c)の「(天気予報によれば)明日は雨だ」では「明日雨が降るかどうか」はあくまでも予測であり、確かな事柄ではない。(二二二)のように、「が」構文の従属節には、未だ実現されていない未来の表現とも共起するが、「のに」構文はそうではない。未来の表現も推量や希望や命令などのように、未だ実現されていない事柄についての話し手の判断であるから、主観的であると思われる。

四 「が」「のに」と独立性

接続助詞が従属節と主節を繋ぎ合わせる場合、従属節と主節の間には従属の度合(以下、従属度)が存在する。その従属度が「高い」ということは、独立性が「低い」ことを意味し、従属度が「低い」ということは、独立性が「高い」ことを意味する。「が」構文と「のに」構文の場合における従属度、すなわち独立性について調べてみよう。

(二三) a・魚は自然では、水草の匂をかぎ、仲間の臭や餌の臭や敵の臭などをかぐことができるのであるが、また他の魚の泳ぐ音や水上を走る舟の音などをきくことができるのであり、空中に生きてゐる動物も、水中に棲んでゐる動物も、やはり匂や音を感じていることには変りはない。

(現代語の助詞・助動詞、P.20)

b・魚は自然では、水草の匂をかぎ、仲間の臭や餌の臭や敵の臭などをかぐことができるのである。また他の魚の泳ぐ音や水上を走る船の音などをきくことができるのであり、空中に生きてゐる動物も、水中に棲んでゐる動物も、やはり匂や音を感じていることには変りはない。

(二四) a・ハンガリーは百三十一カ国目の韓国承認国となったが、これは韓国にとって歴史的なことである。

(日本経済新聞、89.2.2)

b・ハンガリーは百三十一カ国目の韓国承認国となった。これは韓国にとって歴史的なことである。

(二三 a ～二四 a) の場合は、「が」を省略して(二三 b・二四 b) のようにしても、文全体の意味には変わりがない。接続助詞「が」の省略が可能であるというのは、「が」によって繋がれている先行要素と後行要素は、どちらも陳述に近い性質を持っているからであろう

つまり、(二三 b・二四 b) のように、それぞれ独立した文に近いと思われる。しかし、「のに」の場合は、すべての例文において省略することが出来ない。(二三・二四) のような現象から、「が」によって繋がれている先行要素と後行要素は、「のに」よりもその独立性が高いと言えよう。

(二五) (自衛隊の海外派遣をめぐる海部首相の答弁) 海部首相らしい慎重ないまわしだが、にもかかわらず、韓国の主要各新聞が直ちに反発した。

(朝日新聞、89.10.20)

(二六) 旅行に行く時間も金もあるが、しかし、健康が許さない。

(二五～二六) の場合は、接続助詞「が」によって繋がれている従属節と主節の間に接続詞「にもかかわら

ず、しかし」の挿入が可能である。しかし、「のに」によって繋がれている従属節と主節の間には接続詞が現れている例文は見つからなかった。

接続詞の役割はもともと文と文を繋ぎ合わせるところにある。接続助詞によって先行要素と後行要素が繋ぎ合わせている構文で、その接続助詞のすぐ後に接続詞の挿入が可能であるというのは、先行要素と後行要素はそれぞれほぼ文に近い性質をもっているからであろう。その場合の主節と従属節の間の従属関係は独立性が高いと思われる。

つまり、接続詞の挿入が可能である「が」構文は「のに」構文よりも独立性が高いと言えよう。

(二七)ちよつと伺いますが、駅はどう往きますか。

(二八)すみませんが、ちよつとお待ちください。

(二七～二八)の場合は、「が」の前置き用法である。前置きは、話し手が主節を述べる前に触れておく表現である。(二七～二八)で、従属節の「ちよつと伺いますが」と「すみませんが」の部分省略して、主節の「駅はどう往きますか、ちよつとお待ちください」の部分だけを言っても、話し手の意見を充分に相手に伝えることができる。前置きの部分の省略が可能であるというのは、従属節と主節との間には従属関係が高くなく、ことを意味するからであろう。「が」構文には前置きの用法があるのに対して、「のに」構文には前置きの用法がない。この前置きの用法からも、「が」によって結ばれている従属節と主節の間は、「のに」によって結ばれている従属節と主節の間よりも独立性が高いと言えよう。

(二九) a. 熱がある 一 が ／ の に 一、外出した。

(二九 a)では、「が」構文と「のに」構文の両方共に適格文になる。従属節の格助詞「が」を「は」に置き換えると、

(二一九) b・熱はある「が」／＊のに、外出した。

のように、「のに」は非文になる。

「は」は主題を表わし、文末の陳述にかかるといふ用法を持っている。(二一九b)のように、従属節の格助詞「が」を主題「は」に置き換えるのが可能であるのは、「が」構文の従属節がほゞ文に近い性質を持っているからであろう。言い換えれば、独立性の低い従属節は、その中に主題の「は」を含まない(注10)。

(二一九)からも、「はが」構文は「はのに」構文より独立性が高いと考えられる(注11)。

接続助詞「が」には、省略・接続詞の挿入・前置きなどの用法があるが、「のに」にはこういう用法がない。つまり、「が」構文は従属節と主節との独立性が高いが、「のに」構文は従属節と主節との独立性が低い。

「のに」構文では、従属節と主節がのっぴきならない従属関係にある。言い換えれば、「が」構文は、従属節と主節との矛盾対立が弱いが、「のに」構文は従属節と主節との矛盾対立が強いと言えよう。

五 「のに」構文の特徴

次の例文は「のに」を「が」に置き換えにくい例、または、「のに」を「が」に置き換えると不自然さを感じる例である。

(三二〇) a・あんなに幸せなのに、何が不足なのだろう。

(三二〇) a)は、「あんなに」という言葉を使うことによって、誰が見ても「あの様子である」ことを意味している。従属節の事柄をより具体的に示しておいて、主節で従属節の条件に反する事柄を述べている形を取っている。従属節で「あんなに」という言葉を用いて話し手の強い期待感を示しているにもかかわらず、主節ではその期待に反する表現になっている。話し手の期待感が大きかっただけに、その期待外れに対する強い不満の気持ちの主節に表れていると考えられる。

(三〇) b. ?あんなに幸せだが、何が不足なのだろう。

のように、(三二b)が落ち着かない文になるのも従属節の強調にあるだろう。

(三二) (国民年金支給) ただ、不安なのは、六十歳定年さえ完全実施が難しいのに / ?が、六十歳までの雇用が確保できるかどうかという点だ。 (読売新聞、89.1.27)

(三二)では、「六十歳」という数字を用いて「具体的な提示」を示している。特に、とりたてて詞「さえ」のため、従属節の事柄が強調されている。この場合は、「のに」を「が」に置き換えることが出来ない。

(三二) a. B子さんは電車で通学してします。

ある日、電車に乗ってみると、他の座席があいているのに / ?が、三人の高校生がシルバーシートとでふざけていました。 (中3、教育出版、P.168) (註12)

(三二)では、「他の座席が空いている」という「事柄の具体的描写」を表わしている。空いている座席に座るのが普通のことである。その場合、「のに」の意味は一般的な常識から見た期待はずれに対する話し手の不信や不満を表す形で主節に示されている。

(三〇) ~ (三二)の主節には、共通的な意味特徴が見られる。

(三〇) c. 何が不足なのだろう。

(三二) c. 六十五歳までの雇用が確保できるかどうかという点だ。

(三二) c. 三人の高校生がシルバーシートでふざけていました。

従属節の条件に対して、主節の評価のすべてが「一」であるということである。主節の評価が「一」であれば、「のに」構文の意味は話し手の「不満・不信」を表していると考えられる。

次は、主節の評価が「十」である場合について調べてみよう。

(三三)病人 一 なのに / ?だが 一、元気に話す。

(三四)暑い 一 のに / ?が 一、汗一つかかない。

(三五)わたしが出会った耳の不自由な人たちは、わたしたちの思いもよらない苦勞をしている 一 のに / ?が 一、明るく親切でした。
(中3、教育出版、P.166)

(三三) (三五) では、従属節の「病人だ・暑い・目の不自由な人なので、苦勞をする」ということは、たいして誰でも同じ感じを持つ事柄である。具体的、客観的な事実が従属節の条件として示されている。

(三五) (三七) の主節にも、共通的な意味特徴が見られる。その主節をもう一度示して見れば、次のようである。

(三三) c・元気にはなす。

(三四) c・汗一つかかない。

(三五) c・明るく親切です。

(三三) c (三五) c では、主節の共通的な意味特徴は「十評価」である。

つまり、従属節の条件に対して、主節の評価が「十」である場合は、「のに」構文の意味は話し手の「称賛・感嘆」などを表わしていると考えられる。

「のに」の意味は主節の評価によって、大きく二つに分けることが出来る。

「のに」の意味は、基本的には「意外性」を表しているが、主節の評価が「一」である場合は、話し手の

「不満・不信」などを表わし、主節の評価が「+」である場合は、話し手の「称賛・感嘆」などを表していると言えよう。

六 まとめ

「が」と「のに」との意味・用法の特性を分析を試みた。その結果をまとめてみると、次のようである。

(一) 「が」構文は、「推量・命令・希望(勧誘・要求)・当然(主張)」など、話し手の主観的な表現が主節の文末に現れるが、「のに」構文の場合はそうではない。「が」構文の場合、その文末に主観的なことを表す表現が現れ得るとするのは、「が」の接続範囲が話し手の主観的な態度を表明しているところまで及ぶことができるからであると考えられる。それに対して「のに」の接続範囲は話し手の主観的な態度を表明している表現までには及ばないことを表していると考えられる。

(二) 「のに」の従属節には引用を表わす「く」という」の語句が現れることができるが、「が」の従属節には引用句を表わす「く」という」が現れる例文は見つからなかった。「が」の従属節には、過去・現在・未来の事柄を表わす時間表現が現れることができる。しかし、「のに」の従属節には過去や現在の語句とは共起するが、未来の語句とは共起しにくい。

(三) 接続助詞「が」には、省略・接続詞の挿入・前置きなどの用法があるが、「のに」にはこういう用法がない。これは、「が」構文は従属節と主節の独立性が高いが、「のに」構文は独立性が低いことを意味すると考えられる。

(四) 「が」構文と「のに」構文は共に従属節の事柄から予想される結果と反対の事柄が主節に続くが、「のに」構文の意味は、基本的には話し手の「意外性」の意味を表わしている。主節の評価が「-」である場合は、話し手の「不満・不信」などを表し、主節の評価が「+」である場合は、話し手の「称賛・感嘆」などを表している。

(注)

注1 伊藤 勲(一九八七)、「『けれども』・『のに』の用法」『日本語学校紀要』(第11号)、国際学友会

国立国語研究所(一九八〇)、『現代語の助詞・助動詞―用例と実例―』、秀英出版、などがある。

注2 渡辺 実(一九七二)、『国語構文論』、塙書房、P.282

注3 永野 賢(一九五二)、「『から』と『ので』はどちらがうか」『国語と国文学』(第二十九卷第二号)、

東京大学国語国文学会、P.33

注4 石森延男他編(一九八九)、『国語1』、光村図書

注5 「のに」構文の主節の文末が推量表現「〜だろう」でおわる例文の場合、収集した十例の中で九例が

「〜のだろう」の形であった。

注6 本論の第六章、p.169 参照

「のに」構文の主節の文末には「ようだ・らしい・はずだ」のような根拠のある推定系表現は現れるが、その用例は稀であった。

注7 橘 豊、「命令表現」松村明編(一九八二)、『日本文法大辞典』、明治書院、pp.830～831 参照

注8 国立国語研究所(一九八〇)、『P.177

注9 砂川有里子(一九八八)、「引用文における場の二重性について」『日本語学』(9月号)、明治書院、

P.14

注10 野田尚史(一九八九)、「真性モダリティをもたない文」『日本語のモダリティ』(仁田義雄他編)、くろしお出版、P.140

注11 次の例文は、「は」の「対比」の用法であるが、「が」によって接続される先行要素と後行要素との間には、並列関係が成立する場合がある。

(例文)

(一) a. 昼間は暖かくなったが、夜はまだ寒い。

b. 夜はまだ寒いが、昼間は暖かくなった。

注
12

(二) a. 風は寒いが、日差しはまだ暖かい。
b. 日差しはまだ暖かいが、風は寒い。

(一・二)の先行要素と後行要素との間には、従属関係はほとんどなくなる。その代わりに、独立性は非常に高くなる。しかし、「の」によって接続されている先行要素と後行要素の間には、「は」の「対比」による並列関係が成り立たない。

木下順二他編(一九八九)、『新訂中学国語3』、教育出版

第三章 「ものの」構文をめぐって ―「が」構文との比較を中心に―

一 はじめに

日本語の接続表現「ものの」は、会話ではあまり用いられていないものであるが、新聞、雑誌、文学作品などにはよく使われている表現である。

(一)新憲法によって初めて地方自治の理念が導入されたものの、戦前の中央集権を許容する意識は残った。

(朝日新聞「以下、朝日」、88. 5. 20)

「ものの」は、(一)のように、先行叙述内容「新憲法によって初めて地方自治の理念が導入される」と後行叙述内容「戦前の中央集権を許容する意識は残る」をつなぎあわせて、より大きな素材群を結成して、陳述成分の素材を作る役割をしている。つまり、「ものの」は接続助詞のように用いられている。

本稿では新聞、雑誌、文学作品などから集めた用例を分析して、接続表現「ものの」構文の意味と用法の特徴について考察することにする。また、「ものの」は接続助詞「が」と似ているところが多いので、「ものの」構文と「が」構文を比較することにする。

二 「ものの」の従属節

接続助詞ごとに、その従属節には現れうる語句の制約がある。「ものの」構文の従属節の特徴について考察することにする。

二・一 丁寧語「ます体」

(二) 昨日まであちらこちら探しましたが、どうしてもその家が分かりません。 (鈴木忍…二五〇)
(三) 滝廉太郎は日本の生んだ名作曲家で、二十四才の若さでなくなりましたが、「荒城の月」「箱根の山」など、いつまでも人々の心に残るすばらしい曲を作っています。 (鈴木忍…二五〇)

(二・三)は、従属節が「ます体」になっている。「が」の例文である。ここで、「が」と共に逆接の用法に用いられている「ものの」を「が」の代わりに置き換えてみると、

(二) a・*昨日まであちらこちら探しましたが、どうしてもその家が分かりません。
(三) a・*滝廉太郎は日本の生んだ名作曲家で、二十四才の若さでなくなりましたが、「荒城の月」「箱根の山」など、いつまでも人々の心に残るすばらしい曲を作っています。

のように、(二 a・三 a)の例文は共に非文になる。しかし、(二・三)で、「ます」を取り除くと、

(二) b・昨日まであちらこちら探したが、どうしてもその家が分かりません。
c・昨日まであちらこちら探したものの、どうしてもその家が分かりません。
(三) b・滝廉太郎は日本の生んだ名作曲家で、二十四才の若さでなくなりましたが、「荒城の月」「箱根の山」など、いつまでも人々の心に残るすばらしい曲を作っています。
c・滝廉太郎は日本の生んだ名作曲家で、二十四才の若さでなくなりましたが、「荒城の月」「箱根の山」など、いつまでも人々の心に残るすばらしい曲を作っています。

のように、「が」構文と「ものの」構文は、共に適格文になる。これは「が」の従属節には「ます体」形が現れることができるが、「ものの」の従属節には「ます体」が現れることができないことを表わすのであると考えられる。

従属節の中で、「ます体」が現れる接続助詞には「が・けれども・と・から・し・たら・のに・て」などが

ある(註1)。

二・二一 ムード

(四)朝から考えているのだが、どうもわからない

(五)韓国の南北関係(冷戦の)壁を乗り越えるにはまだ時間がかかりそうだが、その水位が上がり始めたのは
間違いない。(朝日、89.2.3)

(四・五)は共に「が」の例文であるが、その従属節にはムードの表現である「のだ」と「そうだ(様態)」
がそれぞれ現れている。(四・五)で「が」の代わりに、逆接の用法に用いられている「ものの」を置き換え
てみると、

(四) a・*朝から考えているのもの、どうもわからない。

(五) a・* (冷戦の)壁を乗り越えるにはまだ時間がかかりそうなもの、その水位が上がり始めたのは間違
いない。

のように、非文になる。しかし、「が」の従属節のムード表現を取り除くと、

(四) b・朝から考えている「が、もの」、どうもわからない。

(五) b・(冷戦の)壁を乗り越えるにはまだ時間がかかる「が、もの」、その水位が上がり始めたのは間
違いない。

のように、(四b・五b)は両方共に適格文になる。つまり、「が」の従属節にはムード表現が現れるが、「も
の」の従属節にはムードの表現が現れることができない。

このような現象は、「ものの」の語構成とも関係があると思われる。「ものの」は形式名詞「もの」に連体助詞「の」が付いて、接続助詞的に用いられてはいるが、まだ名詞としての性質も残っている(注2)。「ものの」の従属節にムード表現が現れないのは、連体修飾節にムードの表現が現れないこと(注3)と同じ現象であろう。

二・三 引用句

(六)ここは静かだとはいうものの、買い物にも不便だ。

(横林宙世…六二)

(七)一人当たりの国民所得が米国を抜いたとはいうものの、日本人の生活水準は米国人のせいぜい七割程度だといわれる。

(朝日、88.8.30)

(八)消費税創設の代わりに物品税などが廃止され、所得税も減税されたとはいうものの、納税者として納得できることではない。

(朝日、89.4.9)

「ものの」の用例を調べてみると、(六)(七)のように、従属節に引用句「〜と(は)いう」が用いられている場合がよく見られる。

三 「ものの」構文の主節の文末表現

接続助詞は先行要素と後行要素を繋ぎ合わせる役割をしている。接続助詞が従属節と主節を繋ぎ合わせるとき、接続助詞による「主節の文末表現の制約」がみられる。

接続助詞によって、「主節の文末表現」が制約される現象は、その接続助詞の文法的な特徴によるものであると考えられる。

この場合、文法的な特徴というのは、その接続助詞の勢力が主節の文末のどの部分まで及んでいるか、ということである。「ものの」構文の文末表現について調べてみることにする。

三・一 推量

(九)一人で出るとはいうものの、時間がかかるだろう。

(二〇)(ハワイでは――)外国人による不動産投資の規制法案を出した。審議未了で廃案になったものの、もともと日系人が多く、対日感情も悪くないハワイで、こうした法案が出されたこと自体、日本人の投資態度が反省を迫られているあらわれといえよう。
(朝日、88.5.4)

(二一)「小石せんせえ。」

ひと月ぶりの声をきくと、ぐっと体に力はいり、「はい。」と答えたものの、風はその声をうしろのほうへ持っていたようだ。
(二十四の瞳、ポプラ社、p.30)

(二二)二人の女は安田と握手して離れた。

階段をおりながら、八重子が、

「ねえ、とみさん、お時さんをちよつとのぞいてみない？」

と誘った。

「わるいわ」

と、とみ子も言ったものの、まんざらでもないらしい。二人はそのまま、十五番ホームに駆け上がった。

(点と線)

「ものの」構文の文末には「〜だろう、〜よう、〜ようだ、〜らしい」のようなものが現れる。推量の意味を表している「〜間違いない、〜かもしれない、〜まい、〜そうだ(様態)」などの表現は「が」構文の主節の文末には現れているが(註も)、「ものの」構文の主節の文末に現れる用例は見つからなかった。これは「もの」構文の接続範囲が「が」構文の接続範囲よりも狭いことを意味していると思われる。

三・二 当為(主張)

(一三) (エネルギー自給率) 日本は八十一%漸くイタリヤ並になったものの、エネルギーの基盤は脆弱と言わざるを得ません。(AERA. 90. 2. 27)

(一四) 金はないものの、子供は教育しなければいけない。(横林宙世一九八八・六二)

(一五) 日本へのビザ発給の遅れを不満とする中国人が、上海の日本総領事館に押し掛けたのはつい先月のことだ。日中間の話し合いでとりあえず鎮静化してはいるものの、抗議行動は、日本側の受け入れ態勢にも問題があることを突き付けるものだった。(読売新聞「以下、読売」、88.12.28)

(一六) (小口預金金利の自由化措置) これにより従来のように肯定歩合の上下だけに連動する規制金利から脱するものの、各金融機関が自由に金利を設定するわけではない。

(一七) 日米両政府はこれまで、国内市場規模や外国系半導体の対日供給額の算定手法では一致したものの、米IBM自社内製品を外国系と扱うかどうかで日米間の食い違いが残ったためだ。(日経、91.5.31)

当為(主張)を表す「ゝざるを得ません、ゝなければなりません、ゝものだ、ゝわけではない、ゝためだ」などの表現が「ものの」の主節の文末に現れる。このような、当為を表す表現は「が」の文末にも現れる。

また、「ゝが」の文末には、「ゝたい、ゝてほしい、ゝてもいらない」などの希望の表現や、「ゝてくたさい」などの命令の表現があらわれるが、「ゝものの」の文末には希望と命令の表現が現れる実例はみつからなかった。

「三」をまとめて図示すると、次のようである。

接続詞 文末表現	が	ものの
推量	○	○
希望	○	×
命令	○	×
当為	○	○

四 「ものの」構文の意味と用法

「ものの」の用例を分析・検討して、「ものの」の意味特徴を考察することにする。

四・一 逆接

四・一・一 肯定と否定の対立による逆接

(二八)消費税創設の代わりに物品税などが廃止され、所得税も廃止されたというものの、納税者として納得
 できることではない。(朝日、89.4.9)

(二九)商人たちも於継の言葉に相槌は打つものの、それが玄人も目を瞞るように見事なものだとは思っていない。
 (華岡青洲の妻)

(二〇)(男女差別)昇進・昇格については改善されているもの、まだ男子優先的な考えが消えていない。

(日経.88.6.1)

(二一)(ロシア語)早大文学部では露文志望者の数に大きな変化はないもの、第二外国語にロシア語を選択する学生数が数年前に比べ確実に増加している。

(AERA' 90.1.23)

(二二)現行の物品税法でさえ、全く実行されていないもの、「物品税を課されている商品を販売するときは、その税額を別掲明示しなければならない」と定めている。

(日経.88.5.28)

(一八～二〇)従属節の叙述内容と主節の叙述内容が、それぞれ、肯定と否定が対立する場合である。また、(二一・二二)の場合は、従属節の叙述内容と主節の叙述内容が、それぞれ、肯定と肯定に対立するものである。このように、「ものの」の構文で、従属節の叙述内容と主節の叙述内容が、「肯定と否定」、または「否定と肯定」に対立していると、その「ものの」構文の意味関係は逆接になる。

四・一・二 意味的対立による逆接

(二三)(日本の海外援助)量は急増したものの、日本のODAはいま一つ評判が良くない。(AERA' 90.1.30)

逆接というのは、先行叙述内容によって示される事態を条件として、むしろ予期されない事態が成立するという、因果関係を示すものである(注5)。

(二三)の場合は、「日本の海外援助の量が急増した」という従属節の事態から予期される主節の事態は、「日本のODAは評判が良くなる」というようになることであるであろう。しかし、(二三)の場合、従属節と主節の関係は、「日本の海外援助の量が急増したが、日本のODAは評判が良くない」のように、従属節の事態から予期されない事態が主節に生じたので、(二三)の「ものの」構文の意味関係は「逆接」になる。

(二四)なぜ地方分権は進まないのか。それはわが国の政治体質に深い関係がある。新憲法によって初めて地方

自治の理念が導入されたものの、戦前の中央集権を許容する意識は残った。

(朝日、88.5.20)

(二五)民間設備投資)89年も伸び率は低下するものの、基調としては依然強いと予想される。(AERA' 90.3.6)

(二四)での従属節の叙述内容「地方自治の理念を導入する」と主節の叙述内容「戦前の中央集権を許容する意識が残る」、(二五)での従属節の叙述内容「民間設備投資の伸び率が低下する」と主節の叙述内容「基調としては依然強いと予想される」、のようなことも、従属節と主節の間の意味関係は順当な成り行きではなく、意味的に対立している。(二三～二五)のように、「ものの」構文で、従属節と主節の間の関係が対立していると、その意味関係は逆接になる。

四・二 不充分

「四・二」の構文は、従属節の叙述内容と主節の叙述内容を「ものの」が繋ぎ合わせている構造を成している。この構文では求められている期待値があるとと思われる。その期待値は文の表面には現れていないが、書き手、または話し手が目指している期待値を推し量ることはできる。

例えば、次の例文で、

(二六)少年非行は、ほんの少しずつ減ってはいるものの、なお高い水準にある

(読売、89.4.2)

(二七)(九〇年総選挙)自民党は、勝ったものの、参院での劣勢は変わらない。

(AERA' 90.3.6)

のように、(二六・二七)のそれぞれの期待値は「少年非行が減ること」「自民党が議会で優勢になること」ということであるであろう。

(二六・二七)のように、その期待値の中で、一応達成された部分は叙述内容として、従属節に示されているが、主節には、まだ達成されていない部分、即ちまだ足りない部分が示されていることになる。もし、その足りない部分が達成されれば、期待が適うことになる。「四・二」の構文の意味は、書き手、または話し手が考

えている期待にはまだ達していないことである。つまり、「四・二」の構文は「不充分」であることを示していると考えられる。

引用の形式「とはいうものの」のような、引用の形式で、「不充分」の意味を示す場合がある。

(二八)日本は一人当たりの国民総生産がアメリカを抜いたとはいうものの、住宅の質の面で、米国の水準に遠く及ばない。
(朝日、88.3.29)

(二九)ここは静かだとはいうものの、買い物にも不便だ。
(横林宙世一九八八…六二)

(三〇)一人当たりの国民所得が米国を抜いたとはいうものの、日本人の生活水準は米国人のせいぜい七割程度だといわれる。
(朝日、88.8.30)

(三一)消費税創設の代わりに物品税などが廃止され、所得税も減税されたとはいうものの、納税者として納得
できることではない。
(朝日、89.4.9)

引用は、ある発言が別の発言を報告するというタイプのものである(注6)。引用が話し手の発言ではなく、他者の発言を報告するということであるから、状況を客観的に表現しようとする意味が含まれていると思われる。「ものの」の従属節に「とはいう」のような引用の形式がよく用いられているというのは、「もの」には状況を客観的に伝える意図が含まれているからであると考えられる。

特に、「が」は、あいまいな認識を示した文章をもたらしやすい欠点を持っている(注7)ので、新聞の社説やTVのニュースなどでは、「ものの」が多く用いられていると思われる。

(二八～三一)の「とはいうものの」表現の意味は、従属節の事柄は客観的な事実であるが、まだ「不充分」であることを表わすのである。

「四・二」のような、「不充分」の意味を表わす構文は、評価面においても、共通的な特徴が見られる。まず、従属節の評価を調べてみるために、(二六～二八)で従属節だけを独立させてみると、

(二六) a・少年非行は、ほんの少しずつ減ってはいる。

(二七) a・(九〇年総選挙) 自民党は、勝った。

(二八) a・日本は一人当たりの国民総生産がアメリカを抜いた。

のようである。(二六 a～二八 a)の評価は「プラス」である。「四・二」で明らかにされたように、「四・二」構文の従属節は期待・目標としていたことの中で、その期待・目標が既に達成されたことであるので、評価的にも「プラス」になっている。

次は、主節の評価について調べてみよう。

(二六) b・(少年非行は) なお高い水準にある。

(二七) b・(自民党は) 参院での劣勢は変わらない。

(二八) b・(日本は) 住宅の質の面で、米国の水準に遠く及ばない。

(二六～二八)の主節である(二六 b～二八 b)は、「(少年非行は) なお高い水準にある、(自民党は) 参院での劣勢は変わらない、(日本は) 住宅の質の面で米国の水準に遠く及ばない」のように、内容的には三つ共に不十分であることを表わしているので、その評価が「マイナス」になる。

「四・二・一」の構文をモデル化してみると、従属節の叙述内容をA、主節の叙述内容をBとした場合、従属節の評価が「+」、主節の評価が「-」であるので、

「A (+) ～ものの、～ B (-)。」

のように表すことが出来ると思う。

また、「不十分」を表す「ものの」構文は「主語」にも特徴が見られる。

- (二六) c. 少年非行は、ほんの少しづつ減ってはいるものの、(少年非行は) なお高い水準にある。
- (二七) c. (九〇年総選挙) 自民党は、勝ったものの、(自民党は) 参院での劣勢は変わらない。
- (二八) c. 日本は一人当たりの国民総生産がアメリカを抜いたというものの、(日本は) 住宅の質の面で、米国の水準に遠く及ばない。

(二六・二七・二八)を(二六c・二七c・二八c)のように、主節に従属節と同じ主語である「少年非行」「自民党」「日本」をそれぞれ補って見ても、文の全体的な意味には変わりがない。つまり、「不充分」を表わす構文は、従属節と主節は同一主語になる。

四・三 時間的推移

次は、「ものの」の用法の中で、時間の流れに沿って、事態の推移を示すものである。

- (三二) (アキノ政権の反対勢力) 「黄色い革命」をいっしよに闘ったものの、その後、大統領の政治姿勢を強く批判し、たもとを分かつていた。(AERA' 90. 4. 3)
- (三三) (富士の裾野の水異変) それが七五年には十二万トンにまで減り、一時持ち直したものの、最近はまだ二十万トンを下回っている。(AERA' 90. 6. 19)
- (三四) 森氏は金融業者から資金をかき集めて株を買い占め、株をつり上げたものの、売り抜けに失敗、今年一月下旬、行き詰まってしまった。(AERA' 90. 5. 22)
- a. 森氏は金融業者から資金をかき集めて株を買い占め、株をつり上げたものの、(その後)、売り抜けに失敗、今年一月下旬、行き詰まってしまった。「(その後)は、筆者注」

「四・三」の場合、時間的推移を表す言葉が従属節と主節の間に現れる。(三二)の「その後」、(三三)の「最近は」のような時間的推移を表す言葉が用いられている。(三四)の場合も、従属節と主節の間に、時間的推移

を表わす「その後」を入れて、(三二四 a)のようにしても適格文になる。従って、(三二一〜三二四)の「ものの」の構文は、時間的推移を表わすものであると考えられる。

四・四 題目・場面の提示

(三五) 党首会談に限らず、先の臨時国会での首相答弁は言葉遣いは丁寧なもの、その内容は官僚が作ったメモの範囲を出していない。
(朝日、87.12.27)

(三六) 「彼」にとつて七瀬は、時原という幾分斜視気味の醜い女子事務員同様、「彼」に奉仕する存在であり、七瀬の美貌は認めたものの、それは「彼」への奉仕に関係がないのだった。(エディプスの恋人)

(三七) これまでの自民党はスキヤンダルが発覚する度に改革の決意を誓ったものの、それは単なる作文に終わり、実効があがらないようなことを繰り返してきた。
(朝日、89.5.21)

(三八) 成り行きでしかたなくヒステリーを演じては見せたものの、あれはかえってまずかった、と、すぐに七瀬は悟った。
(エディプスの恋人)

「四・四」の場合は、主節の題目・場面の内容が従属節で提示されている用法である。(三五〜三八)で、主節の指示語の代わりに、従属節に示されている語句や叙述内容を入れ替えると、

(三五) a. 首相答弁の内容は官僚が作ったメモの範囲を出していない。

(三六) a. 七瀬の美貌は「彼」への奉仕に関係がないのだった。

(三七) a. スキヤンダルが発覚する度に改革の決意を誓ったことは単なる作文に終わり、実効があがらないようなことを、これまでの自民党は繰り返してきた。

(三八) a. 成り行きでしかたなくヒステリーを演じて見せたことはかえってまずかった、と、すぐに七瀬は悟った。

のようになる。(三五 a・三六 a)の場合は、主節の指示語「その・それ」の代わりに、それぞれ、従属節の語句「首相答弁・七瀬の美貌」を入れ替えたということであり、(三七 a・三八 a)の場合は、主節の指示語「それ・あれ」の代わりに、それぞれ、従属節の叙述内容「スキヤンダルが発覚する度に改革の決意を誓った・成り行きでしかたなくヒステリーを演じて見せた」を入れ替えたということである。

つまり、「四・四」は、主節の題目・場面の内容が従属節に提示されている用法である。この「題目・場面の提示」の用法の特徴は、(三五 a・三八 a)のように、主節の指示語の代わりに、従属節の語句や叙述内容を入れ替えても適格文になる。「ものの」の「題目・場面の提示」の用法は、接続助詞「が」の用法と同様、「その・それ・あれ」のような指示語が文面に現れることによって明瞭化する(註)。

四・五 補足

(三九) (コメ市場開放で永田町の建前と本音)口にくそ出さないものの、「食糧安全保障論をタテに、市場を閉ざしているのは、もう限界。いざれ決断を迫られる」との思いは、政府・自民党の幹部に共通している。(AERA' 90.6.26)

(四〇) 土地の異常な高値を招いた積年の土地無策の当然の帰結で、今年に始まった現象ではないが、ほっておけることではない。これほどには目立たないものの、一般の間でも土地持ちをそうでない人の間には、埋めようのない大きな格差が生まれている。

(四一) 一転、大きく反騰はしたものの、今回の株式相場の大暴落はすさまじかった。(天声人語、90冬)

(四二) (シンガポール)英国の植民地から独立したものの、「食糧を生産し、天然資源を産出する国土がない」都市国家だ。(天声人語、90冬)

(三九～四二)の場合は、主節の事柄に、「口にくそ出さない、これほどには目立たない、大きく反騰はした、英国の植民地から独立した」のような、従属節の事柄を補足するものである。

この「補足」の用法は、ある事柄を無条件に認めるのはためらわれ、「確かに…ではある(あつて)が」「もちろん

ん…なのだが」という但し書きや、予想される反論などをあらかじめ付け加える用法である(注9)。

四・六 対比

(四三)非製造業でも、商社や金融サービス業などは利益をあげているものの、不動産事業は過大な投資負担で収益が悪化するケースも相続いている。

(日経、91.7.23)

(四四)埼玉・千葉両県を含めた東京圏の騰勢は鈍ったものの、地価上昇の波は日本列島の主要都市を直撃している。

(日経、89.3.10)

(四五)「小石せんせえ。」

ひと月ぶりの声をきくと、ぐつと体に力がいり、(小石先生は「はい」と答えたものの、風はその声をうしろのほうへ持っていたようだ。

(「小石先生は」筆者注) (二十四の瞳、ポプラ社、P30)

(四六)米失業保険申請件数が予想以上に増えたため、ドル買いは一時弱まったものの、円相場は一三八円六五銭まで下落した。

(日経、91.7.26)

(四三～四六)で、「ものの」構文をモデル化して見ると、

「Aは くであるものの、Bは くである。」
のようになって、二者の対比を表わす。

(四三～四六)では、従属節の主語(A)と主節の主語(B)が、「商社や金融サービス業」と「不動産業」、「東京圏の騰勢」と「地価上昇の波」、「小石先生」と「風」、「ドル買い」と「円相場」、のように、それぞれ、二者の行動・状態を対照させている。この場合、取り立て助詞「は」の働きによって、「ものの」構文の対比の意味が強調されることになる。

四・七 状況の説明

(四七) 私はどうかと案じていましたが、行って見ると思ったより好い家でした。貸間とは云うものの、母屋から独立した平屋建ての一棟で、八畳と四畳半の座敷の外に、玄關と湯殿と台所があり、出入口も別になっていて、庭から直ぐと往来へ出ることが出来、植木屋の家族とも顔を合わせる必要はなく、これなら成程、二人が此処で新世帯を構えるようなものでした。
(痴人の人々)

(四八) 午前と午後とにきまって立がある。

岬の中央に、外海からの風を防風林に遮って、幾棟かの寮が中庭を囲んで散在する。立が行われるのは、僕等が到着した日の午後、皆でアルバイトをして臨時の弓場をつくりあげた、寮の裏手の細長い空地だ。弓場とは言うものの、手前側には筵が敷いてある、向う側に築山を築いたのが曲りなりにもあずちの役目をつとめている、その幅さえ尺二の的が三つ並べられるだけ、というお粗末な代物だ。

(草の花)

(四九) あれは確、若殿様の十九の御年だったかと存じます。思いもよらない急な病気とはいうものの、実はこれその半年ばかり前から、御屋形の空へ星が流れますやら、お庭の紅梅が時ならず一度に花を咲きますやら、御厩の白馬が一夜の内に黒くなりますやら、御池の水が見る間に干上がって、鯉や鮒が泥の中に喘ぎますやら、いろいろ凶い兆がございました。

(邪宗門)

(四七～四九)の「ものの」構文をモデル化してみると、
「Nとはいうものの、～B。」

のようになる。従属節の状況(N)についての説明(B)を主節に示すことである。(四七)では、「貸間」というものに対して、主節ではその貸間の状況を詳しく説明している。この場合、主節の事柄は、「普段思っていたことよりはいいことである」という内容を表わしている。(四八)の場合、従属節の状況「弓場」に対して、「主節の叙述内容」では、「弓場としての形は整っている」というように説明している。(四九)の場合も、従属節での状況である「急な病気」についての説明が「主節の叙述内容」である。

つまり、「四・七」の「状況の説明」では、「主節の叙述内容(B)」は、「従属節の状況(N)」を説明して

いることであるが、その主節の説明の内容は「従属節の状況(N)」で示している一般的な常識とは対立していることであると思われる。

五 「ものの」の慣用的用法

「ものの」の場合、「……からいいようなものの」のような慣用的な表現がよく見られる。

(五〇)老女は人払いをしてから彼に彼の手紙を手渡した。それは開封してあった。

「私が拾ったからいいようなものの、他人の手に拾われたら、どうするおつもりです。」老女はこう叱るように云った。

(赤西礪太)

(五一)「奥さん、なにかなくなつたんですね」

つる子がたたまかけるように訊いた。

「そうね、あなたに話しておいた方がよいかしら。…オパールの指輪がなくなっているの。指輪だからいいようなものの、旦那さまが大事にしている骨董が心配だね。…」

(冬の日)

(五二)「……、愛川吾一というものは、この広い世に、たったひとりしかないのだ。そのたったひとりしかないものが、汽車のやってくる鉄道にぶらさがるなんて、そんなむちゃなことをするつてないじゃないか。いか。」

「……………」

「さいわいに、汽車のほうでとまってくれたから、よかつたようなものの、もし、あのまま進行したら、おまえはどうなつていたと思う。愛川吾一つてものは、もうこの世にはいなくなつていたのだぜ。」

(路傍の石)

(五〇～五二)の場合、従属節の事柄「(なくした手紙を)私が拾った、(なくなつたのは)指輪だ、汽車のほうでとまってくれた」などの出来事は、実際に起こつたことである。しかし、主節の出来事「他人の手に拾われ

た、(なくなつたのは)旦那さまが大事にしている骨董だ、(汽車が)そのまま進行する」などは、実際には起こっていない想定外来事であり、起こる可能性のある出来事である。

このように、「…からいようなもの」表現は、従属節の出来事は好ましくないことであるけれども、主節の想定外来事に比べると、従属節のような出来事になったことは却って幸いであるという意味を表わしていると思われる。

六 まとめ

「ものの」構文の意味・用法の分析を試みた。考察した結果をまとめてみると、次のようになる。

(一)「が」の従属節には「ます体」や「ムードの表現」などが現れるが、「ものの」構文の場合は「ます体」や「ムードの表現」などは現れなかった。このような現象は「ものの」の語構成的な面とも関係がある。

「が」構文は、「推量・命令・希望・当為(主張)」などの表現が主節の文末に現れる。しかし、「ものの」構文の主節の文末には、「推量・当為」の表現は現れるが、「命令・希望」の表現の用例は見つからなかった。

(二)「ものの」構文には、「〜とはいうものの」のような形で、従属節に引用句「と(は)いう」が用いられる場合がよく見られた。

(三)「ものの」構文の意味と用法は、「逆接、不充分、時間的推移、題目・場面の提示、補足、対比、状況の説明」などに分けてみた。

(注)

注1 盧頭松(一九八九)、「従属句における対者敬語」『国語学・研究と資料』(第1号)、p.2

注2 此島正年(一九八一)、「接続助詞『ものー』の語群」『湘南文学』(15)、東海大学日本文学会、pp.13

16 参照

注 3

「ものの」の従属節に、「(からいい)ようなものの」のような慣用句的な表現が現れる実例はあった。この場合、「(からいい)ようなものの」という語句での「ようだ」は、「ものの」節の一般的な「ムードの表現」というよりも、表現全体が一つの慣用的表現を成していると思われる。

・老女は人払いをしてから彼に彼の手紙を手渡した。それは開封してあった。

「私が拾ったからいいようなものの、他人の手に拾われたら、どうするおつもりです。」老女はこう叱るように云った。
(赤西礪太)

・村もみと言っても、それは村びと全体の意見と言うよりは、上に立っている連中のさしがねなことは、知れきった話だからである。おもて向きは、手うちになったようなものの、圧吾にしてみれば、このうらみは忘れられなかった。
(路傍の石)

注 4

本論の第二章、pp. 89～92 参照

注 5

渡辺実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、p. 289

注 6

砂川有里子(一九八八)、「引用文における場の二重性について」『日本語学』(九月号)、明治書院、p. 14

注 7

安本美典(一九七〇)、「接続助詞『が』の文章心理学」『月刊文法』(九月号)、明治書院、p. 112

注 8

伊藤勲(一九八六)、「接続助詞『が』の用法」『日本語学校紀要』(一〇)、国際学友会、pp. 89～90 参照。

注 9

中里理子(一九六六)、「『ものの』の意味・用法について」『東京大学留学生センター紀要』(第六号)、東京大学留学生センター、pp. 103～104 参照

第四章 「ながら(も)」構文の意味・用法について

一 はじめに

日本語の「ながら(も)」は前件の事柄と後件の事柄を繋ぎ合わせる働きをする。「ながら」によって結合される前件と後件は概括的に言えば、二つの動作・状態が共存する関係にあることを表わすのに用いられる。

(一) 救急救命士は、医師と連絡を取りながら、高度な応急処置を行うが、ここで必要になってくるのが、医療機器と十分なスペースを持つ高規格救急車だ。(産経新聞「以下、産経」、920206)

(二) 鹿島は後半、得点機をつかみながら、追加点を奪えなかったのが響いた。

(毎日新聞「以下、毎日」、950622)

(一)の場合、前件の「医師と連絡を取る」と、後件の「高度な応急処置を行う」は同時進行を表している。(二)の場合は、前件「得点機をつかむ」と、後件「追加点を奪えない」は互いに意味的に矛盾している。つまり、(二)は逆接関係で結ばれている。前件と後件の関係が逆接になる要因には、述語の種類、前件と後件の意味、取り立て助詞「も」などが関わっていると思われる。

そこで、本稿では「ながら」構文が逆接に解釈される要因について、詳しく考察することにする。

二 「ながら」節の形態的特徴

「くながら」はいろいろな語に接続する。「くながら」は、(三〇五)のように、動詞や助動詞「られる・させる」、「くしている」などの連用形につく。

(三)世の中には、ときどき「なるほど、もったもだ」と思って聞きながら、どうも腑(ふ)におちない話がある。

(朝日新聞「以下、朝日」、880515)

(四) 市民ボランティアを含む数千人の救助班は新たな崩壊の危険にさらされながら、必死で救助作業を続けた。

(産経、950630)

(五) それ(シェーンベルク作曲、グレの歌)をアバドが、室内乐的な造型感で、随所に静けささえ感じさせながら、ち密に指揮している。

(毎日、950524)

(六) スウェーデンは競技面で冬季五輪に大きく貢献していながら、まだ一度も開催権を与えられていない。

(毎日、950614)

また、(七〜一二)のように、「くながら」は、形容詞の場合は基本形につくが、形容動詞の場合は語幹に接続する。助動詞「くない」にはつくが、助動詞「たい・らしい」にはつかない。特に、打ち消しの助動詞「ない」の場合は、「ない・ぬ・ず」の三つの形につく。

(七) 局面は細かい。しかし記者室で進行を見守っていた小林覚棋聖によると、細かいながらも、「白持ち」というニュアンスだった。

(毎日、950503)

(八) 極東ロシア軍は、依然として大規模な戦力を蓄積、緩やかに近代化も行われ、アジア太平洋地域の安

全に不安定要因となっている。(産経、950630)

(九) 子どもたちは、よくわからないながらも、先生の話をおしんに聞こうとしている。

(外国人のための基本語用例辞典「以下、基本語用例辞典」：七四三)

(一〇) 歌う生徒らの間にまじって、わが子も歌っているのである。耳は聞こえぬながら、ふしは整わぬながら大きく口をひらいて、高らかに歌っているのである。

(国立国語研究所一九五一：一三〇)

(一一) 及ばずながら、あなたにご協力いたしましょう。

(文化庁一九七五：七四三)

その他、「くながら」は、(一二〜十五)のように、判定詞「である」の連用形、名詞、副詞、取り立て助詞などにもつく。

(一) 地震国でありながら、「安全神話」によりかかり、行政も国民も備えを怠ってきた。

(読売新聞「以下、読売」、950624)

(二) 日本は5安打ながら、井口の本塁打などで少ない好機をものにした。

(朝日、950524)

(三) 換気扇の生産額は一九九三年度約千二百億円だが、わずかながら増えている。

(毎日、950604)

(四) 現在の中国には、肩書きは党、国家の中央軍事委員会主席だけながら最高指導者と言ってよい鄧小平氏がいるが、――

(読売、890927)

(三) (一五)のように、「ながら(も)」は、動詞の連用形、形容詞の基本形、形容動詞の語幹、に接続する。また、受身「られる」、使役「させる」、否定「ない・ぬ・ず」などの助動詞、アスペクトの形式「ている」、名詞、副詞、取り立て助詞など、いろいろな語句にも接続する。

三 「ながら」節の述語の種類と逆接

三・一 動詞系述語

金田一春彦は「国語動詞の一分類」(註1)で、「〜ている」という形を取るか取らないか、取る場合、ふつうどういう意味になるかによって、日本語の動詞を「状態動詞、継続動詞、瞬間動詞、第四種の動詞」の四つに分類している。これらの動詞が「ながら」節の述語として用いられる場合(註2)、その「ながら」構文が同時進行に解釈されるか、逆接に解釈されるかについて調べることにする。

三・一・一 状態動詞「ある」

(一六) 山田さんはたくさん金がありながら、まずしそんな生活をしている。(基本語用例辞典…七四三)

(二七)日本のマスコミの集中的な取材や、日本のファンの期待などいろいろなプレッシャーがありながら、冷静に対処してきたことは、投手としてではなく、素晴らしい若者として評価する。(ドジャース・ラン
ーダ監督の野茂投手に対するコメント) (毎日、950604)

(二八)自民党は昨年夏、比較第一党として政権を取れる立場にありながら、第二党の社会党以下の衆院七党の連立によって政権の座から追われた。(読売、940409)

(二六)で、「たくさんお金があると、豊かな生活をする」ということが一般的なことである。しかし、(一六)の前件と後件の事柄は、「たくさんお金があるが、まずしそうな生活をしている」のように、互いに矛盾したものである。(二七・一八)で、前件「いろいろなプレッシャーがある、比較第一党として政権を取れる立場にある」と、後件「冷静に対処する、第二党の社会党以下の衆院七党の連立によって政権の座から追われる」も、それぞれ、互いに矛盾した事柄である。逆接的な用法とは、共存する二つの事柄が内容上矛盾する関係にあることを表すものである(窪³)。(二六・一八)の「ながら」構文で、前件と後件の事柄は、矛盾する関係にあるので、逆接の意味を表わす。

(二六・一八)のように、「ながら」節の述語が、「ある」のような状態動詞である場合は、時間的幅を持たないので、その「ながら」構文は逆接に解釈されるのだろう。

三・一・二 継続動詞

「ながら」節の述語が継続動詞である時、その「ながら」構文は同時進行になる場合と逆接になる場合がある。

(二九)医者は患者の経過を見ながら、使う薬を加減する。

(横林宙世一九八八・七四)

a. 医者は患者の経過を見る。

b. 医者は使う薬を加減する。

(二〇) 救急救命士は、医師と連絡を取りながら、高度な応急処置を行うが、ここで必要になってくるのが、医療機器と十分なスペースを持つ高規格救急車だ。
(産経、920206)

(二一) 一人の盲目の少年は、見事に楽器を打ち鳴らしながら、古いセイロンの悲劇を歌っていた。
(日経、950625)

(一九) の場合、(一九 a・b) のような二つの文にすることができ。 (一九) では、主体「医者」が、前件「患者の経過を見る」と後件「使う薬を加減する」との二つの動作を同時に行うことである。

(二〇・二一) の場合も、前件「医師と連絡を取る、見事に楽器を打ち鳴らす」と後件「高度な応急処置を行う、古いセイロンの悲劇を歌う」が、それぞれ、同時に行われている。

「ながら」構文で、前件と後件が同時進行である場合、同一主体がある動作・作用を一方で行なうのと同時に、平行して他の動作・作用も行なうという関係を表す。「ながら」構文が同時進行に解釈される場合、その述語は、「見る、取る、打ち鳴らす」のように、継続動詞であるのが特徴である。

次は、「ながら」節の動詞が継続動詞であっても、逆接に解釈される場合である。

(二二) 米国は七〇年ごろから貿易赤字を続けながら、基軸通貨の特権を維持してきた。
(産経、920206)

(二三) 同じ地域に住み、同じ学校で学びながら、いじめをする生徒と、そのような心配は全然ない立派な生徒がいる。
(毎日、950414)

(二四) 一方、流通業も「価格破壊」を唱えながら、実際にはスーパーが「疑似百貨店」化する傾向を示している。
(毎日、950705)

(二二) では、前件「七〇年ごろから貿易赤字を続ける」と、後件「基軸通貨の特権を維持してくる」は、互いに意味的に対立している。意味的に対立しているかどうかの判断は、社会の一般的な慣習、常識に依存する、ということになる。

(二三・二四)の場合で、前件「同じ学校で学ぶ、価格破壊を唱える」と、後件「いじめをする、実際にはスーパーが疑似百貨店化する傾向を示している」も、それぞれ、たがいに矛盾した事柄である。
このように、「ながら」節の述語が継続動詞であっても、前件と後件が意味的に対立していると、「ながら」構文は、逆接に解釈されるのである。

三・一三 瞬間動詞

- (二五)電車に乗りながら、平気でたばこをすっている。
(二六)きれいな着物を着ながら、どろあそびをしている。
(二七)大学や高校を卒業しながら、就職が決まっていない「既卒者」が、四月時点で十六万人と、四月としては過去最悪に達している。
- (鈴木忍一九七八…一七七)
(鈴木忍一九七八…一七七)
(産経、950627)

(二五)で、前件「電車に乗っている」ということと、後件「平気でたばこをすっている」ということは、たがいに矛盾した事柄である。(二六・二七)で、前件「きれいな着物を着ている、卒業している」と、後件「どろあそびをしている、就職が決まっていない」も、それぞれ、たがいに意味的に対立している。従って、(二五～二七)の「ながら」構文で、前件と後件の間の関係は、逆接を表わすのである。
前件の述語が幅のある動作でなければ、同時進行にはならない。瞬間動詞の表す事柄は、始まると同時に終わる種類のものである(産経)から、幅のある動作にはなれない。瞬間動詞の場合は、前件の動作が瞬間的に終わって、その結果状態が残っているだけである。
(二五～二七)のように、「ながら」節の述語が「乗る・着る・卒業する」のような瞬間動詞である場合は、時間的幅を持たないので、その構文は逆接に解釈されるのであろう。

三・一四 動詞+「よる」

「状態動詞」は、「〜ている」という形を取らないので、「継続動詞、瞬間動詞、第四種の動詞」に、「〜ている」が付く場合、その「ながら」構文の意味関係について調べてみることにする。

三・一・四・一 継続動詞+「〜ている」

(二八) スウェーデンは競技面で冬季五輪に大きく貢献していながら、まだ一度も開催権を与えられていない。

(毎日、950614)

(二九) 松田さんのマイムは日常生活の中で、いつも目にしていながら、その面白さに気がつかないようなエッセンスがちりばめられている。

(毎日、950423)

(三〇) 傍らで、「東京に住んでいながら、結構知らないところがあるんだよね」とつぶやいたのが、(江戸庶民文化) 愛好会の事務局長を努める馬橋広司さんだ。

(読売、950628)

(二八) で、前件「スウェーデンは競技面で冬季五輪に大きく貢献している」と、後件「まだ一度も開催権を与えられていない」は、たがいに意味的に対立する事柄である。(二九・三〇)の場合も、前件と後件の事柄が、それぞれ、意味的に対立している。(二八〜三〇)の「ながら」構文で、前件と後件の間の関係は、逆接を表すのである。

(二八〜三〇)の、「貢献する、目にする、住む」などは継続動詞である。継続動詞は動作を表すものであるが、継続動詞に「〜ている」が付くと、幅のある動作、現象が始まって、その結果が今も続いているということを表すのがふつうである(注5)。

「ながら」節の述語である継続動詞に、「〜ている」がついている場合、開始の結果を表すことになる。継続動詞に「〜ている」がつくと、その動詞は動きから状態性に変わることになる。(二八〜三〇)で、「ながら」節の述語「貢献している、目にして、住んでいる」などは状態性の述語になる。つまり、(二八〜三〇)の「ながら」構文は、「ながら」節の述語が状態性の述語なので、その意味合いは逆接に解釈されるのである。

三・一・四・二 瞬間動詞十「いる」

(三二) いざ日本に帰ると、学力だけがすべてではないと理解していながら、自分の子に「勉強しろ」とせかしてしまっている。
(読売、950705)

(三二) 幽霊戸籍とは、原爆で亡くなっていながら、死亡届を出す人がいなかったために抹消されていない戸籍のこと。
(産経、910804)

(三三) ハンセン菌が強い感染力を持たず、治療薬によって治癒可能と分かっているが、わが国は強制隔離などの差別を長年許してきた。
(毎日、950513)

(三二) の前件「学力だけがすべてではないと理解している」と、後件「自分の子に「勉強しろ」とせかしてしまっている」、(三二) の前件「原爆で亡くなっている」と、後件「(戸籍が)抹消されていない」、(三三) の前件「ハンセン菌が強い感染力を持たず、治療薬によって治癒可能と分かっている」と、後件「わが国は強制隔離などの差別を長年許している」などのように、前件と後件の関係は、それぞれ、矛盾した関係である。つまり、(三二)～(三三) の「ながら」構文は、逆接の意味合いを表わすのである。

(三二)～(三三) で「ながら」節の述語「理解する、亡くなる、分かる」は、瞬間動詞である。瞬間動詞の場合、「している」は、ある過去(以前)のできごとが終わって、その結果がいまある状態として残っていることを表す(注6)。つまり、瞬間動詞に「している」が付くと、その述語は状態性の述語になるので、その性質上、同時進行を表わすことは出来ない。(三二)～(三三) の「ながら」構文で、前件の述語「理解している、亡くなっている、分かっている」などは、状態性の述語であるので、その「ながら」構文の意味合いは逆接に解釈されるのである。

三・一・四・三 第四種の動詞

(三四) (郵便貯金) ただ、民間の預金と商品性が似ていながら金利面で有利な商品があるのも事実で、「金利差に敏感な人を中心に、郵貯に預け換える動きが出ている」(大手都銀)との批判が高まっている。

(読売、950624)

(三四)で、前件「(郵貯は)民間の預金と商品性が似ている」と、後件「金利面で有利な商品がある」は意味的に対立している。従って、(三四)の「ながら」構文で、前件と後件の間の関係は、逆接を表わすのである。(三四)の「似る」のような第四種の動詞は常に「〜ている」の形で用いられる。この第四種の動詞はある状態を帯びることを表わす動詞である(註1)。(三四)の「似ている」のような第四種の動詞は、状態性述語のようなものであるので、その「ながら」構文は逆接に解釈されるのである。

三・二 形容詞系述語

三・二・一 形容詞

(三五) 田中さんは体は小さいながら、なかなか力がある。(文化庁一九七五・七四三)

(三六) 彼は背は低いながら、なかなかの男前だ。(日本文法大辞典・五九七)

(三七) 年は若いながら、言うことはしっかりしている。(鈴木忍一九七八・一七七)

(三八) 狭いながら、楽しいわが家。(新版日本語教育事典・一六四)

(三五)で、「体が小さい」と、「力がない」というのが一般的なことである。しかし、(三五)では、前件「体が小さい」と、後件「なかなか力がある」は、たがいに矛盾している。(三六〜三八)の場合、前件と後件が、「背が低い」と「なかなかの男前だ」、「年が若い」と「言うことはしっかりしている」、「(家が)狭い」と「楽しいわが家」のようなものも、それぞれ、互いに矛盾した事柄である。つまり、(三五〜三八)の「ながら」構文で、前件と後件の間の関係は、逆接の意味合いを表わすのである。

(三五〇～三八)の「ながら」構文で、「小さい、低い、若い、狭い」のような、形容詞は状態性述語であるので、その性質上、同時進行を表すことは出来ない。「ながら」節の述語が形容詞である場合、その意味合いは逆接に解釈される。

「ながら」節の述語が形容詞である場合のもう一つの特徴は、その形容詞はマイナス評価を表すということである。(三五〇～三八)の場合、「(体が)小さい、(背が)低い、(年が)若い、(家が)狭い」は、「(体が)大きい、(背が)高い、一人前である、(家が)広い」のようなことに比べると、それぞれ、マイナス評価である(註8)。(三五〇～三八)の場合は、前件でマイナスの事柄を述べておいて、後件では、「力がある、男前である、言うことがしっかりしている、楽しいわが家」のように、プラス的事柄を述べている形である。一般的な常識としては、前件が「(体が)小さい、(背が)低い、(年が)若い、(家が)狭い」というような場合、後件は、それぞれ、「力がない、男前ではない、言うことがしっかりしない、楽しくないわが家」というマイナスの評価になることが予想される。しかし、(三五〇～三八)では、前件がマイナス評価であるにもかかわらず、話し手は「ながら」構文の意味を、「なかなか力がある、なかなかの男前だ、言うことがしっかりしている、楽しいわが家」のように、プラス的に評価していることになる。

「ながら」節の述語が形容詞である場合、一般的には、前件はマイナス評価であるが、話し手はその「ながら」構文の全体の意味をプラス的に評価している。つまり、前件では一般的な常識を述べて、後件ではそれに反した話し手の意見を述べる形である。

三・二・二 形容動詞

(三三九) (日本政府の景気対策) 与党や経済界から要望が強い二次補正に関して は 言明は避けるが、「経済情勢を踏まえ、適切かつ機動的な財政運営を行う」として、間接的ながら 秋にも編成する方針を示す。

(日経、950626)

(四〇) 極東ロシア軍は、依然として大規模な戦力を蓄積、緩やかながら近代化も行われ、アジア太平洋地域の安全に不安定要因となっている。
(産経、950630)

(四一) 実験の成功を祝し、ささやかながら慰労会を催すことにしよう。
(日本文法大辞典…五八六)

(三九〇四一)は、形容動詞の語幹に「ながら」が付いている場合である。(三九〇四二)で、前件と後件の間の関係は、それぞれ、「間接的だ」と「編成する方針を示す」、「緩やかだ」と「近代化が行われる」、「ささやかである」と「慰労会を催す」のように、微妙ではあるが、互いに対立する事柄なので、逆接の意味と解釈される。

また、「三・二・一」でも述べたように、「ながら」節の述語が状態性である場合は、その「ながら」構文の意味合いは逆接であった。(三九〇四二)の「ながら」節の述語が「間接的だ、緩やかだ、ささやかだ」のような、形容動詞も状態性の述語であるので、逆接を表わすのである。

三・三 名詞 判定詞

三・三・一 名詞

(四二) 同將軍は八十三歳の高齡ながら、最近も地方への演説に出向くなどきわめて健康。
(毎日、950426)

(四三) 日本は五安打ながら、井口の本塁打などで少ない好機をものにした。
(朝日、950524)

(四四) (テニスのボリス・ベッカー選手) 一九八五年、ノーシードながら、弾丸サーブを武器に、史上最年少の十七歳で優勝した。
(朝日、950709)

(四五) 「村山政權の命」と村山富市首相が意欲を燃やした「戦後五十年の国会決議」は極めて不満足な内容ながら一応、形にはなった。
(毎日、950702)

(四二)で、「八十三歳なら、健康でない」のが一般的なことである。前件「八十三歳の高齡」と後件「きわ

めて健康」は、たがいに矛盾した事柄である。(四二〇～四二五)の場合も、前件「5安打、ノーシード、不満足な内容」と、後件「少ない好機をものにする、史上最年少の十七歳で優勝する、一応形になる」は、それぞれ、矛盾した事柄が「ながら」によって結合されている。

(四二〇～四二五)の場合、前件では、「八十三歳の高齢、5安打、ノーシード、不満足な内容」などのように、一般的にマイナス評価と思われることが述べられており、後件では前件の事柄に反した話し手の判断が下されている。後件の事柄は「少ない好機をものにする、史上最年少の十七歳で優勝する、一応形になる」のように、プラスの評価を表している。つまり、(四二〇～四二五)の前件と後件の間の関係は、マイナスの評価とプラスの評価の対立によって、逆接を表わすのである。

(四六) 阪神大震災の復興関連の住宅需要も九五年度中はあまり期待できず、住宅着工戸数は高水準ながら、九四年度の百五十六万戸から百五十万戸程度に減少するだろう。(日経、950629)

(四七) 私のカウンターパートはパプアニューギニア政府の大蔵計画省に勤めるイギタバ氏。エリート官僚ながら、「直接、人に触れる仕事がしたい」と、あえて農村開発を担当した、その意気を感じて指名したのである。(産経、911001)

(四六・四七)の場合、前件と後件の間の関係は、それぞれ、「高水準なら、住宅着工戸数が九四年度の百五十六万戸を上回る」、「エリート官僚なら、農村開発を担当しない」というのが、一般的に予想されることである。しかし、(四六・四七)では、前件と後件の間の関係は、それぞれ、「高水準ではあるが、住宅着工戸数が百五十万戸程度に減少する」、「エリート官僚ではあるが、あえて農村開発を担当する」というように、一般的な予想に反したことを表わしている。従って、(四六・四七)の「ながら」構文の意味合いは、逆接を表わすのである。

「ながら」が名詞に接続する場合、その名詞が、(四六・四七)のように、プラス評価を表わす場合もあるが、実際の用例では、「高齢、不満足な内容、不本意、小柄、若干、小幅、目立たない形」のように、マイナス評価を表わす場合が多かった。

三・三・二 判定詞「である」

(四八)東京女子医科大学の村田光範教授によるとこれ(小児成人病)には、三つのケースがある。ひとつは小児でありながら、すでに成人病にかかっているケース。(日経、911006)

(四九)戦後の仏外交の力の源泉は国連安保理常任理事国で核兵器保有国、の二点である。加えてこの独自外交によって、経済的には中級国家でありながら、国際政治舞台では一流国家の地位を保持してきた。(毎日、920204)

(五〇)地震国でありながら、「安全神話」によりかかき、行政も国民も備えを怠ってきた。(読売、950624)

(五一)巴側が問題視しているのは、同じ蒸留酒でありながら、日本ではウイスキーなどの課税率が焼酎に比べて四―六倍も高い点。(産経、950623)

(四八〜五一)は、判定詞「である」(註9)が「ながら」節の述語として用いられている場合である。(四八)の場合、「小児であると、成人病にかかっていない」のが一般的な常識である。しかし、(四八)の後件は一般的な常識に反する事柄「成人病にかかっている」となっている。(四九〜五一)の場合も、前件と後件の間の事柄は、たがいに矛盾したものである。従って、(四八〜五一)の「ながら」構文の意味合いは、逆接を表わすのである。

また、判定詞は名詞と結合して名詞述語になる。その名詞述語は状態性の述語である。「ながら」節の述語が判定詞である場合、その「ながら」構文は、逆接に解釈されるのである。

四 「ながらも」構文の意味

「ながらも」は、いわゆる接続助詞「ながら」に取り立て助詞「も」が下接した形である。「ながら」構文には、同時進行と逆接の用法があるが、「ながらも」構文はどのように解釈されるかについて調べることにす

る。

(五二)六年目を迎えた台湾プロ野球は、さまざまな問題を抱えながらも、たくましく成長してきている。

(産経、950708)

(五三)電力の三割を担っている日本の原発の現状は容認しながらも、これ以上の推進にブレーキをかける意見が強まっている。

(朝日、880928)

(五四)気象庁は「一昨年ほどの冷夏にはならない」(予報部)としながらも、平年よりは気温が低くなりそうだと予測している。

(産経、950705)

(五二)で、前件「さまざまな問題を抱える」と、後件「たくましく成長してきている」は意味的に対立している事柄である。互いに矛盾した事柄が「ながらも」によって結ばれている形である。

(五三・五四)も、前件と後件はそれぞれ矛盾する関係にある。つまり、(五五〜五七)で、前件と後件の間の関係は逆接になるのである。

次の(五五〜五七)は、「三・一・二」で、同時進行の意味に用いられている例文である。(五五〜五七)の同時進行の「ながら」を、「ながらも」に入れ替えてみることにする。

(五五)医者は患者の経過を見ながら、使う薬を加減する。

a. * 医者は患者の経過を見ながらも、使う薬を加減する。

(五六)一人の盲目の少年は、見事に楽器を打ち鳴らしながら、古いセイロンの悲劇を歌っていた。

a. * 一人の盲目の少年は、見事に楽器を打ち鳴らしながらも、古いセイロンの悲劇を歌っていた。

(五七)救急救命士は、医師と連絡を取りながら、高度な応急処置を行うが、ここで必要になってくるのが、医療機器と十分なスペースを持つ高規格救急車だ。

a・*救急救命士は、医師と連絡を取りながらも、高度な応急処置を行うが、――

同時進行の「ながら」構文で、その「ながら」を「ながらも」に入れ替えると、(五五a) (五七a) のように、非文になる。これは、「ながら」構文には、同時進行と逆接の意味があるが、「ながらも」構文には、同時進行の意味はなく、逆接の意味しかないということを表していることであると考えられる。

次の(五八) (六〇) の「ながら」構文は、「三・一・二」での、逆接の用法に用いられた例文である。(五八) (六〇) の逆接の「ながら」を、「ながらも」に入れ替えてみることにする。

(五八) 米国は七十年ごろから貿易赤字を続けながら、基軸通貨の特権を維持してきた。

a・米国は七十年ごろから貿易赤字を続けながらも、基軸通貨の特権を維持してきた。

(五九) 同じ地域に住み、同じ学校で学びながら、いじめをする生徒と、そのような心配は全然ない立派な生徒がいる。

a・同じ地域に住み、同じ学校で学びながらも、いじめをする生徒と、そのような心配は全然ない立派な生徒がいる。

(六〇) 一方、流通業も「価格破壊」を唱えながら、実際にはスーパーが「疑似百貨店」化する傾向を示している。

a・一方、流通業も「価格破壊」を唱えながらも、実際にはスーパーが「疑似百貨店」化する傾向を示している。

(五八a) (六〇a) のように、「ながら」構文が逆接を表わす場合は、その「ながら」を「ながらも」に入れ替えても適格文になる。「ながら」構文が逆接である場合、その「ながら」を、「ながらも」に入れ替えると、前件と後件の意味的な対立がもつとはつきりしたものになる。「ながらも」で、「も」は必ずしも逆接の意味を表さない接続表現について、逆接の意味を明示させるものである。「も」によって取り立てられたものが、後

続の述語に対して矛盾する関係にあることを表す(注10)。

五 まとめ

「ながら」構文が逆接に解釈される要因について考察した結果をまとめてみると、次のようになる。

- (一) 「ながら」節の述語が継続動的である場合は、同時進行と逆接の意味を表わすが、前件と後件の事柄が互いに矛盾した場合は逆接になる。
- (二) 「ながら」構文で、前件と後件の意味関係が同時進行に解釈されるか逆接に解釈されるかは、「ながら」節の述語の性質による場合もある。「ながら」節の述語が「状態動詞、瞬間動詞、形容詞、形容動詞、判定詞」である場合や、「名詞・副詞＋ながら」の場合は、状態性の述語になるので、その「ながら」構文は、逆接に解釈される。
- (三) 「ながら」節の述語が「形容詞、形容動詞、名詞、副詞」の場合は、逆接になるが、その語句は主にマイナス評価を表す傾向がある。
- (四) 「ながら」節の動詞に「〜ている」が付く場合、その述語は状態性の述語になるので、「〜ているながら」構文は逆接に解釈される。
- (五) 「ながらも」構文は、同時進行の用法はなく、逆接の用法だけを表わす。

(注)

注1 金田一春彦(一九七六)、『日本語のアスペクト』、むぎ書房、pp. 7~26

注2 「四種の動詞」は、常に「〜ている」の形で用いられるので、「ながら」が直接「第四種の動詞」には接続しない。

- 注3 松村明(一九七一)、『日本文法大辞典』、明治書院、p.587
- 注4 寺村秀夫(一九八四)、『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻』、くろしお出版、p.132
- 注5 寺村秀夫(一九八四)、p.135
- 注6 寺村秀夫(一九八四)、p.125 参照
- 注7 金田一春彦(一九七六)、p.24 参照
- 注8 (例文三七) 年は若いながら、言うことはしっかりしている。
「年が若い」という事柄は、プラス評価にも見えるが、(例文三七)では、「経験が少ない」ということを意味するので、マイナス評価に受け取られる。
- 注9 「だ・である・です」のように、名詞と結合して述語を作るのが「判定詞」である。渡辺実(一九七一…四〇八)では「判定詞」を、「統叙素材を欠く用言」として取り扱っている。
- 注10 紙谷栄治(一九八八)、「係助詞『も』について」『語文』(五〇)、大阪大学文学部国文学研究室、p.35

第五章 「つつ（も）」構文の意味・用法について

一 はじめに

日本語の「つつ（も）」は従属節と主節を繋ぎ合わせる働きをする接続表現である。「つつ」構文の意味・用法は、主に動作の同時進行と逆接の二つの意味で使われている^(注1)。

(一)はたらきつつ、学校を卒業した。

(文化庁一九七五・六二七)

(二)のように、「つつ」は前件「はたらく」と、後件「学校を卒業する」を繋ぎ合わせる役割をしている。「つつ」は従属節と主節を繋ぎ合わせる接続助詞のような役割をしていると思われる。

(二)一年前の今日十月三日、ベルリンのブランデンブルグ門では花火が打ち上げられ、世界中の祝福を受けつつ、東西両ドイツの統一が実現した。
産経新聞「以下、産経」、911003)

(三)大統領は国内ではさまざまな難題を抱えつつ、国外では笑顔をふりまき続ける。

(毎日新聞「以下、毎日」、950628)

(二)は、前件「世界中の祝福をうける」と、後件「東西両ドイツの統一を実現する」が同時に行われている場合である。つまり、前件と後件の動作が同時進行であることを表している。しかし、(三)は、前件「国内ではさまざまな難題を抱える」と、後件「国外では笑顔をふりまき続ける」が対立していることを示してい

る場合である。つまり、(三)は前件と後件の事柄の関係が逆接であることを表している。そこで、本稿では、「つつ」構文の意味・用法を検討し、「つつ」構文が同時進行と逆接に解釈される要因を考察することにする。

二 「つつ」節の述語

「つつ(も)」に上接する述語の種類とその形態的特徴は、次のようである。

(四) 日米自動車問題をめぐる閣僚折衝が制裁期限ぎりぎりの土壇場で合意したことで、二十九日未明の霞が関の関係省庁では、詳細の情報の確認に追われつつも、安どの空気が流れた。

(日本経済新聞「以下、日経」、950629)

(五) 雨は依然として湿原を曇らせつつ、次第に暗くなっていた。(野火、p. 109)

(六) 庄九朗は、閉口した。なまじい、この女とは先刻の「縁」がある。あの「縁」がなく、見知らぬ者ならば、庄九朗は法華経を念誦してやりつつ蹴落としたであろう。(国盗り物語一、p. 61)

(七) 近く二三日以来の二人の感情では、民子が求めるならば僕はどんなことでも拒まれない。又僕が求めるならやはりどんなことでも民子は決して拒みはしない。そういう間柄でありつつも、飽くまで臆病に飽くまで気の小さな兩人は、嘗て一度も有意味に手などを採ったことはなかった。(野菊の墓、p. 31)

「つつ」に上接する要素には、(四)の「詳細の情報の確認に追われつつも」のように受身表現の「くれる」、(五)の「湿原を曇らせつつ」のように使役表現の「させる」、(六)の「法華経を念誦してやりつつ」のように授受表現の「くてやる」、(七)の「である」のように判定詞(註2)のような要素があらわれる。つまり、「つつ」

は動詞と助動詞「(ら)れる・(さ)せる」・「授受表現(てやる)」・判定詞(である)などの連用形に接続する。「ながら」はいろいろな語に接続する(註3)が、「つつ」に上接する要素には動詞と動詞型述語の連用形に限られる。「つつ(も)」の類似語である「ながら(も)」と比べると、「つつ(も)」に上接する要素には動詞と動詞型述語の連用形だけであるという制約がある。

「つつ(も)」と「ながら(も)」に上接する要素をまとめてみると、次の〈表〉のようである(註4)。

〈表〉

接続表現 上接要素	つつ	ながら
動詞	○	○
受動 (ら)れる	○	○
使役 (さ)せる	○	○
授受 てやる	○	○
アスペクト ている	×	○
判定詞 である	△	○
形容詞	×	○
否定 ない	×	○
名詞	×	○
副詞	×	○

三 「つつ」構文の意味と用法

「つつ」構文の意味は、同時進行と逆接であると知られているが、その意味関係を詳しく調べてみることにする。

三・一 同時進行

三・一・一 動作の同時進行

(八)ベトナムは九一年に中国との関係を正常化し、東南アジア諸国連合(ASEAN)とも関係強化を図りつつ、積極的な全方位外交を展開している。
(毎日、950430)

(八)では、「つつ」構文の前件の事柄と後件の事柄が同時に行われている。つまり、前件と後件の事柄は動作の同時進行を表わしている。同時進行の「つつ」構文は、次のように同時進行の意味を示す語句とよくなじむ。

(九)この中でも注目すべきテーマがホロニック経営の推進である。ホロンとはホロス(全体)とオン(個)との調和・統合を目指す概念である。つまり、個々が自律性を保ち活性化しつつ、同時に全体としても統合されたダイナミズムをもつという意味である。
(日経、911006)

(一〇)庄兵衛は喜助の顔をまもりつつ又、「喜助さん」と呼び掛けた。
(高瀬舟、p.213)

(一一) 銀二郎はそれを延津賀や仙吉から聞いたものに尾鱗を付けてわたしに伝え、わたしはまたそのおおむねをここに記しつつ、併せて仙吉の素姓にもふれておこうと思う。(葦手、p. 19)

「つつ」構文が同時進行を表す場合は、(九〇一一)のように、「同時に、又、併せて」のような語句を用いることによって、動作の同時進行の意味合いがもっと明瞭になる。

三・一・二 状態の同時進行

(一二) トルコとビザンチン帝国。東と西。キリスト教とイスラム教。このふたつの文明圏は、今日においても、形を変えつつ、新たなドラマを展開しようとしているのだから。

(コンスタンティノーブルの陥落、p. 260)

(一三) 局長はけむりの輪がくるくるまわって大きくなりつつ、天井へのぼってゆくの見とどけてから俊介の方へ向きなおった。(パニック、p. 56)

(一二・一三)の場合、従属節の事柄は、「形を変える・輪が大きくなる」のように、状態の変化を表すものである。(一二・一三)の「つつ」構文では、前件と後件の状態の変化がある時間帯の中で徐々に行われていると思われる。つまり、従属節の状態が漸次的に変化していき、それと同時に主節の状態も漸次的に変化して行くことになる。

(一四) 自分を産んだ女と、自分の子を産む女との間の、べっとりした黒いわだかまりには、カスパル流の剪刀

さえ役に立たない。耐えきれなくなったとき男には咆哮があるばかりだった。しかし、彼は次第に医者になりつつ、女たちの争いを見ていた。そして全く一人の医者になったとき、彼には女の争いは見えず聞こえなかった。

(華岡青洲の妻、p. 124)

(一五) 雨は依然として湿原を曇らせつつ、次第に暗くなって行った。

(野火、p. 109)

「つつ」構文で、状態の同時進行を表す場合、(一四・一五)のように、主節または従属節には「次第に」という副詞とよくなじむ。「次第に」という語句が従属節または主節に用いられることによって、「つつ」構文の状態の同時進行がより明瞭になる。

三・二 継起

(一六) 光秀は颯爽(さっそう)と若狭へあらわれ、武田家から義秋をひきとり、敦賀湾の海岸線を通りつつ、金ヶ崎城に入った。

(国盗り物語 四、p. 59)

(一六)での「つつ」構文の意味は、前件と後件の事柄は、同時進行であるというよりも、継起的な関係であると思われる。

(一六)の「つつ」を、継起の「〜てから」に置き換えてみると、

(一六) a 光秀は颯爽(さっそう)と若狭へあらわれ、武田家から義秋をひきとり、敦賀湾の海岸線を通ってから金ヶ崎城に入った。

のようになる。(二六)の「つつ」の代わりに、(二六 a)のように前件と後件が継起的な関係にあることを表す「〜てから」に置き換えてみても自然な文になる。

(二七)光秀は、簡潔にその人柄の様子を語りつつやがて、「お万阿様ほどおもしろい女人はまたとござりませぬな」といった。
(国盗り物語・四、p. 115)

(二七)の「つつ」構文で、従属節と主節の述語はそれぞれ「語る」と「いう」であり、その動作主体も同一である。動作主体「光秀」が従属節の「語る」と主節の「いう」という動作を同時に行うことは、述語の性質上、不可能である。動作主体「光秀」は、前件の動作「簡潔にその人柄の様子を語る」ということを行ってから、後件の動作「お万阿様ほどおもしろい女人はまたとござりませぬな」ということを言うことができる。(二七)の「つつ」構文で、従属節と主節が継起的な意味関係にあるということは、副詞語句「やがて」によってより明確になる。

三・三 逆接

(二八)国会や地方議会の議員定数の不均衡に対して、裁判所が「違憲」または「違法」の判断をしめしつつ、有権者からの選挙やり直しの請求をしりぞけるのは、議会自身の手による抜本的是正を期待するからである。
(朝日新聞「以下、朝日」、880920)

(二九)自伝的小説『あすなる物語』は、明日は檜になろうと思いつつ、永遠に檜にはなれないという悲しい説

話を背負った木に託して、自分自身の半生を劣等感というひとつのモチーフで貫いて小説的に構成したものである。
(あすなる物語・井上靖、人と作品、p. 209)

(二八・一九)では、前件と後件の間の関係が、「裁判所が『違憲』または『違法』の判断をしめたならば、有権者からの選挙やり直しの請求を受け入れる」、「明日は檜になろうと思つたなら、檜になる」のようになるのが順調な展開であるが、後件の事柄は、それぞれ、「有権者からの選挙やり直しの請求をしりぞける」、「永遠に檜にはなれない」のように、前件の事柄に反することを表わしている。従つて、(二八・一九)の前件と後件の間の意味関係は逆接である。

(二〇)源氏の心には、あの夜の空蟬のしぐさがまだ、色あせずとどめられている。嘆きつつ、ためいきつきつつ、やさしくも執拗にあらがいつつ、それでもついに源氏に抱かれたのであつた。

(新源氏物語・中、p. 43)

(二一)「あなたのやさしさが、私にとつて、かえつて仇であると知りつつ、またも私は、あなたのやさしさを当てにして、不都合を働いてしまった――」源氏は二条院の紫の君あてに手紙をしたためていた。

(新源氏物語・上、p. 394)

(二二)――これ売って東京へ行こうかと考えるうち、お巡りにひつかかつて、交番へ連行され、ものごものだけにいいわけならず、ただ口が裂けても本名だけはあかすまいと、配給通帳はパン屋に置きっぱなしだから、衣料切符を口にほおぼり、噛みくずして飲みこむ、守口署へ連行される間、その紙の反吐を反芻しつつ、しかし、叔父はすぐに届けたし、モーニングのネームもあつたから身許は割れ、これまでも札つきと冷たく証言されて、枚方少年院出張所入り。

(ラ・クンパルシート、p. 183)

(二〇)～(二二)での「つつ」構文は逆接を表す例文であるが、「それでも、またも、しかし」のような接続語句が用いられることによって、前件と後件の意味関係が逆接であることがより明瞭になる。

このように、「つつ」構文の意味関係は、多くの場合、主に同時進行と逆接であるが、同時進行と逆接以外にも、継起の意味に受け取られる場合もある。

四 「つつ」構文と逆接

「三」では、「つつ」構文の意味関係について検討してみた。「つつ」構文の意味・用法は主として同時進行と逆接であった。この章では、「つつ」構文の意味が逆接に解釈される場合、その逆接の要因について詳しく考察することにする。

四・一 意味的対立による逆接

(二三)ロドリゴの背教が、じつは神への裏切りではなく、キリストは棄教者の足で踏まれつつ、これを赦していたという信仰の畏るべき逆説は、ぼくなど不信の徒のこころに沁みいらずにおかない。

(沈黙・解説、p. 255)

(二三)では、「棄教者の足で踏まれたなら、これを赦さない」というのが、前件と後件の間の関係が、一般に認められた因果関係である。しかし、(二三)の例文は、「棄教者の足で踏まれたが、これを赦していた」のように、前件と後件の間の関係が一般的に認められた因果関係と合致しないことが生じた逆接表現である(註5)。

したがって、(二二二)のように、前件と後件の事柄が意味的に対立すると、その意味関係は逆接になる。

(二四) (ロシアのシラーエフ首相は) 訪日の具体的な成果について、いまのところ政府間協定の準備はして
いないとしつつ、共同声明を発表することはあり得ると述べた。 (朝日、910804)

(二五) エリツィン政権内では、ハズブラートフ・ロシア最高会議議長が内閣交代を主張している。ルツコイ副
大統領は政策の方向が反対であるとして現内閣を批判しつつ、職務にとどまっている。

(読売新聞「以下、読売」、920202)

(二四)では、「いまのところ政府間協定の準備はしていないとするなら、共同声明を発表することはあり
得ない」というのが一般的なことであり、(二五)でも、「政策の方向が反対であるとして現内閣を批判するな
ら、職務にとどまらない」というのが自然な成り行きである。しかし、(二四)で、前件「いまのところ政府間
協定の準備はしていないとする」と後件「共同声明を発表することはあり得る」、(二五)で、前件「政策の方
向が反対であるとして現内閣を批判する」と後件「職務にとどまっている」というものは、それぞれ前件と後
件の間の関係が一般的に認められた因果関係ではない。それで、(二四・二五)の「つつ」構文は前件と後件
の間の事柄が逆接関係になるのである。

四・二 肯定と否定の対立による逆接

(二六) 自伝的小説『あすなる物語』は、明日は檜になろうと思いつつ、永遠に檜にはなれないという悲しい説
話を背負った木に託して、自分自身の半生を劣等感というひとつのモチーフで貫いて小説的に構成した
ものである。
「あすなる物語(福田宏年・井上靖・人と作品)、p. 209」

(二七)この作品(一瞬の夏)は、プロ野球で長島茂雄と競いつつ、人気スターになり切れずに消えてしまつたE選手の“栄光と悲惨”を追つたものだが、
(一瞬の夏・解説、p.355)

(二六・二七)での「つつ」構文は、「明日は檜になろうと思いつつ、永遠に檜にはなれない」「プロ野球で長島茂雄と競いつつ人気スターになり切れずー」のように、肯定と否定が対立することによって、前件の事柄と後件の事柄は逆接関係を表している。前件と後件の事柄が肯定と否定に対立すると、その「つつ」構文の意味関係は逆接になる。

四・三 「つつ」節の述語の種類と逆接

ここでは、「つつ」構文で上接する動詞の種類(注)と逆接関係について調べることにする。「二」の「つつ節の述語」で、明らかになつたように、「つつ」節には状態述語の例は見られないので、状態動詞と第四種の動詞が「つつ」節に上接する場合はないと思われる。

ここでは、「つつ」に継続動詞と瞬間動詞が上続した場合について、その「つつ」構文の意味関係を検討することにす。

四・三・一 継続動詞

(二八)ぼくのいそぎ足に追いつこうとして太郎は絵具箱をカタカタ鳴らしつつ小走りに道を走つた。

(裸の王様、p.145)

(二九) (政夫と民子) お互いに自分で話し出しては自分が極まりわるくなる様なことを繰返しつつ、幾町かの道を歩いた。
(野菊の墓、p. 26)

(三〇) われわれはこの社会の中でおたがいに助け合いつつ、くらしているのです。

(文化庁一九七五・六三七)

(二八～三〇)の「つつ」節の「鳴らす、繰返す、助け合う」は継続動詞である。(二八)では、動作主体「太郎」が前件「絵具箱をカタカタ鳴らす」と後件「小走り而走る」という二つの動作を同時に行っている。

(二九・三〇)の場合も、前件と後件の動作が、それぞれ同時に行われている。

(二八～三〇)のように、「つつ」構文が同時進行を表わすときは、従属節と主節の動作主体は同一であり、「つつ」節の動詞は「鳴らす、繰返す、助け合う」のような継続動詞である。

しかし、次の(三一・三二)のように、「つつ」構文で動作主体が同一で、継続動詞であっても、逆接になる場合がある。

(三一) 外に出せば交雑してしまうので猫にはすまないと思いつつ、室内で飼った。
(毎日、950615)

(三二) 自伝的小説『あすなる物語』は、明日は檜になろうと思いつつ、永遠に檜にはなれないという悲しい話を背負った木に託して、自分自身の半生を劣等感というひとつのモチーフで貫いて小説的に構成したものである。

「四・一」と「四・二」でも説明したが、(三一)の場合は、「猫にすまないと思いつつ、室内で飼わない」のが一般的なことである。しかし、「猫にすまないと思いつつ、室内で飼う」というようなことは、前件

と後件の間の関係が一般的に認められた因果関係ではないことをあらわしている。(三二二)の場合は、前件と後件の間の事柄が肯定と否定で対立している。前件と後件の事柄が、一般的に認められた因果関係ではない場合と、肯定と否定で対立している場合は、「つつ」節の動詞が継続動詞であっても、逆接になる。このように、「つつ」節で、動詞が継続動詞である場合、その「つつ」構文の用法は同時進行と逆接の両方になる。

四・三・二 瞬間動詞

(三三)母は食べ盛りの高志のよこしまな行いをいっさいとがめず、げっそり減った釜の飯ならば、「お母ちゃんは、昔もう食べたいだけ食べてんから、あんたおあがり」自分はひかえて、盗みぐいばれている、自分のために母が食事をぬくと知りつつ、罪悪感が高志にまるでない。(ラ・クンパルシート、p. 162)

(三四)彼らも私と同じように旅の身であった。行きつく所のない道を歩み続けていた。ただ、止まって倒れるのが怖いから歩き続けようと必死にもがいていた。それが果てしない漂泊の旅であり、果てしないあがきであることを知りつつ歩み続ける。(若き数学者のアメリカ、p. 275)

(三五)空蝉はこのごろ、物思わしいときが多く、ねむれない夜を送っていた。あの夜、一夜ぎりで源氏を拒絶しつづけ、源氏もあきらめたようなありさまを、ほっとしつづけ、それでもいつまでも、あの夜のことが忘れられない。(新源氏物語・上、p. 28)

(三三～三五)の「つつ」節の述語「知る^(注1)・ほっとする」は、瞬間動詞である。瞬間動詞はその性質のため、時間的幅を持つ意味あいをあらわすことが出来ないのである。

それ故に、瞬間動詞は時間的幅がないので、(三三三〜三三五)のように、「つつ」節の述語が瞬間動作である場合、前件と後件の関係は、同時進行ではなく、互いに対立することを表わすことになる。このように、「つつ」節の動詞が瞬間動詞である場合は、前件と後件の事柄が互いに対立していることになって、前件と後件の意味関係は逆接になると思われる。

しかし、次のように、「つつ」節の動詞が瞬間動詞であっても、逆接には解釈されない場合がある。

(三六)私は一切の活動がただ私に於て起こることを知っている。私というものは無数の心像がその上に現われ
ては消えつつ、様々な悲喜劇を演ずる舞台であるのか。(人生論ノート「個性について」、p. 139)

(三七)何にも知らない妻は次の室で無邪気にすやすや寝入っています。私が筆を執ると、一字一劃が出来上が
りつつ、ペンの先で鳴っています。私は寧ろ落ち付いた気分です。紙に向っています。

(一)一)ス、 p. 145)

(三六・三七)の「つつ」構文の場合は、「消える・出来上がる」のように、その「つつ」節の述語が瞬間動
詞でありながら、前件と後件の意味関係は同時進行と解釈される。

(三三三〜三三五)と(三六・三七)の「つつ」構文で、異なるところは動作主体の性質である。(三六・三七)の場
合は、「つつ」構文の動作主体が「無数の心像・一字一劃」のように複数である。動作主体が複数であるため
に、従属節と主節の動作も同じ動作が繰り返されるように見える。もともとは「消える・出来上がる」のよう
な瞬間動詞は時間的幅を持つ意味あいを表わすことは出来ないが、その動作主体が複数なので、その動作が反
復されているようになる。従って、(三六・三七)では、「消える・出来上がる」のような瞬間動詞が時間的幅
をもつ意味あいを表わすように見える。

このように、「つつ」節の述語が瞬間動詞であっても、動作主体が複数であれば、その動作が反復するような形になり、「つつ」構文の意味は同時進行のように受け取られると考えられる。

(三八)言葉は書いた瞬間に過去のものとなっている。それがそれとして意味をもつのは、現在に連なっているからであるが、「現在の私」は絶えず変化しつつ、現在の中、未来の中にあるのだ。

(二十歳の原点、p.187)

(三八)も、「つつ」節の「変化する」は瞬間動詞であるが、その「つつ」構文の意味関係は逆接には解釈されない場合である。瞬間動詞「変化する」が「絶えず」という修飾語のため、動作の反復を表すことによって、時間的幅をもつ意味あいを表わすようになる。

したがって、(三八)の構文の前件と後件の間の関係は、「つつ」節の述語が瞬間動詞でありながらも、逆接には解釈されにくいようである。

五 「つつも」構文の意味と用法

「つつも」は、接続表現「つつ」に取り立て助詞「も」が接続した形である。「つつも」にも「つつ」構文と同じように、同時進行と逆接の用法があるかどうかについて調べることにする。

五・一 「つつも」構文の意味

(三九) 日米自動車・部品交渉が二十八日合意したことについて欧州連合(EU)側は、二大経済大国の貿易紛争解決を評価しつつも、合意内容が欧州にとって差別的結果をもたらしかねないと強く警戒している。

(産経・夕、950629)

(四〇) 政府は昨年九月の月例で、事実上の景気回復宣言を行ったが、今年三月の急激な円高以降は、基本的な判断は維持しつつも、円高の影響に懸念を示してきた。

(読売、950629)

(四一) ながい歳月、織田家のために東方の防壁となり、武田氏の西進をささえ、幾度か滅亡の危機に見舞われつつも、信長との盟約を裏切ることがなかった家康に対し、信長があたえた報礼はわずか一国であった。

(国盗り物語・第四巻、p. 515)

(三九)で、前件「貿易紛争解決を評価する」と後件「強く警戒している」は、意味的に対立している事柄である。「つつも」は互いに矛盾した前件と後件の事柄を結ぶ役割をしている。(四〇・四一)でも、前件「基本的な判断は維持する・幾度か滅亡の危機に見舞われる」と後件「円高の影響に懸念を示す・信長との盟約を裏切ることがない」は、それぞれ前件と後件の事柄は矛盾した関係である。

このように、「つつも」構文は、前件と後件の間の関係が一般的に認められた因果関係でははないことを示しているので、逆接を表わすことになる。

五・二 同時進行と「つつも」

次は、(四二〜四四)の「つつ」構文は、同時進行の意味に用いられている例文である。

(四二) ぼくのいそぎ足に追いつこうとして太郎は絵具箱をカタカタ鳴らしつつ小走りに道を走った。

(四三) 一年前の今日十月三日、ベルリンのブランデンブルグ門では花火が打ち上げられ、世界中の祝福を受けつつ、東西両ドイツの統一が実現した。

(四四) われわれはこの社会の中でおたがいに助け合いつつ、くらしているのです。

(四二～四四)の同時進行の「つつ」を、「つつも」に入れ換えると、

(四二) a * ぼくのいそぎ足に追いつこうとして太郎は絵具箱をカタカタ鳴らしつつも小走りに道を走った。

(四三) a * 一年前の今日十月三日、ベルリンのブランデンブルグ門では花火が打ち上げられ、世界中の祝福を

受けつつも、東西両ドイツの統一が実現した。

(四四) a * われわれはこの社会の中でおたがいに助け合いつつも、くらしているのです。

(四二 a ～四四 a)のように、非文になる。これは「つつも」構文には、同時進行の用法はなく、逆接の意味合いの用法しかないと表わしていると考えられる。

五・三 逆接と「つつも」

次の(四五～四七)の「つつ」構文は、「四・一」と「四・二」で逆接の意味に用いられている例文である。

(四五) (ロシアのシラーエフ首相は) 訪日の具体的な成果について、いまのところ政府間協定の準備はしていないとしつつ、共同声明を発表することはあり得ると述べた。

(四六) エリツイン政権内では、ハズブラートフ・ロシア最高会議議長が内閣交代を主張している。ルツコイ副大統領は政策の方向が反対であるとして現内閣を批判しつつ、職務にとどまっている。

(四七) 自伝的小説『あすなる物語』は、明日は檜になろうと思いつつ、永遠に檜にはなれないという悲しい話を背負った木に託して、自分自身の半生を劣等感というひとつのモチーフで貫いて小説的に構成したものである。

次のように、(四五～四七)の逆接の「つつ」を、「つつも」に入れ換えてみよう。

(四五) a (ロシアのシラーエフ首相は) 訪日の具体的な成果について、いまのところ政府間協定の準備はしていないとしつつも、共同声明を発表することはあり得ると述べた。

(四六) a エリツイン政権内では、ハズブラートフ・ロシア最高会議議長が内閣交代を主張している。ルツコイ副大統領は政策の方向が反対であるとして現内閣を批判しつつも、職務にとどまっている。

(四七) a 自伝的小説『あすなる物語』は、明日は檜になろうと思いつつも、永遠に檜にはなれないという悲しい話を背負った木に託して、自分自身の半生を劣等感というひとつのモチーフで貫いて小説的に構成したものである。

(四五 a ～ 四七 a)のように、「つつ」構文が逆接を表わす場合は、その「つつ」を「つつも」に置き換えでも適格文になる。逆接の「つつ」構文は、「つつも」に入れ換えられることによって、逆接の意味合いがより明瞭になる。

「五・二」と「五・三」のように、「つつ」構文で、同時進行の用法は「つつ」を「つつも」に入れ換えると非文になるが、逆接の用法は「つつ」を「つつも」に入れ換えても適格文になる。これは、「つつも」には同時進行の用法はなく、逆接の意味合いしかないと考えていると考えられる。

五・四 中立的な用法の場合と「つつも」

(四八・四九)の「つつ」構文は、前件と後件の間の事柄が同時進行と逆接のどちらにも解釈されるような例文である。

(四八)七三年から八六年までの間、日本は年間三～四%の経済成長を維持しつつ世界トップレベルの省エネルギーを達成し、その結果、CO₂排出量の安定化を実現させていたのである。(日経、920206)

(四九)京劇が文化大革命中に受けた影響はやはり大きい。――そうした苦難を経つつ、京劇のいわば正統を受け継いできたのが梅家の一族だ。(朝日・夕、920208)

(四八)で、前件「年間三～四%の経済成長を維持する」と後件「世界トップレベルの省エネルギーを達成する」の二つの事柄が同時に行われるようにも思われるし、場合によっては、前件と後件の事柄が矛盾しあう意

味関係をなしているようにも解釈される。(四九)の「つつ」構文も、前件と後件の事柄の意味関係が同時進行と逆接の両方に解釈されるようである。(四八・四九)の「つつ」構文の意味は同時進行と逆接のどちらにも解釈されるので、前件と後件の間の意味関係は同時進行と逆接に関して中立的なことであると考えられる。

(四八・四九)の中立的な「つつ」を、逆接を示す「つつも」に入れ換えると、

(四八) a 七三年から八六年までの間、日本は年間三〜四%の経済成長を維持しつつも、世界トップレベルの省エネルギーを達成し、その結果、CO₂排出量の安定化を実現させていたのである。

(四九) a 京劇が文化大革命中に受けた影響はやはり大きい。――そうした苦難を経つつも、京劇のいわば正統を受け継いできたのが梅家の一族だ。

のようになる。(四八 a)では、前件「年間三〜四%の経済成長を維持する」と後件「世界トップレベルの省エネルギーを達成する」の二つの事柄は、「つつ」構文から「つつも」構文に変わることによって、前件と後件の事柄が矛盾しあう意味関係を表わすことになる。つまり、(四九 a)の「つつも」構文も前件と後件の事柄が互いに対立することになって、逆接の意味に解釈される。

この場合、「も」は逆接の意味を表さない接続表現「つつ」のようなものについて、逆接の意味を明示させるものになる(注8)。つまり、「も」によって取り立てられたものが、後続の述語に対して矛盾する関係にあることを表す(注9)。

従って、「つつも」構文は、前件と後件の間の関係は、逆接しか表わさないと考えられる。

六 まとめ

日本語の接続表現「つつ（も）」構文の意味・用法について考察したことをまとめてみると、以下のようになる。

- (一)「つつ（も）」に上接する述語には、動詞と「（ら）れる・（さ）せる・てやる・である」のような動詞型述語の連用形だけであるという制約がある。
- (二)「つつ」構文の主な用法は同時進行と逆接であるが、それ以外に継起の用法もある。
- (三)「つつ」節の述語が継続動詞である場合は、同時進行と逆接の用法があるが、前件と後件の間の関係が互いに矛盾する場合と、肯定と否定で対立している場合は、逆接に解釈される。
- (四)「つつ」節の動詞が瞬間動詞である場合は、時間的幅を持たないので、同時進行になることが出来ず、前件と後件の間の関係は逆接になる。
- (五)「つつも」構文には、同時進行の用法はなく、取り立て助詞「も」によって前件と後件の事柄が対立するようになり、逆接に解釈される。

(注)

- 注1 国立国語研究所(一九五一)、『現代語の助詞・助動詞 ―用例と実例―』、秀英出版pp. 70～72
- 注2 渡辺 実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、p. 408、参照

注3

「ながら(も)」は、アスペクト(ている)、否定(ない・ぬ・ず)、形容詞、形容動詞、名詞、副詞、副助詞(だけ)など、いろいろな要素に接続するが、このような要素に「つつ(も)」が接続する例は見られなかった。「しながら」だけに上接する要素の例文は、次のようである。

・スウェーデンは競技面で冬季五輪に大きく貢献して|いながら、まだ一度も開催権を与えられていない。
(アスペクト、「ている」) (毎日、950614)

・局面は細かい。しかし記者室で進行を見守っていた小林寛棋聖によると、細|かいながらも、「白持ち」というニュアンスだった。(形容詞) (毎日、950503)

・極東ロシア軍は、依然として大規模な戦力を蓄積、緩|やかながら近代化も行われ、アジア太平洋地域の安全に不安定要因となっている。(形容動詞) (産経、950630)

・日本は五安打|ながら、井口の 本塁打などで少ない好機をものに|した。(名詞) (朝日、950524)

・子どもたちは、よくわからない|ながらも、先生の話をおっしんに聞|こうとしている(否定) (文化庁一九七五・七四三)

・歌う生徒らの間にま|じって、わが子も歌っている|のである。耳は聞|こえぬながら、ふしは整|わぬながら、大きく口をひらいて、高らかに歌|っているのである。(否定) (国立国語研究所一九五一・一三〇)

・及ばず|ながら、あなたに|ご協力いた|しましょう。(否定) (文化庁一九七五・七四三)

・その子は、い|いや|ながら、庭のそ|うじを|始めた。(副詞) (横林宙世界一九八八・七四)

・現在の中国には、肩書きは党、国家の中央軍事委員会主席|だけながら最高指導者|と言|ってよい鄧小平氏|があるが、……。(副助詞) (読売、890927)

注4 「つつ」節の述語が判定詞「である」に接続する用例は、本稿の例文(七)のような一例しか見られなかったので、〈表1〉の判定詞のところには△印をした。

- 注5 近藤泰弘(一九八八)、「逆接」山口明穂他編『研究資料日本古典文学(一一)文法』、明治書院、pp. 212～215
- 注6 金田一春彦(一九七六)、「国語動詞の一分類」『日本語動詞のアスペクト』、むぎ書房、pp. 7～26、参照。「動詞の種類」とは、金田一の「国語動詞の一分類」での「状態動詞、継続動詞、瞬間動詞、第四種の動詞」のことを意味する。
- 注7 「つ」節の述語が瞬間動詞「知る」である場合は、収集した用例(一一例)のすべてが逆接を表している。
- 注8 本論の第四章、pp. 136～139 参照
- 注9 紙谷栄治(一九八八)、「係助詞『も』について」『語文』(五〇)、大阪大学文学部国文学研究室、p. 35 参照

第六章 「のに」構文の意味・用法について

一 はじめに

韓国語と日本語は類似点が多い。両国語は共に漢字を使っているし、また文の構造もよく似ている。それにもかかわらず、韓国人に日本語を教えるとき、いろいろと説明しにくいところが多い。特に大きな課題のひとつが日本語の類義表現の使い分けであると思う。例えば、逆接続助詞の場合、「が・けれども・のに・もの・ながら(も)・つつ(も)・にもかかわらず」のような、類義表現の相違点をうまく説明することは並大抵ではない。日本語の母国語話者の場合、「が・けれども・のに・もの・ながら(も)・つつ(も)・にもかかわらず」のような類義表現を直感的に使い分けることができる。

しかし、日本語の教育では、このような日本語の類義表現の類似点と相違点を具体的に説明しなければならぬ。

(一) 九月のおわりだというのに、ま夏のようなあつさだ。

(文化庁一九七五・七九九)

(二) で、「のに」は、従属節の事柄「九月のおわりだ」と主節の事柄「ま夏のようなあつさだ」を繋ぎ合わせる役割をしている。このような、「のに」は、新聞・雑誌・文学作品や会話などでよく用いられている接続表現である。

そこで、本稿では逆接続助詞の中でも、接続助詞「のに」の意味・用法について考察することにする。

二 「のに」節の述語的部分の特徴

「のに」が接続する述語的部分に現れ得る要素の中で、用言、テンスとアスペクト、ムード、などについて、用例を分析して、考察することにする。

二・一 述語の種類と活用形

(一)(二)〇〇三総選挙)原発問題が選挙の争点になっていない点も、「これだけ大変で問題があるのに、政策の柱にもならない。残念ですよ」。(朝日新聞「以下、朝日」、031106)

(三)文科省が毎年行っている体力・運動能力調査では、今の子供たちは親の世代より体が良いのに、体力が低下している。(産経新聞「以下、産経」、031104)

(四)(二)〇〇三衆院選)各党のマニフェストをのぞくと、受益と負担の関係が重要なのに、各党とも財源の裏付けの論議を逃がっている。(読売新聞「以下、読売」、031012)

(五)(在外投票、今度も低調?)「外国にいても一票を投じたい」という声に応えて誕生した制度なのに、過去2回の推定有権者数に占める投票者は4%にも満たない。(朝日、031104)

(二)(五)のように、「のに」は、「ある・良い・重要だ・制度だ」など、いろんな種類の用言に接続している。(四)の「重要だ」は形容動詞であり、(五)の「制度だ」は「名詞+判定詞」である。「のに」は、用言「動詞・形容詞・形容動詞」と判定詞「だ」(注1)の連体形に接続する。

二・二 テンスとアスペクト

日本語のテンスとアスペクトはいろいろな形式がある^(注2)。「のに」節に現れるテンスとアスペクトの要素について、調べることにする。

(六) (食の安全) 今年も冷夏で収穫が激減したのに、備蓄米があるせいか余り関心を呼んでいない気がする。

(朝日、031102)

(七) 米景気は回復軌道を見せているのに、製造業を中心に雇用情勢はなお厳しい。

(朝日、031108)

(八) (総選挙2003・裏方) 公示日当日、このポスターを公設掲示場に張る早さも事務の力量が試される。陣営幹部は「届け出後、一時間以内に張り終える。他が張ってあるのに、うちが張ってなかったら格好が悪い」。

(朝日、031026)

(六〜八)のように、「のに」は、テンスの「た」と、アスペクトの「ている・である」の要素に接続している。このように。「のに」節には、テンスとアスペクトの表現が現れることが出来るのである。

二・三 ムード

日本語のムードには、「確言、否定、命令、禁止、許可、依頼、当為、意志・申し出・勧誘、概言、説明、願望、比況、疑問」のようなものがある^(注3)。「のに」節に現れるムードの表現について調べることにする。

(九)有権者数は兩世代(二十代・三十代)で三五%も占めるのに、投票率の低さが際だった。(朝日、031107)
(一〇)いまは高成長が期待できないのに、円高により国際的に見て国内の人件費は高くなるばかりだ。

(毎日新聞「以下、毎日」、950426)

(一一)議員定数の問題は、本来、主権者である国民の立場から考えるべきなのに、各党の消長や政治家個人の利害がどうなるかという観点からもっぱら論じられている。本末転倒といわざるを得ない。

(読売、890207)

(一二)市長は市内の学校の数ぐらい知っていなければならないのに、それを知らないということがわかった。
あの市長は不勉強だ。

(一三)(農業特産物の育成目的、四割の施設が運営不適切)香川県の施設は、地元で生産された小麦でうどんを作るはずなのに、輸入小麦を使っていた。

(朝日、031109)

(一四)向井(ラグビー日本代表)監督は「サインプレーの練習もしたいのに、どこからでも見えてしまう」と嘆く。

(読売、031009)

(九・一〇)のように、「確言・否定」のムードに接続する用例は多かった。しかし、(一一〜一四)のように、「当為」の「べきだ・なければならぬ」と、「概言」の「はずだ」、「希望」の「たい」に接続する用例は稀であった。「のに」が「疑問・説明・命令・禁止・比況」のようなムードの表現に接続する用例は見つからなかった。これは連体節にはムードの表現が現れにくい現象と同じことで、「のに」節に現れ得るムードの表現は限られていると思う。

三 「のに」構文の主節の文末表現

接続助詞は先行要素と後行要素を繋ぎ合わせる役割をしている。接続助詞が従属節と主節を繋ぎ合せるとき、接続助詞による「主節の文末表現の制約」がある。

「のに」構文の主節の文末に現れるムード、終助詞について、用例を分析して調べてみることにする。

三・一 ムード

三・一・一 確言(断定)・否定

(二五)ヤンキースの松井)目立つのが三振。それまでの十五試合五個しかなかったのに、この十試合は十一個と増えた。
(毎日、030428)

(二六)米景気は回復軌道を見せているのに、製造業を中心に雇用情勢はなお厳しい。
(朝日、031108)

(二七)(在外投票、今度も低調?)「外国にいても一票を投じたい」という声に応えて誕生した制度なのに、過去二回の推定有権者数に占める投票者は4%にも満たない。
(朝日、031104)

(二八)(三重大生が議員体験研修)平和学や社会学を学んでいるのに、それまで現実の政治に興味はわかかなかった。
(朝日、031102)

「のに」構文の主節の文末には、他の接続助詞と同様、(二五・一六)の「増えた・厳しい」のような、「確言のムード」と、(二七・一八)の「満たない・わからない」ような、「否定のムード」が表れる。

三・一・二 概言(推量)

(二九) 阪神の余裕のなさは、この守備隊形にも表れていた。中堅手赤星は極端に浅く、右寄り。まだ序盤なのに、サヨナラの危機のようだった。打球方向のデータに沿ったシフトなのだろう。(朝日、031020)

(二〇) みんながわらっているのに、ご本人は何にも知らないらしい。(基本語用例辞典：九三六)

(二二) (米国のブーン・ピケンズ氏、小糸製作所の株の買い占め)株の配当金は微々たるものなのに、株の購入に伴う借金の利子は膨大なはずだ。その差額はだれが負担しているのか。(AERA、900123、No3、p.28)

日本語の概言のムードには、断定保留「だろう・まい」、証拠のある推定「らしい・ようだ・はずだ」、可能性「かもしれない」、直感的確信「にちがいない」、様態「そうだ」、助動詞「う・よう」などがある(注4)。

(二九)(二二)のように、「のに」構文の主節の文末には、概言のムードの中でも、証拠のある推定「ようだ・らしい・はずだ」は現れる。しかし、「のに」構文の主節の文末に、概言のムードの中で、「だろう・まい・かもしれない」に違いない・そうだ(様態)・う・よう」のようなものが現れる用例は見つからなかった(注5)。

三・一・三 命令・禁止

(二二)(三菱銀行の中途採用の導入)「大蔵、日銀からでさえ、人をもらったことがないのに、美田を荒らすようなことはするな。」などとという反対論が、社内だけでなくOBからもあった。

(AERA、900123、No3、p.8)

(二三) (激戦、二〇〇三総選挙) 「時代が変わっているのに、長老がいつまでも昔の感覚で政治をしてはいけない。当選後復党し、今の自民党を修正したい」と強調、……。(朝日、031110)

命令を表わすムードの表現には動詞の命令形、「動詞の連用形+なさい」、動詞のテ形などがあるが、このような命令表現が、「のに」構文の主節の文末に現れる用例は見つからなかった。

禁止の表現には、動詞及び助動詞の終止形に終助詞「な」を付けて表わす場合と、動詞及び助動詞に「てはいけない・てはならない」を付けて表わす場合がある(註6)。(二二・二三のように、「のに」構文の主節の文末には終助詞「な」と「てはいけない」による禁止の表現は現れる。

三・一・四 説明・伝聞

(二四) 手当がよければ助かったのに、手当がゆきとどかなかったのだ。

(文化庁一九七五・六六〇)

(二五) あそこではもう五人も子どもがいるのに、またひとりできたそうだ。

(文化庁一九七五・六六五)

日本語の説明のムードを表わす形式には、「のだ」、「わけだ」があるが、(二六)のように、「のに」構文の主節の文末には、「のだ」は現れる。また、(二七)の場合は、「のに」構文の文末に伝聞の「そうだ」が現れる例であるが、その伝聞の用例は稀であった。

「三・一」では、「のに」構文の文末には、「確言・否定・概言・説明・禁止・伝聞」のような、ムードの表現は現れるが、「命令・依頼・意志・当為・勧誘・希望・比況」のような、ムードの表現の用例は見つからなかった。また、「のに」構文の文末に現れているムードの表現の中でも、「概言・当為・禁止・説明・伝聞」

の用例は稀であった。

三・二 終助詞

(二六)あの人はわかいのに、ずいぶん厚着をしていますね。

(文化庁一九七五・二八)

(二七)(東都大学野球、青学大3・0日大)鈴木監督は「夜に乾杯しようと思ったのに、昼に完敗してしまつたよ」と、苦笑い。
(読売、031009)

(二八)(三菱銀行の中途採用の導入)「大蔵、日銀からでさえ、人をもらったことがないのに、美田を荒らすよなことはするな。」などという反対論が、社内だけでなくOBからもあつた。

(AERA' 900123' No3' p.8)

(二九)その話は内緒にするはずだつたのに、しゃべつてしまつたの？

(文化庁一九七五・七四〇)

「のに」構文の主節の文末には、「ムード」のような要素意外にも、(二六く二九)のように、「ね・よ・なの」などの終助詞も現れた。

四 「のに」構文の意味

「のに」構文の意味には、「逆接、意外・不思議、不満・非難(批判)、感心(称賛・感嘆)」などがある。これらの意味が生じる要因と、その構文の意味特徴について、説明することにする。

四・一 逆接

四・一・一 意味的矛盾による逆接

(三〇)米景気回復軌道を見せているのに、製造業を中心に雇用情勢はなお厳しい。(朝日、031108)

(三〇)で、「米景気が回復軌道を見せていると、製造業を中心に雇用情勢がよくなる」というのが、従属節と主節の間に、一般的に認められた因果関係である。しかし、(三〇)の例文は、「米景気が回復軌道を見せているのに、製造業を中心に雇用情勢はなお厳しい」のように、従属節と主節の間には、一般的に認められた因果関係と合致しないことが生じた逆接である(註)。従って、(三〇)の「のに」構文は、従属節と主節の間関係は順当な成り行きではなく、意味的に二つの事柄の矛盾を示すので、その意味合いは逆接となる。

(三一)(二〇〇三衆院選)各党のマニフェストをのぞくと、受益と負担の関係が重要なのに、各党とも財源の裏付けの論議を逃がっている。(読売、031011)

(三二)産業構造や労働環境が大きく変化しているのに、連合は相変わらず「大企業・正社員」中心のままだ。(読売、031003)

(三二)での、従属節の事柄「マニフェストで受益と負担の関係が重要だ」と主節の事柄「各党とも財源の裏付けの論議を逃がっている」、(三二)での、従属節の事柄「産業構造や労働環境が大きく変化している」と主節の事柄「連合は相変わらず『大企業・正社員』中心のままだ」というようなものも、それぞれ従属節と主節の

間の事柄が一般的に認められた因果関係ではない。したがって、(三一・三二)で、従属節の事柄と主節の事柄の間の関係は逆接である。

四・一・二 肯定と否定の対立による逆接

(三三)(在外投票、今度も低調?)「外国にいても一票を投じたい」という声に応えて誕生した制度なのに、過去二回の推定有権者数に占める投票者は四%にも満たない。
(朝日、031104)

(三四)もうすぐぐらくなるのに、子どもたちはあそびに出たまま帰って来ない。(文化庁一九七五・七九九)

(三五)あまりやりたくないのに、選手にえらばれた。(文化庁一九七五・五二四)

(三六)いまは高成長が期待できないのに、円高により国際的に見て国内の人件費は高くなるばかりだ。

(毎日、950426)

(三三・三四)は、従属節の事柄「有権者の声にこたえて誕生した制度だ・もうすぐぐらくなる」と主節の事柄「投票者は四%にも満たない・子どもたちはあそびに出たまま帰って来ない」は、それぞれ「肯定と否定」で対立している場合である。また、(三五・三六)は、従属節の事柄「あまりやりたくない・高成長が期待できない」と主節の事柄「選手にえらばれる・人件費が高くなる」は、それぞれ「否定と肯定」で対立している場合である。前件と後件が、「肯定と否定」または「否定と肯定」という形で対立すると、従属節と主節の間の事柄は矛盾を示すことになる。従って、(三三・三六)の「のに」構文の場合、従属節と主節の間の意味関係は逆接となる。

四・二 意外・不思議

(三七)(昭和六十三年三月期の決算) 和光経済研究所によると、売上高は前期比四・九%増だったのに、経常利益は六一・七%増と著しく伸びた。
(朝日、880531)

普通、「売上高の増加率」と「経常利益の増加率」は、大抵同じ比率で伸びるのが一般的なことである。しかし、(三七)では、従属節の事柄「売上高が前年比増加率四・九%増である」と、主節の事柄「経常利益が増加率六一・七%増と著しく伸びる」との間の関係で、話し手は「思っていたこととは違っている」というようなことを感じるのである。

従って、(三九)の「のに」構文では、主節の事柄の程度が、従属節の事柄から思ったことよりも、非常に掛け離れたものであることを表わすので、「意外」の意味合いが生じるのである。

(三八)(2003総選挙、前回は、――)投票率のアップが、都市部を中心とした民主の議席増につながったとされる。今回は投票率は下がったのに、民主が議席を増やした。これまでにない無党派層の動きだった。

(朝日、031110)

(三九)(ヤクルトの集中力)チーム打率はリーグ三位の二割二分九厘と決して高くないのに、得点は最多の九十一点を挙げているヤクルトの強さを象徴していた。
(毎日、950503)

(三八・三九)では、従属節の事柄がそれぞれ「投票率が下がる・チーム打率はリーグ三位で決して高くない」のようなものであると、当然予想される主節の事柄は、それぞれ、「民主党の議席が減る・得点はそれほど挙

げていない」というようなことであろう。

しかし、(三八・三九)の主節では、「民主が議席を増やす・得点は最多の九十一点を挙げている」というような、予期されない事柄が成立している。

つまり、(三九・四一)の「のに」構文の場合、従属節の事柄を条件として、予期されない事柄が主節に成立するということにより、「意外・不思議」という意味合いが生じるのである。

四・三 不満・非難(批判)

(四〇)私はまじめにやったのに、あんなにおこられるとは思わなかった。

(文化庁一九七五・五〇)

(四一)おれのものをおれがかつてにするのに、何が悪いの？

(文化庁一九七五・一六〇)

(四二)もうけようと思っていたのに、かえって損をってしまった。

(文化庁一九七五・一七二)

(四三)(全国市民オンブズマン)連絡会議は「自治体が(国公立病院の不当な契約の)損害回復に努めているのに、国が放置することは許されない」と指摘

(朝日、031020)

(四四)あの人は日本語がじょうずなのに、あまり日本語で話そうとしません。

(文化庁一九七五・七九九)

(四五)あの人は文学を少しかじっただけなのに、えらそうなことをいう。

(文化庁一九七五・一九五)

(四〇～四五)の場合、主節の事柄は「おこられる・悪い・損をする・国が放置する・日本語で話そうとしな
い・えらそうなことをいう」ということである。これらの共通点はマイナス評価を表わすものである。「のに」
構文のような複文で、話し手の発話意図が示されるのは主節である。(四〇～四五)では、主節の事柄がマイナ
ス評価を示しているので、話し手の発話意図も当然マイナス的であり、「のに」構文の意味もマイナス的なこ

とを示す「不満・非難」になると思われる。

この場合、「のに」構文の意味は、(四〇～四二)のように、その事柄が「自分のこと」であると、「不満」の度合いが強くなるし、(四三～四五)のように、その事柄が「他人のこと」であると、「非難(批判)」の度合いが強くなる傾向があると思われる。

四・四 感心(称賛・感嘆)

(四六)お若い方なのに、どうしてそんなにえらくなれたのでしょうか。

(西原鈴子一九八五:三三)

(四七)私が出会った耳の不自由な人たちは、わたしたちの思いもよらない苦勞をしているのに、明るくて親切でした。

(国語・中3、教育出版、p.166)

(四八)田中さんは体は小さいのに、なかなか力があります。

(文化庁一九七五:七九九)

(四九)(総選挙2003、マニフェスト どう伝える)(民主党の)県連幹部は「街頭でチラシを配っても受け取ってもらえないのに、政党の冊子を求めて人が来るなんて初めて。責任の重さを感じる」と話す。

(朝日、031031)

(五〇)大地震、サリン、いつまでたってもこの十年で一番ひどい状況なのに、円だけが例がないほどの一番人氣にある。説明できるわけがない。

(毎日、950516)

(五一)通商問題などで日米関係が悪化しているのに、米国民が野茂選手に好意的なのはなぜですか。

(日経、950709)

(四六～五一)では、「えらくなる・明るくて親切だ・なかなか力がある・政党の冊子を求めて人が来る・

円だけが一番人気にある・好意的だ」のように、主節の事柄はプラスの評価を示している。(四六～五一)での、主節の評価は、「四・三 不満・非難」とは反対の立場を取っている。つまり、(四六～五一)の場合、主節がプラス評価を示しているので、話し手の発話意図は当然プラス的であり、「のに」構文の意味もプラス的なことを示す「感心(称賛・感嘆)」になると思われる。

この場合、「のに」構文の意味は、(四六～四八)のように、その事柄が「人に関する内容」であると、「称賛」の度合いが強くなるし、(四九～五一)のように、その事柄が「物事に関する内容」であると、「感嘆」の度合いが強くなる傾向があると思われる。

五 「のに」構文と共起表現

「のに」節には、「せっかく」、「こんなに」、「なぜ、どうして」などのような語句が用いられる場合がある。「のに」構文と共起する語句を考察して、「のに」構文の特徴を確かめてみることにする。

五・一 「せっかく」

(五二) せっかくパリまで来たのに、ルーヴルを見ずに帰るなんて残念だ。(渡辺実二〇〇一：二四)

(五三) (阪神の金本) せっかく (阪神に) 呼んでもらったのに、力を出せなかった。悔しい？ 残るね。

(朝日、031027)

(五四) (リンゴ一五〇〇個盗まれる青森・弘前) 清野さんは「被害額は大したことはないが、せっかく育てていたのに、がっかり」と話している。(朝日、030910)

(五五) せっかく大阪へ行ったのに、山口さんに会わずじまいだった。(文化庁一九七五・四四六)

(五六) せっかく新しい洋服を着て出かけたのに、雨にぬれて惨めなかつこうで帰ってきた。

(文化庁一九七五・九七六)

(五二・五六)のように、「のに」構文は、副詞「せっかく」とよくなじむ。この場合、「のに」構文の主節の事柄は、「ルールを見ずに帰るなんて残念だ・(力を出せなかつたので)悔しい・がっかり・山口さんに会わずじまいだ・雨にぬれて惨めなかつこうだ」のようなマイナス評価の表現であることが共通的特徴である。

「せっかく」は「それ自身が話し手にとって価値のあるP(主節の事柄)が実現しているのに、それに伴って実現してPの価値を完全なものにすることの期待されるQ(従属節の事柄)が、まだ実現せず、あるいはついに実現せずじまいとなり、Pの価値が不完全に終わることへの、惜しみの気持」(註8)の表現である。つまり、「せっかく」には「惜しみの気持」があるので、「のに」構文が「せっかく」と共起することによって、「のに」の「不満」の意味合いがもっと強くなると思われる。

五・二 「こんなに、あんなに」

(五七)(二〇〇三総選挙、熱気帯びる政界と裏腹に)ままならぬ再就職活動のためか、国への不満は大きい。「失業者がこんなに多いのに、政治家は自分たちのことで精いっぱい。口だけじゃなくちゃんと実行してほしい」。(産経、031015)

(五八) あんなにむちゅうになっていたのに、もう熱がさめてしまった。(文化庁一九七五・七八八)

(五七・五八)では、「こんなに・あんなに」という言葉を使うことによって強調の意味合いを表している。従属節で「こんなに・あんなに」という言葉を用いて話し手の強い期待感を示しているにもかかわらず、主節ではその期待に反する表現になっている。話し手の期待感が大きかっただけに、その期待外れに対する強い「不満・非難」の気持が主節にあらわれている。

五・三 「なぜ、どうして」

(五九)(世界を目指す日本文学)「日本には、質の高いエンターテインメント作品がたくさんあるのに、なぜ海外市場に出ているかと、ずっと疑問だったんです。」
(朝日、031006)

(六〇)野茂(ドジャース)が大リーグ方式の中四日の登板で勝っているのに、日本の投手は次の登板までなぜ時間がかかるのか、とよく聞かれる。
(朝日、950627)

(六一)(日本猫を守る)秋田犬や土佐犬はいるのに、なぜ秋田猫や土佐猫はいないのか。
(毎日、950615)

(六二)(能登空港)「全国で地方空港の不振が続いているのに、どうしてこんな所につくるんですか。」
(朝日、031105)

(六三)(盤上の一騎打ち)何かと優劣を競うことが敬遠されるこのご時世なのに、どうして子どもにウケてるのか?
(朝日、030928)

(六四)消費税率に関して、奥田(日本経団連)会長は「諸外国は一〇%以上なのに、どうして日本だけが五%で運営できるのか」と指摘。
(朝日、030827)

(五九〜六四)のように、「のに」構文の主節では、疑念を投げ掛ける表現「なぜ・どうして」がよく用いら

れている。(五九〇六一)の場合は「なぜ〜のか」構文であり、(六二〇六四)の場合は「どうして〜のか」構文である。

(五九〇六四)の例文をモデル化すれば、

「P　〜のに、　なぜ(どうして)　Q　〜のか」

のようになるであろう。

(五九〇六四)の場合、「P　〜のに、　なぜ(どうして)　Q　〜のか」の構文で、話し手は、主節には従属節の事柄と対立しない事柄が現れるだろうと思っている。しかし、従属節の条件にもかかわらず、主節には、従属節の事柄とは相反する事柄が現れてしまう。これに対する話し手の「不満や非難」を、「なぜ(どうして)　Q　〜のか」という形で反問することになる。つまり、期待外れに対する話し手の「不満や非難」の気持ちがある。「なぜ(どうして)　Q　〜のか」の構文を用いて強調されることになるのである。

六 「のに」構文の主節の語彙特徴

「のに」構文の主節には、語彙的な意味特徴が見られる。これに簡単に触れておくことにする。

(六五)レーガン大統領や行政府に自由貿易を堅持しようという姿勢が見られるのに、米議会がこんなにも保護色が濃い法案を成立させようとしていることを残念に思う。
(朝日、880407)

(六六)有機栽培には普通栽培の何倍も手間がかかるのに、その努力は流通業者や消費者に十分評価されている

のだろうか、という不満である

(日経、880909)

(六七) (小泉首相、中曾根氏に引退を求める) 「小泉首相は『引退は本人の判断に従う』と言い続けていたのに、こんなに非礼なやり方はない」と憤慨。

(朝日、031023)

(六八) (盗まれた古医学書巡り「日英大学摩擦」に?) .. しかし、(日本歯科大学の)博物館は「世界に複数あるのに、なぜオックスフォード大学から盗まれた本と断定できるのか」と反発。――。〇〇事務長は「正當な手続きで入手し、法的には全く問題ない」と話す。

(朝日、031005)

(六九) (衆院解散) 森氏は七日の演説で「(国会開会中なのに、)心は総選挙や総裁選に行っている」と山崎(自民党の幹事長)氏らを批判。

(毎日、030709)

(七〇) (東急株・操作・法適用厳正に) この証券取引行為が証取法違反であることは明白であるのに、大蔵省は「特定者の意図的注文だと断定することは難しい」と、またもや問題回避の動きを見せることは遺憾である。

(読売、911003)

(七一) 経済大国になりながら、国民が豊かさを実感できない最大の原因は、土地問題にある。世界で最高水準の賃金を得ているのに、一生働いても満足な家を持たない、というのは異常だ。

(読売、890310)

(七二) (厚労省・精神障害者社会復帰施設の補助金二割に財政難で) 五件とも認められなかった福島県は「ただでさえ施設整備が遅れているのに、これではますます厳しい」と嘆く。

(毎日、030608)

(六五〜七二) の「のに」構文の主節では、「残念・不満・憤慨・反発・批判・遺憾・異常・嘆く」などのように、マイナス評価の語彙が頻繁に用いられている。

これは、「のに」構文の意味が、「感心」より、主に「不満・非難」の意味合いに使われる場合が多いこと

を伺わせる事実であると考えられる。

七 まとめ

「のに」構文の意味・用法について考察したことをまとめると、次のようである。

(一)接統助詞「のに」が、「確言・否定」のムードに接続する用例は多かったが、「のに」が、「当然・概言・希望」のようなムードに接続する用例は稀であった。しかし、「のに」が「疑問・説明・命令・禁止・比況」のようなムードに接続する用例は見つからなかった。

(二)「のに」構文の文末表現には、「確言・否定・概言・禁止・伝聞」などのムードの表現は現れるが、「命令・依頼・意志・当為・勧誘・希望・比況」のような、ムード表現の実例は見つからなかった。

(三)「のに」構文の意味は、主に「逆接、意外・不思議、不満・非難、感心(称賛・驚嘆)」などである。「不満・非難」の場合は、「のに」構文の事柄が、「自分のこと」であると、「不満」の度合いが強くなるし、「他人のこと」であると、「非難(批判)」の度合いが強くなる傾向がある。また、「感心」の場合は、「のに」構文の事柄が、「人に関する内容」であると、「称賛」の度合いが強くなるし、「物事に関する内容」であると、「感嘆」の度合いが強くなる傾向がある。

(四)接統助詞「のに」は、「せっかく、こんなに・あんなに、なぜ・どうして」のような表現とよくなじむ。接統助詞「のに」が、このような表現と共起することによって、「のに」構文の「不満・非難」の意味合いが強調されることになる。

(五)「のに」構文の主節では、「残念・不満・憤慨・反発・批判・遺憾・異常・嘆く」などのような、マイナ

ス評価の語彙がよく用いられていた。このようなことも、「のに」構文の意味合いの特徴を伺わせることであると考えられる。

(注)

注1 渡辺実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、pp. 408 参照

・名詞と結合して述語を作る「だ(である)、らしい、だろう、か、さ」などのようなものを「判定詞」としている。

注2 益岡隆志・田窪行則(一九九三)、『基礎日本語文法(改訂版)』、くろしお出版、pp. 108～116 参照

・日本語のテンスの形には「基本形とタ形」がある。日本語のアスペクトの形式には、「動詞のテ形+いる、ある、しまう、いく、くる」のような形式、「動詞の連用形+はじめる、つづける、おわる」のような複合動詞の形式、「基本形+ところだ」、「タ形+ところだ、ばかりだ」、「動詞の連用形+つつある」など、のようなものがある。

注3 益岡隆志・田窪行則(一九九三)、『基礎日本語文法(改訂版)』、くろしお出版、pp. 117～134 参照

注4 益岡隆志・田窪行則(一九九三)、pp. 127～131

日本語教育学会編(一九八二)、『日本語教育事典』、大修館書店、pp. 203～204 参照

(例文)

注5 本論の第二章、pp. 89～92 参照
○そうだ。確かに駄馬が多い。

何億田という馬が現実|に存在しているのに、うちの馬たちは、その何百分の一くらいの値段にしかない「a だろう」／「b のだろう」。

(例文 a)で、「くだろう」の前に準体助詞「の」を入れて、(例文 b)のように、その文末を「くだろう」に変えても、(例文 b)は適格文になる。つまり、(例文 a)の文末の「くだろう」は、主節の文末の「くだろう」ではなく、前件と後件を合わせた文全体を「だろう」と推量しているのであると考えられる。

注 6 「命令・禁止のムード」を表す形式は、『日本語教育事典』(一九八二～一九六〇～一九七〇)を参考にした。

注 7 近藤泰弘(一九八八)、「逆接」山口明穂編『研究資料日本古典文学(一)文法』、明治書院、pp. 214～215 参照

注 8 渡辺実(二〇〇一)、『さすが！日本語』、筑摩書房、p. 34 参照

第七章 「とはいえ」構文の意味・用法について

一 はじめに

日本語の接続表現は大変数が多く、その意味・用法がよく似ているものもある。逆接続助詞の場合だけでも、「が、けれども、のに、ものの、つつ（も）、ながら（も）、とはいえ」などのような類似表現がある。このような類似表現の使い分けの研究は日本語教育において重要な課題である。

(一) 大学で古典を専攻したとはいえ、源氏物語もろくに読めない。
(横林宙世一九八八…六三)

(二) で、「とはいえ」は、従属節の事柄「大学で古典を専攻した」と主節の事柄「源氏物語もろくに読めない」を繋ぎ合わせる役割をしている。つまり、「とはいえ」は接続助詞のように用いられている。

この「とはいえ」は新聞、雑誌、文学作品など、主に書き言葉としてよく使われている接続表現であるが、これについての研究はあまり行われていないようである。

そこで、本稿では接続表現「とはいえ」の意味・用法について考察することにする。

二 「とはいえ」節の述語と形態的特徴

接続表現に上接する語句には、その接続助詞ごとに制約が見られる。「とはいえ」に上接する要素について調べてみることにする。

二・一 述語の種類と活用形

(二)建設は公共事業の追い風があるとはいえ、民間建設需要の低迷で受注高が伸び悩んでいる。

(日経新聞「以下、日経」、910929)

(三)途上国の(二酸化炭素)排出量は相対的に少ないとはいえ、経済発展を促すには、一次エネルギー消費を増大せざるを得ない状況にある。

(朝日新聞「以下、朝日」、910614)

(四)いくら人間が愚かだとはいえ、バブル経済を再現してはならない。(産経新聞「以下、産経」、920202)

(五)人間の食行動はもつと複雑だとはいえ、ある程度は同じ傾向があるはずだ。

(毎日新聞「以下、毎日」、950419)

(六)留学生問題が重要案件であるとはいえ、他の文教予算を犠牲にするのは同省にとつて痛しかゆしだ。

(日経、880818)

(二〜六)のように、「とはいえ」は、「ある、少ない、愚かだ、複雑だ、重要用件である」に接続している。つまり、「とはいえ」は、「動詞・形容詞・形容動詞・判定詞^(注1)」の終止形に接続することができる。

二・二 テンスとアスペクト

日本語のテンスとアスペクトはいろいろな形式がある^(注2)。テンスの形には「基本形とタ形」があるが、日本語のアスペクトの形式には、「動詞のテ形+いる、ある、しまう、いく、くる」のような形式、「動詞の連用

形十はじめる、つづける、おわる」のような複合動詞の形式、「基本形十ところだ」、「タ形十ところだ、ばかりだ」、「動詞の連用形十つつある」など、のようなものがある。「とはいえ」節に現れるテンスとアスペクトの要素について調べてみることにする。

(七)二〇〇〇年ハノーバー国際博覧会を開催中のドイツ・ハノーバー市。予想を大幅に下回るとはいえ、博覧会を目当てに国内外から多くの人が会場や市内を訪れている。
(朝日、001004)

(八)現に、東京特別区では無所属議員は増えたとはいえ、公明、共産党を下回り、自民の三分の一にとどまっている。
(毎日、950427)

(九)(二酸化炭素排出規制)石油資本が抵抗しているとはいえ、国際政治は環境保護産業の育成に向かっている。
(毎日、950408)

(一〇)IRの専任担当者を置く企業が増えてきたとはいえ、「アイアール」は日本ではまだ新しい概念だ。
(日経、950630)

(一一)(公的資金の導入)総論について世論が賛成に回りつつあるとは言え、具体論においては世論の感じはまだまだほとんどつかめていない。
(毎日、950629)

(七)(一一)のように、「とはいえ」が、テンスの基本形とタ形に接続する例は多かった。しかし、「とはいえ」節に現れるアスペクトは「ている・てくる・つつある」のような限られた例文しか見当たらなかった。

二・三 ムード

日本語のモードには、「確言、否定、命令、禁止、許可、依頼、当為、意志・申し出・勧誘、概言、説明、願望、比況、疑問」のようなものがある^(註3)。「とはいえ」節に現れるモードの要素について調べてみることにする。

(一二)建設は公共事業の追い風がある^(註4)とはいえ、民間建設需要の低迷で受注高が伸び悩んでいる。

(日経、910929)

(一三)(カツオの輸入量)国内のもの一割にも満たない^(註5)とはいえ、前年の八倍という大きな伸びとなっている。

(朝日、920125)

(一四)(〇〇大学の入試ミス)学部は自治は尊重されるべき^(註6)だ^(註7)とはいえ、責任所在はどこにあるのか。

(朝日、010703)

(一二)のように、「とはいえ」が「確言」のモードに接続する例は多かった。(一三・一四)のように、「とはいえ」が「否定」の「ない」と「当為」の「べきだ」に接続するのは稀であった。しかし、「とはいえ」が「命令、禁止、許可、依頼、意志・申し出・勧誘、概言、説明、願望、比況、疑問」のようなモードに接続する実例は見つからなかった。「とはいえ」は、非常に限られたモード表現にしか接続しないと考えられる。

二・四 その他の要素

「とはいえ」が接続する要素には、テンス、アスペクト、モードのような要素以外にも名詞、助詞など、いろいろなものがある。

(一五) 今、学校で古典を習っている。文語体とはいえ、今の日本語とほとんど違う。

(毎日、950712)

(一六) (阿片) 専売によって国庫収入をはかるためとはいえ、お話にならない高価なのだ。

(人民は弱し官吏は強し、 p. 19)

(一七) しかしながら政争に負けた長井利隆は、所領、地域こそそのままとはいえ、この加納城で、鬱々とくらしているのである。
(国盗り物語・一、 p. 228)

(一八) もっとも、不法移民を生み出すのはメキシコ政府の失政が原因だし、干ばつも天候のせいとはいえ、これまで地方と農民を軽視してきたツケが被害を大きくしているといえるだろう。
(毎日、950526)

(一九) それにしても、いくら気のぬける郷里の友人にとはいえ、彼がこういうことを言ったというのは、ちょっと不思議な気がするが、――
(山本五十六、 p. 35)

(二〇) 「漢の国土に対する愛情」を失わぬ不屈な行動人蘇武に对照して、やむを得ぬ周囲の状況からとはいえ、士人としての面目を捨て、却って胡土に生きる勇士であるが、情情的に弱い李陵の動揺する心理が追求される。
(李陵 / 山月記・解説、 p. 178)

(二一) (ASEAN 外相会議) 今年は特に、ベトナムが米国と国交正常化を果たし、ミャンマーもアウン・サン・スー・チーさんの軟禁解除で少しずつとはいえ、民主化を強めるなど、――
(毎日 950723)

(二二) 確かに今回、与党三党はぎりぎりとはいえ、一応改選議席の過半数を確保した。
(毎日、950725)

(二三) しかし、フランスの習慣に従ったまでとはいえ、彼(ミラン・クンデラ)がいつも私のことを、手紙やフックスで「親しい友」とか「親愛なるヨシナリ」などと呼んでくれるので、それに甘えて、ここでは一時的に、わが友ということにさせていただく。
(日経、950704)

(二四)いくら夜遊び続きで疲れているからとはいえ、こんな時に欠伸ができる「彼」の神経に驚いたのだ。

(エディプスの恋人、p.211)

(二五)は、「とはいえ」が「名詞」に接続する例であり、(二六―二八)の場合は、「ため、まま、せい」のような「形式名詞」に接続する例である。また、「とはいえ」は、(一九・二〇)の「に、から」のような「格助詞」、(二二)の「ずつ」のような「副助詞」、(二三)の「ぎりぎり」のような「副詞」などにも接続している。それに、(二三・二四)の「まで・から」のような「接続表現」にも接続する。

このように、「とはいえ」は、「テンス、アスペクト、ムード」の他にも、「名詞、形式名詞、格助詞、副助詞、接続助詞、副詞」など、いろいろな語句に接続する。

三 「とはいえ」構文の主節の文末表現

接続助詞が従属節と主節を繋ぎ合わせる時、従属節だけでなく「主節の文末表現」にも制約が見られる。接続助詞によって、「主節の文末表現」が制約される現象は、その接続助詞の文法的な特徴によるものであると考えられる。

「とはいえ」構文の「主節の文末」に現れる「テンス、アスペクト、ムード、終助詞」などの表現について調べてみることにする。

三・一 テンスとアスペクト

(二五) 中断している日朝国交正常化交渉の再開に向けた環境が整うとはいえ、国交正常化交渉本番へ課題を残した。
(日経、950630)

(二六) (二酸化炭素排出規制) 石油資本が抵抗しているとはいえ、国際政治は環境保護産業の育成に向かっている。
(毎日、950408)

(二七) (日系人の雇用) だが、一方で同じ日本人の血がひくとはいえ、違う社会で育った日系人を受け入れることは、中部圏の国際化に大きなインパクトを与えつつある。
(日経、920206)

(二五～二七)のように、「とはいえ」構文の主節の文末にはテンスの「た」、アスペクトの「ている、つつある」が現れている。しかし、「とはいえ」構文の文末に現れるアスペクトの諸形式の中でも、「ている、つつある」など、限られたアスペクトの用例しか見つからなかった。

三・二 ムード

三・二・一 確言(断定)と否定

(二八) (水田維持にひと役) 牛どん安売りなどで回復の兆しもあるとはいえ、もっと増やそうと、安価な原料米の提供や、製粉設備の整備助成など、食糧庁は米粉によるパン製造の支援を進める (朝日、010730)

(二九) いくら I T 産業が今しぼんできたとはいえ、金融だけでなく、ほとんどの産業にまでコンピュータは浸透した。
(朝日、020723)

(三〇) まだ数少ないとはいえ、日本人の野球選手たちが言葉などのハンディを乗り越えて、アメリカ国内で活

躍していることは喜ばしい。

(朝日、020405)

(三二) I Rの専任担当者を置く企業が増えてきたとはいえ、「アイアール」は日本ではまだ新しい概念だ。

(日経、950630)

(三三) (公的資金の導入) 総論について世論が賛成に回りつつあるとは言え、具体論においては世論の感じはまだまだほとんどつかめていない。

(毎日、950629)

「確言」のムードは、述語の基本形、タ形によって表される。(二八～三一)の「進める、浸透した、喜ばしい、概念だ」は「確言」であり、(三二)は「くない」は否定である。

三・二・二 命令と禁止

(三三) 金持ちと結婚したとはいえ、愛は大切にしない。

(市川保子二〇〇〇：一七)

(三四) いくら人間が愚かだとはいえ、バブル経済を再現してはならない。

(産経、920202)

「くなさい」は「動詞の連用形+なさい」の形式で命令を表わしているし、「くてならない」は、「動詞のテ形+「は」+ならない」の形式で禁止を表わしている。

(三三・三四)のように、「とはいえ」構文の主節の文末には、命令の「なさい」、禁止の「てはならない」のような表現が現れた。しかし、「動詞の命令形」による命令表現と「終助詞『な』」による禁止表現などが、「とはいえ」構文の主節の文末に現れる実例は見つからなかった。

三・二・三 当為

(三五)劣化ウラン弾が小量とはいえ、人体に影響を及ぼすのなら、こうした武器は廃絶されるべきだ。

(毎日、020530)

(三六)共同声明を出すところまでいかず、前途は厳しいとはいえ、カンボジア国民や隣接するタイの住民の不安を根本的に取り除くために自主解決への歩みは、関係国すべてが大切にせねばならない。

(読売、881207)

「当為のムード」を表わすものには、いろいろな語句がある(註4)が、(三五・三六)の「とはいえ」構文には、「べきだ、なければならぬ」のような当為の表現が現れた。このように、「とはいえ」構文の文末には「当為のムード」のいろいろなものの中でも殆どの語句が現れた。

三・二・四 概言(推量)

(三七)立ち直ったとはいえ、将来も、彼が私の夢の対象になり得ることは決してないだろう。

(冬の旅、p.512)

(三八)(任天堂のシアトル・マリナーズ買収)時間的に制約があったとはいえ、早く公表してしまつたこの買収話の今後は大変であろう。

(読売、920125)

(三九)五郎様、六郎様が、いかに政道に不満ありとはいえ、他国の兵を導きよせてくるような不忠はなさるまい。

(国盗り物語・二、p.215)

(四〇)(株主総会)特定日に集中する傾向は依然根強いとはいえ、「株主重視」の姿勢から集中日を外す傾向は

強まりつつあるようだ。

(毎日、010616)

(四一) テロの翌日は、一日家に籠もっていた。直接の被害を受けていないとはいえ、やはり気付かないうちにかなりのストレスを感じていたらしい。

(朝日、010924)

(四二) (万博主会場) 環境問題に揺れ、大幅に縮小したとはいえ、「自然の叡智(えいち)のテーマを具現化する象徴的な会場」とするはずだった。

(朝日、001121)

(四三) 全体像が描かれていないとはいえ、一連の水俣病訴訟での初の和解案で、同高裁同様に和解を勧告した東京、熊本両地域などの協議にも大きな影響を与えそうだ。

(産経、920206)

(四四) 天下に英雄豪傑が雲のごとくむらがり出ているとはいえ、信長ほど端的で率直に天下統一の野望を持っている男はあるいはいないかもしれない。

(国盗り物語・四、p. 7)

「とはいえ」構文の主節の文末には、(三七〇三九)のように推量の「だろう(であろう)、まい」、(四〇〇四二)のように推定の「ようだ、らしい、はずだ」、(四三〇)のように様態の「そうだ」、(四四〇)のように可能性の「かもしれない」など、いろいろな概言のムードが現れた。

三・二・五 説明と願望

(四五) (土屋さん) 参院議員の任期を三年も残して渡ろうとする危ない橋。議長を務め上げて党最高顧問になつたとはいえ、党政治の中枢にいるわけではない。

(毎日、920125)

(四六) 自分の専門外であるとはいえ、彼が服用させた麻酔薬が招いた結果を彼はまだ手を束ねて見ていたのだ。

(華岡青洲の妻、p. 191)

(四七) (国連の人種隔離政策の指弾決議) 総会決議に強制力はないとはいえ、この決議を、経済大国日本が国際社会での行動をどう律してゆくべきかを考えさせるものとして謙虚に受け止めたい。

(読売新聞「以下、読売」、881207)

(四八) 象徴的存在とはいえ、元国王 (アフガニスタンのザヒル・シャー) はカルザイ議長とともに新国家建設に貢献してほしい。
(産経、020528)

「とはいえ」構文には、(四五・四六)の「わけではない、のだ」は「説明」の表現であり、(四七・四八)の「たい・てほしい」は「願望」の表現である。「とはいえ」の主節の文末には「説明・願望」のような表現が現れる。

「三・二」のように、「とはいえ」構文の主節の文末表現には、「確言、否定、命令、禁止、当為、概言、説明、願望」などは現れるが、「許可、依頼、意志、申し出、勧誘、比況、疑問」などのような表現の実例は見つからなかった。

三・三 終助詞

(四九) まだ試合をしていないとはいえ、そのあこがれのアメリカに行つてすごさとか感じたことはありませんか。
(朝日、010718)

(五〇) この作品は編集盤とはいえ、久しぶりにあたらしいAOR路線の作品ですね。
(産経、020528)

(五一) なにやら面映(おもは)ゆいな。おぬしはいかに物持とはいえ、そのように気を使つてもらわずともよい

ぞ。

(五二) それにしても、いくら診察とはいえ、若いお医者さまに漆頭など抑えこまれて開かされたんじやかない
ませんよね。
(花埋み、p. 59)

(国盗り物語・一、p. 238)

「とはいえ」構文の文末には、「ムード」のような要素以外にも、(四九く五二)のように、終助詞「か、ね、ぞ、よ」も現れた。

「二と三」での、「とはいえ」に上接する従属節の文法的要素と、「とはいえ」構文の文末の文法的要素を
まとめて図示すると、次のようである(註5)。

〈表〉

文法要素	従属節	主節
テンス	○	○
アスペクト	○	○
確信	○	○
否定	○	○
命令	×	○
禁止	×	○
当為	△	○
概言	×	○
説明	×	○
願望	×	○
終助詞	×	○

四 「とはいえ」構文の意味と用法

四・一 逆接

四・一・一 肯定と否定の対立による逆接

(五三) 大学で古典を専攻したとはいえ、源氏物語もろくに読めない。

(横林宙世一九八八・六三)

(五四) (公的資金の導入)総論について世論が賛成に回りつつあるとは言え、具体論においては世論の感じはまだほとんどつかめていない。

(毎日、950629)

(五五) 意図を悟ったとはいえ、七瀬は、実際に「彼女」がどうやって自分と入れ替えろうとしているのか迄には考え及ばなかったのだ。

(エディプスの恋人 p.238)

(五六) (カツオの輸入量)国内のものの一割にも満たないとはいえ、前年の八倍という大きな伸びとなっている。

(朝日、920125)

(五三) (五五)の場合、従属節の事柄「古典を専攻する、世論が賛成に回る、「意図を悟る」と、主節の事柄「源氏物語も読めない、感じはつかめていない、考えが及ばない」は、それぞれ肯定と否定が対立するものである。また、(五六)の場合、従属節の事柄「一割にも満たない」と、主節の事柄「大きな伸びとなっている」は、否定と肯定が対立している。

このように、従属節の事柄と主節の事柄が「肯定と否定」、または「否定と肯定」に対立していると、その

「とはいえ」構文の意味関係は逆接になる。

四・一・二 意味的対立による逆接

(五七) 駐妻は日本から離れているので、面倒な親戚付き合いや、冠婚葬祭から開放されてかなり気楽に生活しているとはいえ、悩みもあります。英語の悩みは、……
(朝日、011201)

(五七)では、従属節と主節の関係は、「かなり気楽に生活しているなら、悩みはない」というようになっているのが、一般的に認められた因果関係である。しかし、(五九)の場合は、従属節と主節の関係は、「かなり気楽に生活しているが、悩みもある」のように、一般的に認められた因果関係と合致しないことが生じたので、逆接である(注6)。

(五八)二人に一人までに普及した携帯電話は、契約数の伸び率がやや落ちたとはいえ、ITビジネスの花形であることに変わりはない。
(朝日、020212)

(五九)(米企業の人員削減数)二月は前月比で大幅減だったとはいえ、「雇用環境が好転したと言いつつ」という。
(日経、020530)

(五八)での従属節の事柄「携帯電話の」契約数の伸び率がやや落ちる」と主節の事柄「ITビジネスの花形である」、(五九)での従属節の事柄「人員削減数が大幅減である」と主節の事柄「雇用環境が好転したと言いつつ」、のようなことも、それぞれ従属節と主節の関係が一般的に認められた因果関係ではない。従って、(五

八・五九)の「とはいえ」構文は従属節と主節の間の関係が矛盾を示すもので、逆接を表している。

四・二 不充分

(六〇)現に、東京特別区では無所属議員は増えたとはいえ、公明、共産党を下回り、自民党の三分の一にとどまっている。
(毎日、950427)

(六一)(新潟県)大学や短大への進学率は三六・四%で、なんと全国二十八位。下から二番目の四十六位だった九十二年の約一・五倍に増えたとはいえ、全国平均の四五・一%にも遠く及ばないではないか。

(朝日、020531)

(六二)(ウフィッツイ美術館の所蔵品のデジタル化)「もちろん、いくらデジタルの技術が進んだとはいえ、本物の価値には及びません。」大阪大学サイバーメディアセンター長の西尾章治郎教授は、そう語る。

(朝日、020215)

(六三)(日本の出生率、二〇〇〇年に一・三五と前年を〇・〇一上回る)過去最低となった前年を上回ったとはいえ、過去二番目に低い数値。
(毎日、010620)

(六〇)の「とはいえ」構文の場合、「東京特別区では無所属議員は増えた」という従属節の事柄に対する評価は、予想していたことを認めてはいるが、「公明、共産党を下回り、自民党の三分の一にとどまっている」という主節の事柄によって、予想値には及ばないことを表わしていると思われる。

(六一〜六三)でも、それぞれの従属節の事柄「新潟県の大学の進学率が増えた」、「美術品のデジタル化の技術が進んだ」、「日本の出生率が前年を上回った」のようなものに対する評価は、肯定的に認めてはいるが、

主節の事柄によって、その期待、または予想したことには及ばないことを表わしている。

(六〇～六三)の「とはいえ」節の語彙的特徴は、「増える、進む、上回る」のように、「好転」の意味を表わす動詞であり、その動詞は「タ形」で完了した結果状態を表わしている。

このように、(六〇～六三)の「とはいえ」構文は、好転した事柄の結果状態について、従属節では一応評価はしているものの、主節の条件によって、全般的にまだ予想値には及ばないという「不充分」の意味を表わすと考えられる。

四・三 補足

(六四)街に若者の姿が多いとはいえ、同 S・C (玉川高島屋ショッピングセンター)は顧客の五四%が四〇代以上(平成一二年五月調査)。若い世代の支持がもうひとつといえる。
(産経、010427)

(六五)まだ数少ないとはいえ、日本人の野球選手たちが言葉などのハンディを乗り越えて、アメリカ国内で活躍していることは喜ばしい。
(朝日、020405)

(六六)(能楽専門出版社の社長)能楽出版の家に生まれたとはいえ、つい三年前までは銀行員をしていた。
(産経、020528)

(六七)(〇年に起きた鳥取県西部地震)地理的条件などが異なるとはいえ、全壊が一〇万棟を超えた阪神との被害の差が専門家の間で注目を集めた。
(朝日、020310)

(六四)で「とはいえ」構文の場合は、主節の「同 S・C は顧客の五四%が四〇代以上(である)」という事柄に、従属節の「街に若者の姿が多い」という事柄を付け加える形となっている。(六五～六七)の場合もそれぞれ

の主節の事柄に、「まだ数少ない、能楽出版の家に生まれた、地理的条件などが異なる」、という従属節の事柄を補足している。

つまり、この補足の用法は、主節の事柄に従属節の事柄を補足することである。

四・四 題目・場面の説明

(六八) (ボクシング選手・アリ) フレイジャーに敗れ、ノートンに敗れたことがあるとはいえ、それはどちらも僅差の判定だった。 (一瞬の夏・上、p. 169)

(六九) (国連の人種隔離政策の指弾決議) 総会決議に強制力はないとはいえ、この決議を、経済大国日本が国際社会での行動をどう律してゆくべきかを考えさせるものとして謙虚に受け止めたい (読売、881207)

(七〇) また、城壁をめぐらせているとはいえ、その外側の東と西をトルコの大砲ではさまれた今、ガラタのジエノヴァ居留区も、安心してはいられなくなった。 (コンスタンティノープルの陥落、p. 156)

(七一) アームコー川崎製鉄、LTV-住友金属工業などの日米合弁事業は、もともと米産業界救済の色彩が強かったとはいえ、どこの合弁会社も業績は低迷が続いている。 (朝日、910614)

(六八) の場合、主節では題目「それ」が提示されて、その「題目」の説明に当たるものが「フレイジャーに敗れ、ノートンに敗れたことがある」のように、従属節に表われている。つまり、(六八) の「とはいえ」構文では、従属節の事柄は主節の「題目の説明」に当たると言える。

(六九〜七一) の場合は、主節の「この、どこ」という場面の説明に当たるものが、従属節での「国連総会、城壁、アームコー川崎製鉄・LTV-住友金属工業」のようなものである。この「題目・場面の説明」の用法

は、(六八〜七一)のように、主節では指示語で題目や場面を示すことになり、その題目や場面の説明が従属節に表われているものである。

五 「とはいえ」構文と副詞

五・一 副詞「いくら・いかに・たとえ」

(七二) いくら人生が残り少ないとはいえ、まったく眠らないでひと晩起きているわけにもいかない

(世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド、p. 263)

(七三) 海岸は近いのだ。それにいくら体力が消耗しているとはいえ、水泳にはかなり自信があった。

(楡家の人びと・下、p. 387)

(七四) いかに小さな姫だとはいえ、竹の中から見つけられるのだから、真竹では少々窮屈だろうと、それなりに理性的な結論を出したのだ。
(日経、950709)

(七五) いかに健全な経営だったとはいえ、銀行と無関係に今後の経営をつづけてゆくのは容易ではない。

(人民は弱し官吏は強し、p. 240)

(七六) たとえ知らなかったとはいえ、会社の持ち物であるマンションを担保に五百五円もの借金をし、それを親類が使っていたとなったら、必ずや責任を取って辞職すると言い出すのは目に見えている。

(女社長に乾杯!・下、p. 27)

(七七) たとえ顔みしりだとはいえ、何時何分という局限された特定の時間に男女を一緒に歩かせるような細工を、どうしてあらかじめ工作することができたか。
(点と線・解説、p. 233)

(七二〜七七)は、「とはいえ」構文の従属節に、「いくら・いかに・たとえ」のような副詞が現れる場合である。「とはいえ」構文と副詞「いくら・いかに・たとえ」はよくなじむ。(七二〜七七)の「とはいえ」構文で、副詞「いくら・いかに・たとえ」によって、従属節の事柄と主節の間の事柄の矛盾関係はより強くなると思われる。「いくら・いかに・たとえ」の共通的な意味特徴は、強調の意を表すことである。(七二〜七七)のように、「とはいえ」節の副詞「いくら・いかに・たとえ」によって、その従属節の事柄は強調されると考えられる。この場合、副詞「いくら・いかに・たとえ」によって、従属節と主節の間の関係は、逆接の色合いがさらに強くなるだろう。

「いくら・いかに・たとえ」の共通的な構文特徴は、仮定逆接条件を示す「〜ても」とよくなじむことである。次のように、(七二〜七七)の「とはいえ」構文で、「とはいえ」を「〜ても」に入れ替えても、

(七二) a・いくら人生が残り少なくても、まったく眠らないでひと晩起きているわけにもいかない。

(七三) a・海岸は近いのだ。それにいくら体力が消耗していても、水泳にはかなり自信があった。

(七四) a・いかに小さな姫でも、竹の中から見つけれられるのだから、真竹では少々窮屈だろうと、それなりに理性的な結論を出したのだ。

(七五) a・いかに健全な経営であっても、銀行と無関係に今後の経営をつづけてゆくのは容易ではない。

(七六) a・たとえ知らなかったとしても、会社の持ち物であるマンションを担保に五百五円もの借金をし、それを親類が使っていたとなったら、必ずや責任を取って辞職すると言い出すのは目に見えている。

(七七) a・たとえ顔みしりでも、何時何分という局限された特定の時間に男女を一緒に歩かせるような細工を、

どうしてあらかじめ工作することができたか。

(七二a～七七a)のように、適格文になる。このことからわかるように、(七二～七七)の「とはいえ」構文の意味は仮定逆接条件の意味を表わしている。

従って、「とはいえ」構文は、確定逆接条件の意味と仮定逆接条件の意味が重なり合うところの接続表現であると考えられる。

五・二 その他の副詞

(七八)まだ数少ないとはいえ、日本人の野球選手たちが言葉などのハンディを乗り越えて、アメリカ国内で活躍していることは喜ばしい。(朝日、020405)

(七九)地方自治体の役場の中の電子化については、まだまだ紙を使った伝達や会議が多いとはいえ、コンピュータやLANが整備され、それらを使って業務を行うようになっています。(朝日、020531)

(八〇)わずか七ヶ月前であったとはいえ、この家のあるじだったのはひどく昔のように思える。(国盗り物語・一、p. 281)

(八一)あんなに唐突に生まれた想念であったとはいえ、金閣を焼くという考えは、仕立卸しの洋服か何ぞのよ
うに、つくづくびったりと私の身についた。(金閣寺、p. 215)

(七八～八〇)の場合は、「まだ・まだまだ・わずか」のように、マイナス評価を表す副詞が用いられている。
(八一)の「あんなに」は事柄の強調を表わしている。「まだ・まだまだ・わずか・あんなに」のような語句が

使われることによって、逆接の意味がより明瞭になると思われる。

六 まとめ

「とはいえ」構文の意味・用法について考察したことをまとめてみると、次のようになる。

(一) 「とはいえ」の従属節には、「テンス、アスペクト」と「確言、否定」のようなムードは現れるが、「とはいえ」が「疑問、命令、禁止、依頼、意志、勧誘、願望、概言、説明、比況」のようなムードに接続する実例は見つからなかった。「とはいえ」は、非常に限られたムード表現にしか接続しないと考えられる。また、「とはいえ」は、「名詞、形式名詞、格助詞、副助詞、接続助詞、副詞」など、いろいろな語句にも接続する。

(二) 「とはいえ」構文の主節の文末表現には、「確言、否定、命令、禁止、当為、概言、説明、願望」などは現れるが、「許可、依頼、意志、申し出、勧誘、比況、疑問」などのような表現の実例は見つからなかった。

(三) 「とはいえ」構文の意味を、「逆接、不充分、補足、場面・題目の説明」などのように分けてみた。「逆接」は、他の逆接続表現同様、従属節の事柄と主節の事柄が、肯定と否定で対立するか、または意味的に対立すると、「とはいえ」節は逆接の意味になる。「とはいえ」節の「不充分」は、好転した事柄の結果状態について、従属節では一応評価はしているものの、主節の条件によって、全般的にまだ予想値に及ばないということを表している。「とはいえ」節の「補足」の場合は、主節の事柄に従属節の事柄を補足する用法である。また、「題目・場面の説明」は、主節では指示語で題目や場面を示して、その題目や場面の

説明が従属節に表われていることである。

(四)副詞「いくら、いかに、たとえ」などは、「とはいえ」節と良くなじむ。「いくら、いかに、たとえ」によって、「とはいえ」節の仮定逆接の意味がより明瞭になる。

(注)

注1 渡辺 実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房、pp. 408～410 参照

「桜だ。、桜だろう。、桜らしい。、これも桜かね?、これも桜さ。」のように、名詞と結合して述語を作る「だ、らしい、だろう、か、さ」などが「判定詞」である。

・「桜である。、桜です」の「である、です」も名詞述語を作るので、判定詞であると考えられる。

注2 益岡隆志・田窪行則(一九九三)、『基礎日本語文法(改訂版)』、くろしお出版、pp. 108～116 参照

注3 日本語のムードは 益岡隆志・田窪行則(一九九三)の分類 (pp. 117～144)を参照した。

注4 益岡隆志・田窪行則(一九九三)、『基礎日本語文法(改訂版)』、くろしお出版、p. 122 参照

・「当為のムード」を表わすものには、「べきだ、ものだ、ことだ、のだ、なければならぬ、なくてはいけない、ないといけない、ほうがいい」のような語句がある。

注5 当為のムードの中で、「とはいえ」節が接続するものには、本稿の例文(13)の「べきだ」のような、一例しか見られなかったもので、図表の「従属節の当為」には△印をした。

注6 近藤泰弘(一九八八)、「逆接」山口明穂他編『研究資料日本古典文学・(一一)文法』、明治書院、p. 21
4 参照。

近藤泰弘は逆接を、「ある条件によって結ばれている二つの事態の間の関係が、一般に認められた因果関係と合致しない時に、この条件は逆接であると言える」としている。本稿の「逆接」も近藤の定義に従うことにする。

結論

本論文は日本語の接続表現の全般について考察し、これを基にして、それぞれの日本語の逆接続助詞の意味と用法について記述した。これまで考察したことをまとめると、次のようである。

第一章では、日本語の接続表現の体系的な研究をするために、「接続の概念」と「連用形・並列助詞・接続助詞・接続詞・体言の形式化による接続」などの接続表現の全般について考察した。

(1)まず、「接続・接続語・接続成分・接続表現」という用語の概念を確かめてみた。

本稿の接続は、「語と語・句と句・文と文・文章と文章」などをつなぎ合わせる時の「接続」である。「接続助詞・接続詞」のような品詞に対して、接続語という名称を用いた。「連用形・接続助詞・並列助詞・接続詞」などによる表現に対して、「接続成分」または「接続表現」という名称を用いているが、接続成分とは構文論的な観点の用語である。

(2)用言の活用形（連用形）による接続表現には、典型的並列と継起的並列があるが、互いに連続しているも

のである。特徴としては、典型的並列の場合は、先行要素と後行要素の独立性が強くて、前後の要素を入れ替えてもいいが、継起的並列の場合は、先行要素と後行要素の独立性が弱くて、前後の要素を入れ替えることが出来ない。

(3) 日本語の並列助詞の分類は、主に意味的な観点によって分類しているが、構文的な観点によっても、「並列要素の形態（①体言であるか、②「体言＋格助詞」であるか、③用言であるか）」と「最後の並列助詞の現象（④無形化になるかどうか、⑤有形無実化になるかどうか）」という五つの言語現象を基準として、日本語の並列助詞の分類を試みた。その結果、「Ⅰ類（と、なり）」・「Ⅱ類（とか、か、だの、やら）」・「Ⅲ類（や、の、に）」の三つの類に分類することができた。例えば、「とか」の場合は①⑤のすべての基準を満たしているので、Ⅰ類に所属させたのである。

(4) 「日本語の接続助詞の分類」はどの学者も大抵同じことであつた。接続助詞の下位分類の場合は、意味的な観点によって、「順接仮定、順接確定、逆接仮定、逆接確定」という四つの共通的な項目に、「順接並置・逆接並置」、または「時間的接続・単純接続」などを付け加えることが提案されている。日本語教育という観点で、日本語の接続助詞の分類を再構成してみると、「①順接仮定（たら・と・なら・ば）、②順接確定（から・ので）、③逆接仮定（ても）、④逆接確定（が・けれども・のに）」、「⑤時間的接続（てから・ながら）」、

「⑥単純接続(し・て)」、のように六つの項目に分類した方が、日本語教育に適用しやすいと考えられる。

(5) 日本語の接続詞に関する学説には、「詞」に所属させる場合、「辞」に所属させる場合、副詞として認める場合があった。意味的な観点による日本語の接続詞の分類は、どの学者も、殆ど「順接・逆接・同列・補足・添加・対比・転換」というような項目に分類していた。また、日本語の接続詞は、「語と語、句と句、文と文、連文と連文、文章と文章」という五つの要素の中で、一つの要素だけをつなぎ合わせる接続詞もあれば、二つまたは、三つ以上の要素をつなぎ合わせる接続詞もある。このようなことは、接続詞ごとに、既に「接続範囲」が決まっているからであると思う。このような「接続範囲」という観点で、日本語の接続詞の分類を試みた。

(6) 日本語の体言の中には、接続助詞のような役割をしているものがある。例えば、「こうなった以上、どうしようもない。」のような例文で、「以上」は接続助詞のような働きをしている。このようなことが「体言の形式化による接続表現」である。意味的な観点によって、体言の形式化による接続語の分類を試みた。その結果、「理由(結果)、逆接、添加、並列、対比(対比・交代)、前提(前提、例示)、限度(限定・程度)、付帯状況、時間(間・今・後)」の九つに分類してみた。特に、名詞が形式化して接続助詞的に用いられている語句の中では、「く間、く現在、く後、く今日、く際」など、「時間」の意味を表わすものが多かった。

第二章では、接続助詞「が」と「のに」の用法を比較して、それぞれの意味と用法の特徴を明らかにした。「が」の文末には話し手の主観的な表現が主節の文末に現れるが、「のに」構文の場合はそうではなかった。「が」の従属節には、過去・現在・未来の事柄を表わす時間表現が現れることができるが、「のに」の従属節には過去や現在の語句とは共起するが、未来の語句とは共起しにくいのであった。また、「が」構文は従属節と主節の独立性が高いが、「のに」構文は独立性が低い、というようなことも、それぞれの要素の特徴であると考える。

第三章では、接続表現「ものの」構文について、接続助詞「が」と比較しながら、その意味と用法を考察した。その結果、「が」の従属節には「ます体」や「ムードの表現」などが現れるが、「ものの」構文の場合は「ます体」や「ムードの表現」などは現れなかった。また、「ものの」構文の意味・用法は、「逆接、不充分、時間的推移、題目・場面の提示、補足、対比、状況の説明」などに分けてみた。

第四章では、「ながら」構文の意味と用法について検討してみた。

「ながら」構文の場合は、同時進行と逆接の用法があるが、「ながら」節の述語が「状態動詞、瞬間動詞、形容詞、形容動詞、判定詞」である場合や、「名詞・副詞＋ながら」の場合は、状態性の述語になるので、その「ながら」構文は、逆接に解釈される。特に、「ながら」節の述語が「形容詞、形容動詞、名詞、副詞」の場合は、「狭いながら、不満足な内容ながら」のように、その語句は主にマイナス評価を表す傾向がある。「ながら」節の動詞に「くっている」が付く場合、その述語は状態性の述語になるので、「くっているながら」構文は逆接に解

積される。また、「ながらも」構文の場合は、同時進行の用法はなく、逆接の意味だけを表わす。「ながら」構文は、同時進行に解釈される場合よりも、逆接に解釈される場合が多いことが分かった。

第五章は、「つつ(も)」構文について考察したものである。接続表現「つつ」構文は、「ながら」構文と同様、「同時進行」と「逆接」の両方に解釈される。また、「つつ(も)」に上接する述語には、動詞型述語の連用形だけであるという制約がある。「つつ」節の述語が継続動詞である場合は、同時進行と逆接の用法があるが、前件と後件の間の関係が互いに矛盾する場合は、逆接に解釈される。「つつ」節の動詞が瞬間動詞である場合は、時間的幅を持たないので、同時進行になることが出来ず、前件と後件の間の関係は逆接になる。また、「つつも」構文には、同時進行の用法はなく、取り立て助詞「も」によって前件と後件の事柄が対立するようになり、逆接に解釈される。

第六章では、「のに」の意味と用法について記述した。「のに」節に、「疑問・説明・命令・禁止・比況」のようなムードの表現があらわれる用例は見つからなかった。「のに」構文の意味は、主に「逆接、意外・不思議、不満・非難、感心(称賛・驚嘆)」などであった。特に、「不満・非難」の場合は、「のに」構文の事柄が、「自分のこと」であると、「不満」の度合いが強くなるし、「他人のこと」であると、「非難(批判)」の度合いが強くなる傾向があることがわかった。また、「感心」の場合は、「のに」構文の事柄が、「人に関する内容」であると、「称賛」の度合いが強くなるし、「物事に関する内容」であると、「感嘆」の度合いが強くなる傾向があった。また、「のに」の例文を調べてみた結果、接続助詞「のに」は、「せっかく、こんなに・あ

んなに、なぜ・どうして」のような表現とよくなじむ傾向があることがわかった。接続助詞「のに」が、このような表現と共起することによって、「のに」構文の「不満・非難」の意味合いが強調されることになる。「のに」構文の主節では、「残念・不満・憤慨・反発・批判・遺憾・異常・嘆く」などのような、マイナス評価の語彙がよく用いられていた。このようなことも、「のに」構文の意味合いの特徴を伺わせることであると考えられる。

第七章では、「とはいえ」の構文について、例文を分析して、その意味と用法の記述を行った。従属節には、「テンス、アスペクト」と「確言、否定」のようなムードは現れるが、「とはいえ」が「疑問、命令、禁止、依頼、意志、勧誘、願望、概言、説明、比況」のようなムードに接続する実例は見つからなかった。「とはいえ」節には、非常に限られたムード表現しか現われないと考えられる。また、「とはいえ」は、「名詞、形式名詞、格助詞、副助詞、接続助詞、副詞」など、いろいろな語句にも直接接続する。

また、「とはいえ」構文の主節の文末表現には、「確言、否定、命令、禁止、当為、概言、説明、願望」などは現れるが、「許可、依頼、意志、申し出、勧誘、比況、疑問」などのような表現の実例は見つからなかった。「とはいえ」構文の意味と用法を、「逆接、不充分、補足、場面・題目の説明」などのように分けてみた。特に、副詞「いくら、いかに、たとえ」などは、「とはいえ」節とよくなじむ。「いくら、いかに、たとえ」によって、「とはいえ」節の仮定逆接の意味がより明瞭になると考えられる。

本論文の特徴については三つのことが指摘できる。第一には、韓国語母語話者の目から見た日本語の接続表現の観察であり、その視点から見て不思議に思える日本語の接続現象を説明したいという動機に支えられているということである。第二には、日本語母語話者としての直観が働かないため、用例収集と分析を丹念に行うという手法に徹したことである。分析については、上接する語などの観察（品詞、形態、動詞の場合にはその種類、述語のアスペクト・テンスなどのカテゴリーを観察）を行うとともに、文末のムードの観察を行っている。その上で意味・用法の検討をし、細かい整理・分類をしている。第三には、日本語教育への応用を考えていることである。日本語教育では作文などで「のに」「が」「ものの」などの類義表現のうち、どれを使えばいいかという問題がある。さらに読解などで、ある一つの形（例えば「ながら」）がどちらの意味か（例えば同時進行なのか逆接なのかなどを）、解釈するとき、何を手掛かりに意味を確定するのかという問題がある。このような「類義表現の使い分け」や「適切な意味解釈」が可能になるように学習者を指導するとき、用例収集と分析によって得られた知見が役に立つのである。

これらの特徴から言える本論文の意義は、①韓国語母語話者が自国語との違いを意識しつつ用例収集と分析を行い、日本語研究上の知見を積み重ねたこと、②その記述をもとにした日本語教育への貢献が考えられること、ということである。

日本語教育において、日本語の類義表現の使い分けは、大きな課題の一つである。母語の話者は類義表現を

目的に応じて容易に使い分けることができ、外国人の場合は、その「類義表現」の文法的知識によって使い分けている。それゆえに、第二章から第七章までの逆接を表わす接続助詞「が・のに、ものの、ながら(も)、つつ(も)、のに、とはいえ」のような類義表現の研究は、日本語教育にも役に立つと思われる。最後に、日本語教育という観点から「が、のに、ものの、ながら(も)、つつ(も)、とはいえ」の研究の内容をまとめて、記述しておくことにする。

(1) 接続助詞が先行要素と後行要素を繋ぎ合わせる時、接続助詞によって「主節の文末表現の制限」が見られる。特に、「概言(推量)・希望・命令・当為」のような話し手の主観に基づく表現の場合、接続助詞によって、文末表現の違いが著しくなる。

「が」と「とはいえ」の場合は、「概言・希望・命令・当為」の表現のすべてが文末に現れる。しかし、「ものの」の文末には、「概言・当為」の表現は現れるが、「命令・希望」の表現は現れなかった。また、「のに」の文末には、「概言・希望・命令・当為」の中では、「概言」しか現れないが、その「概言」も証拠のある推定「ようだ・らしい・はずだ」だけであり、「だろう・まい・そうだ(様態)・う・よう」のようなものが現れる用例は見つかなかった。

このような結果になるのは、「が」と「とはいえ」の接続範囲が話し手の主観的な態度を表明しているところまで及ぶことができるからであると考えられる。これに対して、「のに」の接続範囲は話し手の主観的な態度を表明している表現までには及ばないことを表している。「ものの」の場合は「が・とはいえ」と「のに」の間に位置していると考えられる。

(2) 「のに」と「ものの」の従属節に「と(は)いう」のような引用句が現れる。これも主節の文末表現同様、状況を客観的に表現しようとする意図が含まれていると思う。特に、事柄を客観的に伝える場合は、「ものの」が多く使われていると考えられる。

(3) 「が・のに・ながら(も)」「は」、「書き言葉」と「話し言葉」の両方に用いられているが、「ものの・つつ(も)・とはいえ」は書き言葉的である。

(4) 「つつ」と「ながら」は、両方ともに「同時進行」と「逆接」の用法で用いられているが、「つつ」と「ながら」に上接する述語の種類と形態的特徴には大きな違いが見られる。

特に、日本語教育では、「ながら」の場合、実際の用例を分析してみると、「同時進行」の用法よりは「逆接」の用法に用いられているものが多いということを強調する必要がある。

(5) 「のに」節には、「せっかく」、「こんなに・あんなに」、「なぜ・どうして」などの語句が用いられており、「とはいえ」節には、副詞「いくら・いかに・たとえ」などがよく用いられている。このように、接続助詞と特定の語句との共起関係を把握することも、その接続助詞の用法を理解するのに良い資料になると思われる。

(6) 「のに」の意味は基本的には「意外性」を表しているが、主節の評価がマイナスである場合は、話し手の「不満・非難」を表し、主節の評価がプラスである場合は、「称賛・感嘆」を表している。特に、「のに」の用例を分析してみると、「不満・非難」を表す用例が多かった。このような用例分析の結果も日本語教育に役に立つと思われる。

今後の展望について述べておきたい。第一章での考察は、今後の接続表現研究の道標になるのではないかと考えられる。特に同じような分野の研究をする人に、この分野についての基盤を提供することができると思う。第二章から第七章までの逆接を表わす接続助詞「が・のに、ものの、ながら(も)、つつ(も)、のに、とはいえ」の研究は、類義表現の使い分けなどの点でこれからの日本語教育に役立つであろう。また、本論文の「つつ(も)、とはいえ」などの研究は、あまり研究されていないことなので、日本語文法研究にも参考になると思われる。なお、逆接を表わす接続詞に関する考察を今後の課題としたい。

参考文献

- 相原林司(一九八七)、「接続語句と文章の展開」『日本語学』(九月号)、明治書院
- 家田章子(二〇〇五)、「共起表現から見る『ノニ』文の用法」『日本語教育』(一二五)、日本語教育学会
- 石黒 圭(一九九九)、「逆接の基本的性格と表現価値」『国語学』(一九八)、日本国語学会
- 市川 孝(一九六八)、『文章表現法』、明治書院
- 市川 孝(一九七八)、『国語教育のための文章論概説』、教育出版
- 市川 孝(一九七九)、「文の連接」山口仲美編『論集日本語研究八・文章・文体』、有精堂
- 市川保子(一九九九)、「複文の発話における接続語の選択基準」『東京大学留学生センター紀要』(九)、東京大学留学生センター
- 市川保子(二〇〇〇)、「外国人学習者のための『接続語』使い分け分類表作成の試み(二)」『東京大学留学生センター紀要』(二〇)、東京大学留学生センター
- 伊藤 勲(一九八六)、「接続助詞『が』の用法」『日本語学校紀要』(二〇)、国際学友会
- 井上和子(一九七八)、『変形文法と日本語(下)』(三版)、大修館書店
- 今尾ゆき子(一九九四)、「『ケレド』と『ノニ』の談話機能」『世界の日本語教育』(四)、国際交流基金・日本語国際センター
- 今尾ゆき子(一九九四)、「条件表現各論 ガ・ケレドモ・ノニ・クセニ・テモ―談話語用論からの考察―」『日本語学』(二四六)、明治書院
- 岩澤治美(一九八五)、「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』(五六)、日本語教育学会
- 大野 晋・柴田 武編(一九七七)、『岩波講座日本語六・文法Ⅰ』、岩波書店

- 大野 晋・柴田 武編(一九七八)、『岩波講座日本語七』「文法Ⅱ」、岩波書店
- 奥田靖雄(一九八五)、『アスペクトの研究をめぐる』『ことばの研究・序説』、むぎ書房
- 奥津敬一郎(一九九〇)、『いわゆる日本語助詞の研究』、凡人社
- 小野原生子(一九八二)、『語の接続・何によって並列表現となるか』『日本文学』(第五十八号)、東京女子大学
- 紙谷栄治(一九八八)、『係助詞『も』について』『語文』(五〇)、大阪大学文学部国文学研究室
- 衣畑智秀(二〇〇三)、『ノニ、クセニ、ニモカカワラズ』『日本語文法』(三一)、日本語文法学会
- 北原保雄(一九八一)、『日本語の世界6・日本語の文法』、中央公論社
- 金勝漢(一九九一)、『日本語の接続助詞『が』『のに』の意味・用法をめぐる』『国文学論集』(二四)、上智大学国文学会
- 金勝漢(一九九三)、『일본어병렬접속에 관한 연구』『晚光朴熙泰教授停年退任記念論叢』、晚光朴熙泰教授停年退任記念論叢刊行委員会
- 金勝漢(一九九四)、『日本語の接続助詞『もの』の構文をめぐる』『済州大学校論文集』(三九)、済州大学校
- 金勝漢(一九九七)、『『ながら(も)』の意味・用法について』『人文学研究』(三三)、済州大学人文学研究所
- 金勝漢(一九九九)、『日本語の接続助詞『つつ(も)』の意味・用法について』『逆接を中心として』『人文学研究』(五)、済州大学校人文学研究所
- 金勝漢(二〇〇三)、『日本語の接続表現『とはいえ』構文の意味・用法について』『教育科学研究白鹿論叢』(五一)、済州大学校師範大学教育科学研究所

金勝漢(二〇〇五)、「日本語の接続助詞『のに』構文の意味・用法について」『言語学研究』(二〇一)、
濟州国際言語学会

金田一春彦(一九七六)、『日本語動詞のアスペクト』、むぎ書房

國廣哲彌(一九七八)、「時間接続表現の意味・意義素の分析」『国語と国文学』(五月特集号)、東京大学
語国文学会

國廣哲彌(一九八四)、『意味論の方法』、大修館

久野 暉(一九八一)、『日本文法研究』、大修館書店(八版)

熊野七絵(一九九九)、「『のに』で言いさす文」『広島大学留学生センター紀要』(九)、広島大学留学生セン
ター

江田すみれ(一九八五)、「逆接の『ながら』の意味と用法について」『TIT News』七八、早稲田大学語学教
育研究所

国立国語研究所(一九五二)、『現代語の助詞・助動詞・用法と実例』、秀英出版

此島正年(一九七三)、『国語助詞の研究』、桜楓社(再版)

此島正年(一九八一)、「接続助詞『もの』の語群」『湘南文学』(二五)、東海大学日本文学会

小松光三(一九八一)、「接続助詞の本質」『文学史研究』(二二)

近藤泰弘(一九八八)、「逆接」山口明穂他編『研究資料日本古典文学(二二)文法』、明治書院

才田いづみ(一九八〇)、「『のに』と『ても』」『アメリカ・カナダ十二大学連合・日本語研究センター紀要』
(二二)

阪倉篤義(一九七六)、『改稿日本文法の話』(四版)、教育出版株式会社

佐久間 鼎(一九八三)、『現代日本文法の研究』(復刊一版)、くろしお出版

- 佐久間まゆみ(一九八三)、「文の接続・現代文の解釈文法と連文論」、『日本語学』(九月号)、明治書院
- 佐治圭三(一九七〇)、「接続詞の分類」、『月刊文法』(二〇月号)、明治書院
- 佐藤恭子(一九八七)、「接続詞の分類について」、『名古屋学院大学外国語教育紀要』(二六)
- 佐藤喜代治編(一九七七)、『国語学研究事典』(初版二刷)、明治書院
- 佐藤 孝(一九七〇)、「接続詞ははたして必要か」、『月刊文法』(二〇月号)、明治書院
- 佐藤信夫(一九八三)、「逆説という修辞現象」中村明編『講座日本語の表現五・日本語のレトリック』、筑摩書房
- 進藤正邦(一九六九)、「接続語の問題」、『月刊文法』(一月号)、明治書院
- 鈴木一彦・林 巨樹編(一九七三)、『品詞別日本文法六』、明治書院
- 鈴木一彦・林 巨樹編(一九八四)、『研究資料日本文法④』、明治書院
- 鈴木重幸(一九七二)、『日本語文法・形態論』、むぎ書房
- 鈴木 忍(一九七八)、『文法一・助詞の諸問題一』、国際交流基金
- 砂川有里子(一九八八)、「引用文における場の二重性について」、『日本語学』(九月号)、明治書院
- 高橋 純(一九九六)、「『くつつある』について」、『日本語教育』(八九)、日本語教育学会
- 橘 豊(一九八七)、「『接続』研究の現在と問題点」、『日本語学』(九月号)、明治書院
- 田中 準(一九五六)、「日本語の接続法の特徴」、『言語生活』(第五二号)、筑摩書房
- 茅野直子他(一九八七)、『副詞』、荒竹出版
- 塚原鉄雄(一九六八)、「接続詞」、『月刊文法』(十一月創刊号)、明治書院
- 塚原鉄雄(一九六九)、「連接の論理・接続詞と接続助詞」、『月刊文法』(二二月号)、明治書院
- 塚原鉄雄(一九七〇)、「接続詞・その機能の特殊性」、『月刊文法』(二〇月号)、明治書院

塚原鉄雄(一九七九)、「論理的段落と修辭的段落」山口仲美編『論集日本語研究八、文章・文体』、有精堂
寺村秀夫(一九八四)、『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』、くろしお出版

寺村秀夫(日本国立国語研究所)(一九八二)、『日本語の文法(下)』、大蔵省印刷局

時枝誠記(一九五〇)、『日本文法口語篇』、岩波書店

名柄 迪(一九八七)、『形式名詞』、荒竹出版

中川良雄(一九八八)、『『ながら』の意味と機能・動作の『並列』を表す場合』、『研究論叢』(XXXI)、

京都外国語大学

中川裕志ほか(一九九三)、『『ながら』について議論しながら』、『第一〇回日本認知科学会発表論文集』、日

本認知科学会第一〇回大会

中里理子(一九九七)、『逆接確定条件の接続助詞「が・ノニ・モノノ・テモ・ニモカカワラズについて」』、『言

語文化と日本語教育』(二三)、お茶の水女子大学日本語文化学研究会

長田久男(一九八七)、『国語連文論』(第二刷)、和泉書院

中溝朋子(二〇〇二)、『ノニについて―接続助詞的用法と副詞的用法―』、『日本語教育』(一一四)、日本語教育

学会

西原鈴子(一九八五)、『逆接表現における三つのパターン』、『日本語教育』(五六号)、日本語教育学会

仁田義雄(一九八七)、『条件づけとその周辺』、『日本語学』(九月号)、明治書院

丹羽哲也(一九九八)、『逆接を表す接続助詞の諸相』、『人文研究』(五〇―一〇)、大阪市立大学文学部

盧顕松(一九八九)、『従属句における対者敬語』、『国語学・研究と資料』(第一三号)

橋本四郎(一九六七)、『接続助詞と接続詞』森岡健二他編『講座日本語の文法』(3・品詞各論)、明治書院

橋本進吉(一九四八)、『国語法研究』(橋本進吉博士著作集・第二卷)、岩波書店

- 橋本進吉(一九七八)、『助詞・助動詞の研究』(第六刷)、岩波書店
- 橋本進吉(一九七九)、『国文法体系論』(第一四刷)、岩波書店
- 畠 弘巳(一九八五)、『接続詞と文章の展開』『日本語教育』(五六号)、日本語教育学会
- 福島健作(一九九八)、『ツツアルに関する一考察』『日本語教育』(九七)、日本語教育学会
- 文化庁(一九七五)、『外国人のための基本語用例辞典』(第二版)、大蔵省印刷局
- 堀口和吉(一九八七)、『動詞の表す(継続)・(持続)・(ながら)をめぐって』『天理大学学報』(第三十九卷第一号)、天理大学学術研究会
- 益岡隆志・田窪行則(一九八九)、『基礎日本語文法』、くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則(一九九三)、『基礎日本語文法(改訂版)』、くろしお出版
- 松木正恵(一九九六)、『引用の形式をとる複合辞について』『学術研究(国語学・国文学編)』(四四)、早稲田大学教育学部
- 松田剛史(一九八二)、『並列法』『大谷女子大学紀要』(第一七号第一輯)、大谷女子大学
- 三上 章(一九八〇)、『現代語法序説』、くろしお出版
- 湊 吉正(一九七〇)、『接続詞の境界』『月刊文法』(二〇月号)、明治書院
- 南不二男(一九八二)、『現代日本語の構造』、大修館書店
- 宮地 裕(一九八三)、『二文の順接・逆接』『日本語学』(二二月号)、明治書院
- 森岡健二他(一九六七)、『講座・日本語の文法三』『品詞各論』、明治書院
- 森岡健二他(一九六七)、『文法指導の方法』『講座・日本語の文法四』、明治書院
- 森重 敏(一九五五)、『接続助詞の分類』『国語国文』(第二十四卷第二号)、京都大学国文学会
- 森田良行(一九八〇)、『基礎日本語一・二』、角川書店

森田良行(一九八七)、「文の接続と接続語」『日本語学』(九月号)、明治書院
安本美典(一九七〇)、「接続助詞『が』の文章心理学」『月刊文法』(九月号)、明治書院
山口明徳編(一九八七)、『国文法講座六』「時代と文法」、明治書院
山下明昭(一九九七)、「類議表現」―「の」にもかかわらず・けれど(も)・が」―『表現研究』(六五)、表現
学会

山田孝雄(一九三六)、『日本文法学概論』、宝文館出版
横林宙世・下村彰子(一九八八)、『接続の表現』、荒竹出版
渡辺 実(一九七一)、『国語構文論』、塙書房
渡辺 実(一九八四)、『国語文法論』、笠間書房
渡辺 実(二〇〇一)、『さすが! 日本語』、筑摩書房

辞典

沖森卓也他編(二〇〇三)、『ベネッセ表現読解国語辞典』、ベネッセコーポレーション
北原保雄他(一九八一)、『日本文法事典』、有精堂
金田一春彦他編(一九七八)、『学研国語大辞典』、学習研究社
国語学会編(一九八〇)、『国語学大辞典』、東京堂
日本語教育学会編(一九八二)、『日本語教育事典』、大修館書店
日本語教育学会編(二〇〇六)、『新版 日本語教育事典』、大修館書店
文化庁(一九七五)、『外国人のための基本語用例辞典』(第二版)、大蔵省印刷局
松村 明編(一九七二)、『日本文法大辞典』、明治書院

用例出典

- 読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞、産業経済新聞
『新潮文庫の100冊 CD-ROM版』、新潮社
『AERA(朝日新聞 WEEKLY)』、朝日新聞社
『天声人語』、朝日新聞論説委員室編、原書房
『現代語の助詞・助動詞・用法と実例』、国立国語研究所、秀英出版、一九五一
『接続の表現』、横林宙世・下村彰子、荒竹出版、一九八八
『形式名詞』、広田紀子他、荒竹出版、一九八七
『外国人のための基本語用例辞典』(第二版)、文化庁、大蔵省印刷局、一九七五
大岡昇平、『野火』(新潮文庫)、新潮社、一九五四
司馬遼太郎、『国盗り物語・一・四』(新潮文庫)、新潮社、一九七一
田辺聖子、『新源氏物語・上・中・下』(新潮文庫)、新潮社、一九八四
伊藤左千夫、『野菊の墓』(新潮文庫)、新潮社、一九五五
森鷗外、『高瀬船』(新潮文庫)、新潮社、一九六八
石川淳、『葦手』(新潮文庫)、新潮社、一九七〇
塩野七生、『コンスタンティノープルの陥落』(新潮文庫)、新潮社、一九九一
開高健、『パニック、裸の王様』(新潮文庫)、新潮社、一九六〇
有吉佐和子、『華岡青洲の妻』(新潮文庫)、新潮社、一九七〇
磯田光一、『解説』水上勉『雁の寺』(新潮文庫)、新潮社、一九六九

- 三木清、「個性について」『人生論ノート』（新潮文庫）、新潮社、一九五四
- 曾野綾子、『太郎物語・高校編』（新潮文庫）、新潮社、一九七九
- 福田宏年、「井上靖 人と作品」井上靖『あすなる物語』（新潮文庫）、新潮社、一九七四
- 野坂昭如、『ラーケンパルシート』（新潮文庫）、新潮社、一九七二
- 佐伯彰一、「解説」遠藤周作『沈黙』（新潮文庫）、新潮社、一九八一
- 柳田邦男、「解説」沢木耕太郎『一瞬の夏』（新潮文庫）、新潮社、一九八四
- 藤原正彦、『若き数学者のアメリカ』（新潮文庫）、新潮社、一九八一
- 夏目漱石、『こころ』（新潮文庫）、新潮社、一九五二
- 高野悦子、『二十歳の原点』（新潮文庫）、新潮社、一九七九
- 瀬沼茂樹、「解説」『李陵／山月記』中島敦（新潮文庫）、新潮社、一九六九
- 星新一、『人民は弱し 官吏は強し』（新潮文庫）、新潮社、一九七八
- 阿川弘之、『山本五十六』（新潮文庫）、新潮社、一九七三
- 立原正秋、『冬の旅』（新潮文庫）、新潮社、一九七一
- 渡辺淳一、『花埋み』（新潮文庫）、新潮社、一九七五
- 筒井康隆、『エディプスの恋人』（新潮文庫）、新潮社、一九八一
- 村上春樹、『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』（新潮文庫）、新潮社、一九八八
- 北杜夫、『楡家の人びと・下』（新潮文庫）、新潮社、一九七一
- 松本清張、『点と線』（新潮文庫）、新潮社、一九七一
- 赤川次郎、『女社長に乾杯！』（新潮文庫）、新潮社、一九八四
- 三島由紀夫、『金閣寺』（新潮文庫）、新潮社、一九八〇